

教室年報 2024

岩手医科大学医学部外科学講座

Iwate Medical University, School of Medicine
Department of Surgery: Annual Report 2024

巖刀会(外科学講座同門会)



外科学講座の歴史

本学は昭和3年、岩手医科大学の前身である岩手医学専門学校が設立され、昭和26年に学校法人岩手医科大学が発足するに至った。

外科学講座の歴史は古く昭和4年、副島鎮雄の教授就任まで遡る。その後、昭和5年に三宅徳三郎、昭和13年には永松之幹、そして昭和19年には瀬田孝一が教授に昇任した。昭和31年に外科学第一講座と名称を変え、瀬田は在任35年間にわたり当教室の基礎を築き、大きな発展をもたらした。

昭和54年の瀬田の退職後、同年東北大学第2外科助教授であった森昌造が教授に赴任。昭和61年に東北大学第2外科教授へ転任となるまで、疾患別のグループ制度を導入することで各分野の専門性を確立し、研究活動にも大きな躍進がみられた。

昭和62年6月に斎藤和好が外科・内科において初の母校出身の教授に昇任し、良き伝統と誠の医師としての真摯な態度を継承、内視鏡手術など外科学の更なる進歩に貢献した。

平成17年に斎藤の退職後、同年9月慶應義塾大学外科学専任講師であった若林剛が教授に就任、患者様を中心とした最良の治療が選択・実践可能な「チーム医療」を基盤として北東北での肝移植を実現した。

平成27年8月に同科准教授の佐々木章が教授に就任。肥満外科手術の指導的施設として国内外に情報を発信するとともに、各分野の内視鏡外科手術を中心とした患者様に低侵襲で良質な治療を提供できるよう研究、教育そして診療に取り組んでいます。

The collage displays various sections of the department's website. It includes a main navigation menu with links to Home, Examination, Hospital Information, Examination Team Introduction, Staff, and Contact Us. A central feature is a portrait of a doctor with the text '医師である前に誠の人間たれ' (Before being a doctor, be a sincere person). Other sections include 'Examination Guide' (診察案内) with a table of examination times, 'Examination Team Introduction' (診察チームの紹介) featuring a group photo, and 'For Patients' (患者さんへ) with information about the department's services and contact details. A QR code is also present for easy access to the homepage.

外科学講座の 広報活動

当科では我々が行っている医療を一般の方、あるいは医学生や研修医の先生をはじめとするさまざまな医療関係者の方にご理解をいただくために、ホームページの充実を図っております。最新医療をトピックスとして提供するとともに、スタッフのプロフィールも公開しております。「主治医の顔と人となり」を少しでもご理解していただくことで、良好な信頼関係を築く一助になることを期待しております。また、私どもが主催する市民公開講座や研究会等、各種イベントのご案内も随時更新しております。このホームページが、理想的な医療体制の実現に向けて、私どもと皆様をつなぐ架け橋となるよう願っております。

教室年報 (2024年)

岩手医科大学医学部外科学講座同門会

CONTENTS

巻頭言

教室年報2024 発刊にあたって 外科学講座教授 佐々木 章

特別寄稿

新理事長就任のご挨拶—地域医療における岩手医科大学の役割—
..... 岩手医科大学理事長 祖父江憲治

教室の今年1年

教室の一年 外科学講座教授 新田 浩幸
小児外科医療の今後を考えて 外科学講座准教授 鈴木 信
着任のご挨拶 外科学講座講師 井原 欣幸

012 外科学講座スタッフ紹介・日常風景

015 チーム紹介

上部消化管チーム／下部消化管チーム／肝胆膵・内分泌代謝外科チーム／
乳腺チーム／小児外科チーム／高度救命救急センター(救急・災害・総合医学講座 救急医学分野)

026 2024年診療状況

入院患者分類／手術件数／関連病院手術件数／
関連病院発表業績件数／外科専門医制度修練指定施設・関連施設／
日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 (認定施設)

028 新教室員紹介

須藤 佑介

029 表彰の栄誉

令和6年度岩手県医療貢献賞を受賞して (岩手県立中部病院) 吉田 徹
令和6年度岩手県医療貢献賞を受賞して (岩手県立千厩病院) 佐藤 一
第4回J-STAD (日本敗血症診断・治療研究会)
The 4th Presentation AWARDを受賞して 片桐 弘勝
日本栄養治療学会 (JSPEN) フェローシップ賞を受賞して 梅邑 晃
第22回日本ヘルニア学会学術集会 手術記録コンテストを受賞して 川島 到真
令和5年度臨床研修ベストティーチャーを受賞して 片桐 弘勝
令和5年度臨床研修ベストティーチャーを受賞して 棚橋 洋太
第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 論文賞を受賞して 小山 亮太
第54回胃外科・術後障害研究会 優秀演題賞を受賞して 棚橋 洋太
巖刀会学術賞を受賞して 熊谷 秀基

036 学位取得者 (博士)

学位論文報告 熊谷 秀基／大塚 観喜／口田 脩太

038 学会報告

第186回東北外科集談会 新田 浩幸
【海外学会報告】
The 5th meeting of Three East Asian countries Metabolic Surgery
(TEAMS) in Shanghaiに参加して 梅邑 晃
32nd international congress of the European Association for
Endoscopic Surgery (EAES)に参加して 菊地 晃司
The 18th Congress of the Korean Hernia Society and 2nd International
Symposium 2024 (KHS2024)に参加して 梅邑 晃
The 17th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic
Surgeons of Asia (ELSA)に参加して 梅邑 晃／武田 大樹
The 26th World Congress of the International Federation for the Surgery
of Obesity and Metabolic Disorders (IFSO)に参加して 梅邑 晃

043 新聞記事紹介

051 2024年アルバム紹介

059 関連病院だより

岩手県立二戸病院・岩手県立軽米病院・岩手県立久慈病院・盛岡赤十字病院・
盛岡市立病院・岩手県立釜石病院・岩手県立宮古病院・北上済生会病院・
岩手県立千厩病院・岩手県立江刺病院・函館五稜郭病院・能代厚生医療センター・
八戸赤十字病院・かつの厚生病院

069 開業紹介

071 外科紹介医療機関

075 研究業績

089 スタッフ名簿

091 お知らせ

094 協賛広告



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

佐々木 章

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.
Professor and Chairman

教室年報2024 発刊にあたって

皆様におかれましては、平素より一方ならぬご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。巻頭言では、2024年を振り返り、外科学講座と岩手医科大学の現状、今後の展望をご報告します。

2019年9月に盛岡市内丸地区から矢巾地区へ移転した岩手医科大学附属病院は、高度治療機能病院として、旧附属病院を活用した内丸メディカルセンター（内丸MC）は、検査・診断を行う高度外来機能病院として、岩手県・北東北における地域医療の維持に努めてまいりました。しかし、移転費用、人口減少、少子高齢化や物価高騰等の社会情勢の変化などから、附属病院と内丸MCとの運営は、困難な状況が続いていました。地域医療機関への医師派遣は負担が大きく、また内丸MCの老朽化が著しいなどの状況を踏まえ、内丸MCの診療機能を2026年4月を目途に

附属病院へ集約することになりました。岩手医科大学の歴史を紡いできた内丸MCの運用凍結はとても残念に思います。

外科学講座の歴史は、1928年の岩手医学専門学校設立と共に始まり、「教育」・「研究」・「診療」・「地域医療」を4本柱として社会的使命を果たしてきました。岩手医大卒業生はもとより他大学卒業生までもが当教室での診療領域の広い外科専門研修を希望するようになるという目標を継続し、今後も建学の精神である「誠の人間」を育成していきたいとします。当教室で教えを授けられた外科医が岩手を離れ、別の場所で次世代の育成や、外科学の発展に貢献してくれることが夢です。

2015年8月に外科学講座教授に就任後、学務では総合試験部会長、教務委員長を担当し、2024年度で副学部長を退任

k i r a S A S A K I

M.D., Ph.D. Professor and Chairman

します。残りの任期3年は、次世代を担う後進の育成、新しい研究テーマの探索、わが国の肥満症治療の更なる発展に尽力する所存です。

研究では、常に新しいテーマを探索する必要があり、継続して競争的資金を獲得できるようにリサーチプロポーザルを行っています。2024年の継続研究を含めた競争的資金の採択数は、科研費12件、革新的がん医療実用化研究事業2件、奨学寄付金サポート3件でした。採択数を更に増加させるためには、教室員が研究の楽しさを知ることが鍵だと思います。私の私論として、「患者から学び、患者に還元する外科治療」が、真の低侵襲治療と考えています。研究でも、手術を行う対象疾患の改善機序解明、新治療薬の創出及び創薬の研究に興味があります(外科 2025;87:46)。

診療では、当教室における手術数は1,029件(全身麻酔961件、局所麻酔67件、その他1件)で、ロボット支援下手術の増加、手術枠の固定などの理由により、横ばいの状態です。当教室の内視鏡外科手術とロボット支援下手術は、わが国でも患者数が多い施設の一つであり、今後も質の高い手術を患者に提供してまいります。一方、本学では附属病院移転後の赤字から経営改善が急務であり、採算性改善支援プロジェクト(関節材料調達費、体制加算や化学療法における入院・外来の最適化)が進行中です。

最後に当教室における診療・研究の大きなテーマの一つである減量・代謝改善手術の話題に触れます。世界で高度肥満症に対する外科治療が急増する背景から、日本肥満症治療学会より、2010年に「日本における高度肥満症に対する安全で卓越した外科治療のためのステートメント

2010」を、2013年に「肥満症の総合的治療ガイド」と「日本における高度肥満症に対する安全で卓越した外科治療のためのガイドライン」が作成されました。本ガイドが発表されて11年が経過し、肥満症・糖尿病の診療と外科治療に様々な変化が生じている状況を踏まえて、日本肥満症治療学会は、「減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024(編集委員長:佐々木章)」を発刊しました。今回の改訂では、「代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)/代謝機能障害関連脂肪肝炎(MASH)」、「高齢者肥満症」、「小児肥満症」などの項目を加え、皆様の日常診療における一助となるように企画されたもので、肥満症診療の質の向上に活用されることを強く願っています。

2025年以降の学会活動の予定として、第23回日本ヘルニア学会学術集会(2025年5月・盛岡、岩手県立中部病院院長の川村英伸先生)、PPSA-JC(Pan-Pacific Surgical Association-Japan Chapter) Annual Meeting(2026年2月・沖縄、佐々木章)、第48回日本肥満学会(佐々木章)・第45回日本肥満症治療学会学術集会(千葉大学学長 横手幸太郎先生)合同開催(2027年10月・盛岡)を主宰する予定です。教室員一同で準備に邁進してまいりますので、多くの皆様にご参加いただけますようお願いいたします。

今後も、教室員が外科学講座に所属する誇りを持ち、いろいろな領域で外科学を発展させてくれる外科医・研究医の育成を目指してまいります。引き続き、皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特 別 寄 稿



岩手医科大学
理事長

祖父江 憲治

Kenji Sobue, M.D., Ph.D.
Chancellor

新理事長就任のご挨拶 —地域医療における岩手医科大学の役割—

近年になり地域医療の重要性が再認識され、声高に議論されるようになってきました。これは高齢化と少子化による地域人口の過疎化、地域における医療施設の合理的集約化が間に合わないなど、数々の問題をはらんでいます。これに輪をかけているのが、医師不足と医師偏在さらに医師の働き方改革です。地域医療に向けた医師の配分率は、全国どの大学においても重大な関心事となっています。

本文は他大学の先生方にもお目通し頂ける機会もあるかと鑑み、理事長就任のご挨拶と兼ねて、岩手医科大学における地域医療の実情とその役割をご紹介します。本学にとりまして地域医療は新しい言葉ではなく、本学医師にとっては開学以来の役割として根付いてきたものです。

学祖三田俊次郎先生が本学開設時（明治30年）、北東北（岩手・青森・秋田）の医療貧困とその悲惨さを憂いて医学講習所（4年後に岩手医学校と改名）を造られ、同時に「医者のみで医療は成立しない」として産婆・看護婦養成所を併設されました。これが本学の北東北に向けた地域医療のスタートであり、北海道・東北でチーム医療の先駆けとなりました。

以来、地域医療は本学医師にとりまして重要な役割として、職務遂行してきております。ご存知の如く岩手県の県土は四国四県を合わせた以上に広大な面積であり、本学の拠点である盛岡・矢巾地区はまさにその中心に位置しております。例えば、県北の久慈市や県南の大船渡市へ出張するには、片道車で2時間以上（冬

Kenji SOBU E

M.D., Ph.D. Chancellor

期は3時間近く)を要します。かつてに比し現在では道路状況がよくなり、これでも随分と改善されました。秋田と青森への出張も、同様に片道だけで2-3時間(場所によりそれ以上)を要します。出張から帰り、大学病院で処方や処置の指示が夕方になる事も多く、他の医療スタッフへの影響も大きかった点などから、現在では医師間のチーム制などによってかなり改善していますが、まだまだ完璧なものではなくさらなる工夫と改良を必要とします。

本学には約500名の医師がおりますが、そのほとんどが地域医療に従事しています。平均して本学全医師の約1/3は、毎日地域医療へ出張しているのが現状です。前述しましたように医師の働き方改革によって、さらに地域医療に向けるべき医師数は不足気味の状況です。今後改善すべきは、現地において地域医療施設や設備の集約化と医師以外の職員の合理的配置、さらにIT化導入などによる効率化です。しかし、これだけで全てが解決するものではなく、人口過疎地対策から集約化などに関しては、国と地方自治体が大胆な根本的解決に向けた施策を行う必要

があります。本学に限定してもう1つの大きな問題は、医師の絶対数です。岩手県は医師数が全国第二位の医師少数県ですが、現状でここ数年本学の医師数にそれ程大きな変化はありません。しかし、岩手県が毎年受け入れる新研修医数と2年研修後に岩手県(秋田と青森も含む)で着任した専門医数を比較しますと、かなりの数の研修医修了者が東京など大都市圏へ勤務先を移動させています。つまり、相変わらず大都市圏集中の影響を受けているということです。そこで、本学と圭陵会院長会、これに県医療局とで、研修医から専攻医への移行期に若手医師を岩手県内と北東北に留める方策の検討に入りました。具体的には、専攻医が積極的に本学と関連病院を選択できる魅力づくり、研修医や専攻医期間に大学院で学べる社会人入試制度などを行っておりますが、さらにより成果あるものに改良してまいります。

将来へ向けた医学・医療の発展のため、本学はたゆまぬ努力を続けてまいります。今後とも御指導と御声援賜りますよう、お願い申し上げます。



岩手医科大学医学部外科学講座
教授

新田 浩幸

*Hiroyuki Nitta, M.D., Ph.D.
Professor*

教室の一年

2024年も大きなトラブルなく診療、医局活動ができたこと、関係各所に感謝申し上げます。上部消化管、下部消化管、内分泌代謝、肝胆膵・移植、乳腺、小児の各診療チームがそれぞれアクティブに活動し、充実した1年であったと思います。しかし、医局長として人事などの医局運営に携わって感じることは、外科医不足が待ったなしの状況であるということです。外科医を志す研修医や学生がいない訳ではないのですが、地元に戻ったり、都会に行ったりと、岩手に残る方が少ないという状況です。地方私立医大の悲哀といえばそれまでですが、外科医として岩手に残るメリットを伝え切れていないことも要因の一つと考えています。人が少ないことはピンチではありますが、若手外科医にとっては多くの症例を経験するチャンスでもあります。手術や研究においても最先端を走っている部分も多々

ありますので、これらをしっかり伝える必要があります。我々が他の診療科の全国的な立ち位置をしっかりと理解していないのと同様に、研修医や学生は我々が行っていることを驚くほど知らないのが現状です。岩手医科大学で行っていることは、当然他の施設でも行っていると思っています。関連施設の先生におかれましては、研修医などに外科の魅力や岩手に残るメリットをぜひ伝えて頂きたいとお願いする次第です。

肝胆膵・移植チームとしては、ロボット支援下肝切除と膵切除の手技が成熟した1年であったと思います。これまでは肝切除の9割を腹腔鏡で行っていましたが、現在はロボット8割、腹腔鏡1割、開腹1割になっています。胆管切除や血管合併切除症例を除外しての数字ですが、ほとんどの肝切除をロボット支援下で安全に行うことができるようになりました。肝実質切離を

royuki NITTA

M.D., Ph.D. Professor

CUSAではなく Clamp-Crushing法で行ってきたことも、ロボットに移行しやすかった理由の一つと思います。2022年の保険収載後に導入しましたが、現在は毎週水曜日に頂いている枠の中で小肝切除と大肝切除を縦に組むことも多く、daVinciとhinotoriを合わせて100例を超えました。膵切除はまだ体尾部切除のみ行っている状況ですが、2025年は膵頭十二指腸切除を導入し、適応を見極めながら症例を増やしていく予定です。もちろんロボットや腹腔鏡だけではなく、開腹による肝門部領域癌手術や肝移植などもこれまでと同様に行っており、広い守備範囲の中で中堅・若手にトレーニングしてもらっています。

病院業務としては8月から副院長を拝命して、病院経営に携わるようになりました。平時であればそこまで忙しい役職ではないのだと思いますが、全国多くの病院が赤字経営である状況の中で、岩手医科大学附属病院も経営改善が求められております。病院収益において外科学講座

は重要なポジションにあるため、病院全体だけではなく外科の収益アップに微力ながら尽力しています。理事長、学長が替わり、まさに岩手医科大学の変革期だと思いますが、愛着のある母校のことであり、何とか良い方向にとの思いを持って貢献していきたいと考えています。



岩手医科大学医学部外科学講座
准教授

鈴木 信

Makoto Suzuki, M.D., Ph.D.
Associate Professor

小児外科医療の今後を考えて

2024年4月には医師の時間外労働時間に対する上限規制が一部施行され、これまで「長時間労働」が常態化していた医療現場に、初めて法的な制限が導入されることとなりました。これを受け、さまざまな学術集会においても「働き方改革」が重要なテーマとして議論されています。この働き方改革の動きは、医師の健康を守り、過重労働を是正することを目的として推進されていますが、外科医を取り巻く働き方改革には、外科医特有の状況により、多くの課題が浮き彫りになりました。しかしながら、外科医は業務の中心である手術に加え、外来診療や化学療法など多くの業務を抱えており、計画通りに進まないことが多々あります。また、緊急手術や予期しない合併症への対応で、業務が予定を超えることも頻繁です。さらに、近年の外科医数の減少により、労

働時間短縮に反比例して1人あたりの負担が増大する問題が生じています。この問題は特に外科医の数が限られている地方や中小病院で顕著で、休暇や短時間労働の確保が難しく、働き方改革が進めにくい状況が見受けられます。一方、外科医は技術の維持・向上のために多くの手術経験が必要です。働き方改革によって労働時間が制限されると、若手医師が十分な症例を経験できず、スキル習得やキャリア形成に影響を与える懸念があり、外科教育の効率化が今後の課題と考えています。

小児外科におけるもう一つの問題は少子化です。これは日本全体の社会的課題であり、小児外科にもその影響が顕著に表れています。出生数の減少により子どもたちの数が減少し、小児医療全体の需要が低下しています。一見すると患者数

k o t o S U Z U K I

M.D., Ph.D. Associate Professor

の減少によって医療提供側の負担が軽減されるように思えますが、その影響として小児外科医の育成が難しくなっています。症例数が減ることによって若手医師が十分な経験を積む機会が減少し、特に希少疾患や特殊な手術に関する経験は限られた症例で得るしかなく、専門性の高い人材の育成が困難になっています。この状況は、長期的には小児外科の医療レベル全体の低下を招く可能性があります。さらに、小児医療施設の運営にも影響が出ています。患者数の減少により経済的な運営が難しくなる病院が増え、地域によっては小児外科を持つ医療機関が減少する傾向があります。これにより、特に地方では小児外科の医療アクセスが制限され、地域格差が拡大しています。このような課題に対し、小児外科の分野ではいくつかの取り組みが進められています。たとえば、地域医療ネットワークの構築により、希少疾患や高度な手術の症例を集約する仕組みが導入されています。また、AIや遠隔医療を活用し、専門医が不足する地域でも質の高い医療を提供する試みが始まっています。少子化の影響を完全に克服することは難しいものの、社会全体で小児医療の重要性を再認識し、医療資源の効率的な活用と医療人材の育成を進める必要があります。これにより、未来を担う子どもたちに質の高い医療を提供することを目指すべきと考えています。

東北地域で小児外科を担当する医師は限られています。今後、施設の集約化が問われる時代が必ずや来ると考えられます。その時に淘汰されないよう、岩手の小児外科医療の充実とともに、時代に即応すべく特色を持った診療を構築していきたいと考えています。現時点では東北地域で唯一、新生児に対して胸腔鏡、腹腔鏡を用いた低侵襲かつ整容的な手術を実施可能な施設です。このような特色をさらに発展させ、広く多くの人材を集めることができる施設となるよう努めていきたいと思っています。大学病院として訪れる子どもたちすべてに対応する姿勢で診療を行っており、スタッフにもその旨を徹底していますが、万一当方の対応に不手際があれば、いつでもご指摘いただければ幸いです。全ての子どもたちに対して医療安全に気を配り、患児の発達・発育を考慮した「体だけでなく心にも傷を残さない」医療と「患者を断らない」医療を心がけています。北東北地域だけでなく他地域からも治療に来ていただけるような、信頼される医療の提供に微力を尽くしてまいります。

最後になりますが、薄学菲才の身ではございますが、臨床・研究・教育に誠心誠意努力いたしますので、岩手医科大学外科学講座および巖刀会会員の皆さまにおかれましては、さらなるご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

教室の今年1年



岩手医科大学医学部外科学講座
講師

井原 欣幸

*Yoshiyuki Ihara, M.D., Ph.D.
Assistant Professor*

着任のご挨拶

この度2024年4月1日付で岩手医科大学外科学講座に着任いたしました。国内でも有数の歴史と伝統のある外科学講座巖刀会にお招き頂き、深い感謝と共に身の引き締まる思いです。私は1998年旭川医科大学医学部を卒業した後、大阪大学小児外科、大阪府立母子総合医療センター外科他にて研鑽を積み、外科学、小児外科診療を基礎に小児肝胆膵疾患、小児／成人肝移植、小腸移植、移植免疫を専門としてこれまで臨床、研究を行って参りました。2011年より自治医科大学移植外科へ移動し、年間20例以上の小児および成人肝移植医療を行い、難治性拒絶や血液型不適合移植、過小／過大グラフト症候群、肝肺症候群合併など多くの困難症例も含め累積96%の生存率を維持してきました。更なる移植手術手技の修練のため2015-2016年に英国 King's College Hospital へ臨床留学

し、Clinical Fellowとして年間約250例の成人／小児の肝移植や多臓器移植の手術と、多くの脳死／心停止下ドナーからの臓器摘出を経験した後、2019年から埼玉県立小児医療センターにて小児肝移植の立ち上げに携わりました。埼玉県初となる小児肝移植の施行以降、5年間で48例の小児肝移植を施行し、その成績は97.8%と日々更なる向上を目指して治療内容の検討と改善を行ってきました。

研究面では大阪大学大学院宮川研にて抗接着因子抗体を用いた新規の移植免疫抑制療法について研究し、世界に先駆けて同抗体の移植分野への応用として発表致しましたが、近年この免疫抑制療法が実用化され、実際に小腸移植患者様に初めて使用され効果を認められたとの九州大学や国立成育医療センターからの報告を、座長として恩師の大阪大学宮川周士

Yoshiyuki IHARA

M.D., Ph.D. Assistant Professor

先生と一緒に聞くことができたのは非常に感慨深いものがありました。もともと研究のための研究には大儀なしと感じていたので、自分の研究が実際に患者様の役にたっているかもしれないという実感から基礎医学研究室での辛く厳しい研究生活が少し報われた気が致します。現在は移植免疫と獲得免疫との免疫バランスの研究や、小児栄養での臨床研究を行っており、今後成人領域も包括して引き続き継続していきたいと考えております。

私は大学病院で出生して幼少期は頻回の入退院などもあり、両親を始め多くの方々に助けて頂き、おかげでその後球技や空手道、ウィンタースポーツにも勤しむことも可能になりましたが、学校に行けなくて勉強が分からない、スポーツも上手くできない、諦めてしまって踏み出せない、などいろいろ「できない」子ども達の気持が少しはわかると思っています。発作などで急遽受診する道中はとても遠く長く感じ、親が入院のため仕事を休まなければいけなかったり、自分のために兄弟が親の相手をしてもらえなかったりと、同じ市内の病院でさえ家族の負担はとても大きいものでした。昨年度埼玉県立小児医療センターで、肝移植を受けた患者様の約3割が東北地方からの紹介でしたが、小児肝移植では患児の両親がドナーとなるのがほとんどのため、両親やサポートをする祖父母などが地元を離れ家族揃って県外への治療生活を余儀

なくされます。むろん肝移植は高度先進医療に含まれる治療であり、安定した技術の提供や術後管理に熟練したハイボリュームセンターへ集約されるべきで、それが更なる経験値として患者に還元され治療の成熟につながっていきます。しかし保険適応後、肝移植はもはや標準治療となり、十分に経験を有した移植外科医や他職種連携体制、術後管理に適した設備が備わっていれば、これを県民に提供することは高度医療を担う大学病院の責務とも言えます。現在福島を除いた東北5県において小児肝移植がほとんど行われておらず、依然として患児達とご家族が関東に送られ上記のような生活を強いられている現状を憂慮され、今回佐々木教授、新田教授よりお声掛け頂き岩手の地への赴任となりました。現在マニュアルを新たに整備し、各科連携のためのワーキングや勉強会を定期開催して、再開の準備も概ね整いつつあります。

移植医療は、感染と拒絶、出血と血栓や脱水と浮腫と言った治療のジレンマを抱える侵襲度の高い医療です。しかし“大切な家族を失わせない”を旗幟に1例1例精到な術後管理を行い、これからも患者様とご家族、そして東北地域のご期待とご要望に応じて参りたいと存じます。巖刀会皆様のご協力とご支援が必要不可欠でございますので、どうか今後とも何卒宜しく御願い申し上げます。



助教
安藤 太郎
〔平成24年卒〕

大学院
徐 光仁
〔令和4年卒〕

助教
武田 大樹
〔平成20年卒〕

助教
菊地 晃司
〔平成29年卒〕

助教
木村 拓
〔平成29年卒〕

助教
川島 到真
〔平成26年卒〕

岩手県高度救命
救急センター 助教
佐々木 秀策
〔平成22年卒〕

講師
藤野 順子
〔平成11年卒〕

臨床腫瘍学講座
講師
遠藤 史隆
〔平成18年卒〕

講師
井原 欣幸
〔平成10年卒〕

准教授
片桐 弘勝
〔平成16年卒〕

臨床腫瘍学講座
特任教授
岩谷 岳
〔平成7年卒〕

緩和医療学科
特任教授
木村 祐輔
〔平成6年卒〕

教授
新田 浩幸
〔平成5年卒〕

教授
佐々木 章
〔昭和63年卒〕



助教
天野

怜
〔平成26年卒〕

助教
小山

亮太
〔平成27年卒〕

助教
佐々木

教之
〔平成24年卒〕

助教
瀬川

武紀
〔平成25年卒〕

助教
天野

総
〔平成25年卒〕

助教
藤澤

良介
〔平成29年卒〕

大学院
嶋田

拓明
〔令和3年卒〕

医療安全学講座
教授
肥田

圭介
〔平成元年卒〕

准教授
鈴木

信
〔平成12年卒〕

准教授
梅邑

晃
〔平成17年卒〕

講師
馬場

誠朗
〔平成16年卒〕

講師
石田

和茂
〔平成17年卒〕

講師
八重樫

瑞典
〔平成21年卒〕

助教
二階

春香
〔平成23年卒〕

病棟風景



東10階緩和ケア病棟ラウンジ



西8階一般入院病棟ラウンジ

■東側眺望サイン



■西側眺望サイン



チーム紹介

上部消化管チーム

下部消化管チーム

肝胆膵・内分泌代謝外科チーム

乳腺チーム

小児外科チーム

高度救命救急センター

《救急・災害・総合医学講座 救急医学分野》

上部消化管チーム

STAFF: 馬場誠朗、二階春香、藤澤良介

専門外来

食道・胃疾患
木曜
8時30分～17時
(矢巾病院)



上部消化管チームでは、食道癌・胃癌を中心に、食道・胃疾患の治療を担当しています。毎週木曜日の専門外来では、新患患者さんの診察をはじめ、治療後の定期フォローアップや外来化学療法を担当しております。外来化学療法室や放射線科と連携し、癌の集学的治療を行っております。手術予定患者様には入退院サポートセンターの多職種が介入し、治療の安全性や周術期医療の質の向上に努めております。矢巾病院での入院は、化学療法と手術治療を当科が中心となり消化管・肝臓内科や放射線科と連携して集学的な治療にあたっております。手術に際しては、定型的な手術に対してはより低侵襲な手術を追求しております。高齢者にも安全に定型的な根治手術を受けていただけるよう、リハビリテーションや栄養のサポートなどに関して周術期の取り組みを行い、術後の機能温存を重視した手術を心掛けております。大学病院特有の困難症例や高度進行癌に対する高難度手術に対しては、根治を目指してこれまでの経験や専門性を発揮して治療にあたっております。食道癌に対して胸腔鏡下手術を、胃癌に対しては腹腔鏡下手術に加えてロボット支援下胃切除術を行っております。それぞれの患者さんに適した治療をともに考え、化学療法、放射線療法、手術を組み合わせた集学的治療を行うことにより治療成績の向上を目指しております。胃癌と食道癌は日本臨床腫瘍グループ(JCOG)に所属し、多施設共同臨床研究を通じて本邦の標準治療の開発に携わっております。治療に関する事はいつでもご相談をお受けいたしておりますので、是非お気軽にご連絡下さい。2024年の食道癌に対する胸腔鏡手術の割合は100%、胃癌に対する腹腔鏡手術(ロボット支援手術含む)の割合は63.5%でした。

2024年のニュース

- 2月 ▶ Lilly Gastric Cancer Seminar in Iwateを開催
馬場誠朗 hinotori certificate (術者)を取得
二階春香 hinotori certificate (術者)を取得
- 3月 ▶ Gastric Cancer Expert Seminar in IWATEを開催
- 4月 ▶ 藤田医科大学病院でhinotori胃切除手術見学
- 5月 ▶ 獨協医科大学埼玉医療センターでhinotori胃切除手術見学
- 6月 ▶ 馬場誠朗 八戸外科集談会で『胃癌治療の現状』を発表
hinotori胃切除手術を導入
- 8月 ▶ 東北低侵襲胃切除セミナーを開催
- 9月 ▶ Gastric Cancer Expert Seminar in IWATEを開催
馬場誠朗 第94回日本消化器病学会市民公開講座で『食道がんの化学療法と外科治療について』を発表
- 10月 ▶ みちのく Gastrectomy チームセミナーを開催
胃癌Web講演会を開催
- 11月 ▶ 岩手化学療法セミナーを開催
胃癌治療新時代の幕開けを開催
- 12月 ▶ Esophageal Cancer Perioperative Treatment in MORIOKAを開催

2024年 診療・研究状況報告

- 上部チーム入院数:440名
- 上部チーム手術数:155名

- 食道癌新規入院数:49名
- 食道癌手術:6名

(胸腔鏡下・ロボット支援食道切除術:6例)

疾患	術式	症例数
食道癌	胸腔鏡下食道切除術	6例
他疾患	遊離空腸等	18例

《年次手術数推移》

	2022年	2023年	2024年
食道癌	19	13	5
胸腔鏡下	4	2	5
ロボット支援下	11	10	0

- 新規胃疾患入院数:151名
- 胃疾患手術数:127名

疾患	術式	症例数
胃癌	開腹胃切除術	19例
	腹腔鏡下胃切除術	19例
	ロボット支援下胃切除術	17例
食道胃 接合部癌	ロボット支援下噴門側胃切除術	4例
	胸腔鏡下食道切除術	0例
	開腹胃全摘術	3例
	開腹噴門側胃切除術	1例

《年次手術数推移》

	2022年	2023年	2024年
胃癌	71	67	63
GIST	11	8	15
計(悪性腫瘍切除数)	82	75	78

●2024年研究報告

《教室内》

- ・切除不能・再発食道癌に対する biweekly-DCF 療法の安全性評価(データ集積中)
- ・食道癌化学療法後遺残腫瘍の遺伝子プロファイリング(症例集積中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発(解析中)
- ・食道癌治療抵抗性と NFE2L2 遺伝子変異に関する検討(解析中)
- ・食道癌肉腫の成分別網羅的遺伝子解析(解析中)
- ・消化器癌の予後に関連する non-coding RNA FTX に関する検討(解析中)
- ・高齢者胃癌患者の食欲不振に対する補中益気湯の有効性および安全性に関する検討(株ツムラとの共同臨床試験、データ集積中)
- ・血漿中遊離変異DNA定量による胃癌モニタリングによる転移・再発の検証(症例集積中)
- ・胃癌周術期のサルコペニアの検討(データ集積中)

《臨床試験》

- ・JCOG1109「臨床病期 IB/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する術前 CF 療法/術前 DCF 療法/術前 CF-RT 療法の第 III 比較試験」症例追跡中
- ・JCOG1301C「高度リンパ節転移を有する HER2 陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前 trastuzumab 併用化学療法の意義に関するランダム化第 II 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1409「臨床病期 I/II/III 食道癌(T4 を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第 III 相試験」症例追跡中
- ・JCOG1507「病理学的 Stage II/III で“vulnerable”な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1509「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1509A2「局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第 III 相試験」の附随研究:全ゲノム解析に基づく局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性と安全性を評価するバイオマーカーの探索的研究 症例登録中
- ・JCOG1510「切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入 Docetaxel+CDDP+5-FU 療法後の Conversion Surgery を比較するランダム化第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1704「高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前 Docetaxel+Oxaliplatin+S-1 の第 II 相試験」症例解析中
- ・JCOG1711「漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG1901「消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス+ランレオチド併用療法のランダム化第 III 相試験」症例解析中
- ・JCOG1904「Clinical-T1bN0M0 食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験」症例追跡中
- ・JCOG2013「臨床病期 I-IVA (T4 を除く) 胸部上中部食道

扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験」症例登録中

- ・JCOG2203「食道胃接合部腺癌に対する DOS or FLOT を用いた術前化学療法のランダム化第 II/III 相試験」症例登録中
- ・JCOG2204「大型 3 型・4 型胃癌に対する術前化学療法としての 5-FU + レボホリナート + オキサリプラチン + ドセタキセル (FLOT) 療法と ドセタキセル + オキサリプラチン + S-1 (DOS) 療法の有効性を探索するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG2206「術前化学療法後に根治手術が行われ病理学的完全奏効とならなかった食道扁平上皮癌における術後無治療/ニボルマブ療法/S-1療法のランダム化比較第 III 相試験」症例登録中
- ・JCOG2311「切除不能または再発食道癌に対するニボルマブ + イピリムマブ (Nivo + Ipi) 療法と放射線治療 + Nivo + Ipi 療法を比較するランダム化第 II 相試験」症例登録中
- ・JCOG2316A「全ゲノム解析等実行計画に基づく、難治がん患者の組織と血液を用いた予後や治療効果、毒性に関するバイオマーカーの探索的研究」症例登録中
- ・JACCRO GC-09「切除不能進行・再発胃癌に対するナブパクリタキセルとラムシルマブ併用療法の隔週投与方法における有効性と安全性を検討する第 II 相試験」症例追跡中
- ・JACCRO GC-11「術後補助化学療法中または終了後早期に再発した胃癌に対する CapeOX + ニボルマブ療法の第 II 相試験 (FirSTAR 試験)」症例登録中

《治験》

- ・胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法として MK-3475 及び化学療法 (XP 又は FP) とプラセボ及び化学療法 (XP 又は FP) を比較する二重盲検無作為化第 III 相試験 (MSD 株式会社): 症例追跡中
- ・HER2 陰性で化学療法未治療の治癒切除不能な進行又は再発胃癌 (食道胃接合部がんを含む) を有する被験者を対象とした ONO-4578、ニボルマブ、並びにフッ化ピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤の化学療法 (以下、化学療法) の併用療法の有効性及び安全性を、プラセボ、ニボルマブ及び化学療法の併用療法と比較する多施設共同第 II 相無作為化二重盲検比較試験 (小野薬品工業株式会社): 症例追跡中

《科研費獲得》

- ・「HER2 陽性胃癌における ctDNA-ERBB2 モニタリングの手法の確立」文部科学省科学研究費 若手研究 (研究代表者 二階春香)
- ・「ctDNA モニタリングを用いた食道癌根治治療後サーベイランスの開発」文部科学省科学研究費 若手研究 (研究代表者 藤澤良介)

●今後の課題

- ・切除不能進行食道癌症例に対する Salvage 手術, conversion 手術の増加.
- ・高齢者に対する食道切除術のさらなる低侵襲化の探求.
- ・分子生物学的手法を用いた食道癌新規診断・治療法の開発.
- ・高度進行胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除の有用性の検証.
- ・胃癌化学療法に関する基礎的研究の推進.
- ・腹腔鏡下胃癌手術技術認定医の育成.
- ・胸腔鏡下食道癌手術技術認定医の育成.
- ・ロボット支援腹腔鏡下胃癌・食道癌手術プロクターの育成.

下部消化管チーム

STAFF: 八重樫瑞典、佐々木教之
瀬川武紀

附属病院（矢巾）

術後外来：月曜8時30分～16時
新患外来（他院・院内の紹介）：月曜13時～15時、
火曜8時45分～11時
外来化学療法：月曜9時～16時、水・金曜9時～13時
ストーマ外来：千葉励子（WOCN）、佐藤雅恵（WOCN）
月曜8時30分～16時、水曜8時30分～12時

内丸メディカル

新患外来（他院の紹介）：月・火曜8時30分～12時



2024年4月から八重樫・佐々木教之に加えて瀬川武紀先生が専従スタッフとして加わりました。ローテーターを含めて6名の体制で日々の診療にあたっております。2023年3月までスタッフとしてチームを支えてくれた清水先生、畑中先生にはこの場を借りて感謝申し上げます。

今年の全身麻酔下による手術は280例を超え、大腸癌の手術件数も例年通り約180例でした。

2024年の下部消化管グループの手術は新しいことを始めた1年だったと思います。3月にはhinotoriサージカルシステムによる直腸癌手術を開始しました。電気メスの性能からポートセッティングなどhinotoriはこれまで扱ってきたda Vinciシステムとは全くの別物で、それぞれのロボットの特性を理解し使いこなすにはもう少し経験が必要と感じています。そして12月には結腸癌に対してもロボット手術が開始され、今後大学病院で行える手術の幅を広げられるようにしたいと思います。また、骨盤内臓全摘術の腹腔鏡下手術が保険収載され、当院でも今年は4例行うことができました。去年より拡大手術導入のために施設見学を繰り返し行ってきた甲斐もあり、チームとしてはスムーズに導入できたと感じております。県外からの紹介も増えてきており、完治を目指した手術が当院で行えるように日々精進して参りたいと思います。

この1年の症例を振り返り感じていることは、局所進行直腸癌や傍大動脈リンパ節転移例などの進行癌が多く、upfrontの手術より術前治療を必要とした症例が昨年に続き多かった印象です。昨年の年報で、CRTの前後に術前化学療法を組み合わせたTotal neoadjuvant therapy（TNT）について少し述べさせて頂きました。2023年のNCCNガイドラインで進行直腸癌の標準治療に位置付けられたTNTではありますが、2024年9月に改定された大腸がん診療ガイドラインではまだ標準治療の位置付けにはありません。実際、NAC、CRTやTNTといった治療を行うにあたって高齢で基礎疾患も多い患者さんが治療を完遂できるかという問題も経験し、患者因子や腫瘍因子に合わせた治療選択が重要になると感じております。現在国内外を含めて多くの臨床試験が行われておりますが、直腸癌に対する治療の将来は個別化治療として細分化されるものと思います。

ストーマ外来は、現在矢巾では千葉励子、佐藤雅恵 WOCナース（皮膚・排泄ケア認定看護師）2名でストーマ教育を行っており、精神面からもフォローしております。曜日や時間帯は限定されますが、内丸外来でも高橋咲子 WOCナースがストーマ外来を開設し広く活動しております。

潰瘍性大腸炎やCrohn病などの炎症性腸疾患症例に対しても、患者さんのQOLを重視した腹腔鏡下手術を消化器内科と患者情報を共有し行っております。

2024年も本当に周りの先生方に支えられた1年でした。この場を借りて感謝申し上げます。関連先の先生方におかれましては、2025年も引き続きご指導、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年のニュース

- 3月 ▶ 大塚観喜先生 学位取得
- 3月 ▶ 直腸癌に対する hinotori サージカルシステムによる手術開始
- 4月 ▶ 瀬川武紀先生 下部消化管チームスタッフへ
- 8月 ▶ 腹腔鏡下骨盤内臓全摘術開始
- 12月 ▶ ロボット支援結腸悪性手術開始

2024年 診療・研究状況報告

●手術数（全麻）：282例

《内訳》

疾患	術式	症例数
結腸癌(例)	開腹	7
	腹腔鏡	93
	ロボット支援下	1
直腸癌(例)	開腹	0
	腹腔鏡	35
	ロボット支援下	33
	経肛門	2
大腸癌再発(例)	開腹	0
	腹腔鏡	1
骨盤内臓全摘(例) (後方骨盤内臓全摘含)	開腹	0
	腹腔鏡	4
Crohn病(例) (癌を含む)	開腹	3
	腹腔鏡	4
潰瘍性大腸炎/FAP(例)	開腹大腸全摘	0
	腹腔鏡下大腸全摘	0
肛門がん(SCC)	腹腔鏡	0
大腸憩室	開腹	2
	腹腔鏡	4
他全麻手術(ストーマ造設・閉鎖、良性手術、GIST/NET等)		52
他科手術応援(婦人科等：結腸直腸切除、小腸切除)		41

●2024年研究報告

《教室内》

- ・「Impact of sensitive circulating tumor DNA monitoring on CT scan intervals during postoperative colorectal cancer surveillance」：海外journal投稿中(佐々木智子)
- ・「dPCRによるStageIV大腸癌の転移巣別ctDNA検出に関する研究」：論文投稿中(大塚観喜)
- ・「ctDNAを用いた大腸癌転移巣切除適応症例層別化に関する研究」：症例解析中(大学院2年嶋田拓明)
- ・「希少がんにおけるデジタルPCRを用いたctDNAモニタリング」：症例集積中(瀬川武紀)

- ・「アイトラッキング技術を用いた腹腔鏡手術の教育に関する研究」：研究開始(大学院2年琴畑洋介)

《他施設共同》

- ・JCOG2014試験「標準化学療法に不応・不耐な切除不能進行再発大腸癌患者を対象としたTrifluridine/Tipiracil単剤療法とBi-weekly Trifluridine/Tipiracil + Bevacizumab併用療法のランダム化比較第III相試験(ROBiTS)」：症例集積中
- ・「内視鏡外科手術動画のデータベース構築」：症例の追加集積中
- ・「多領域の術式に応用可能なAI手術技能評価システムの研究」追加集積中
- ・多施設共同研究「切除不能大腸癌に対するトリフルリジン・チピラシル+ベバシズマブの従来法と隔週法の実用的ランダム化第III相試験(PRABITAS)」：症例集積中
- ・初回切除可能大腸癌肝転移を対象とした術前後化学療法+手術 vs 手術先行+術後補助化学療法の治療効果の検討：多施設共同ランダム化比較試験(PERSEUS trial)症例集積開始

●今後の課題

▶臨床教育面

- ・ロボット支援下結腸癌手術の取り組みと後進の指導
- ・合併症予防と対策
- ・内視鏡外科学会技術認定医取得に向けて

▶研究教育面

- ・研究計画書作成への指導
- ・大学院生への研究・学位指導
- ・学会発表や論文作成への取り組み方

肝胆膵 内分泌代謝外科チーム

STAFF: 新田浩幸、片桐弘勝、梅邑 晃
武田大樹、安藤太郎、天野 怜
川島到真、木村 拓、菊地晃司

内丸メディカルセンター
木曜/8時30分～12時30分
(新田教授、天野助教)
金曜/8時30分～12時30分 (川島助教)
矢巾
火曜/10時30分～12時30分
(新田教授、梅邑准教授、木村助教)
木曜/8時30分～12時30分 (片桐准教授)
金曜/8時30分～12時30分 (武田助教)



肝胆膵系悪性・良性疾患に対する拡大手術、腹腔鏡・ロボット手術、放射線化学療法、肝移植(生体・脳死)など幅広い治療選択肢をもって、患者様に最も適した治療は何かを考え診療しております。特に、腹腔鏡・ロボット手術は本邦でも症例数の多い施設の一つであり、患者にメリットの大きい手術であると確信をもって診療にあたっております。ロボット支援下手術は2023年からdaVinciと平行してhinotoriによる手術を開始しており、遠隔手術など今後の発展に寄与できればと考えています。また、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医や日本内視鏡外科学会の技術認定を取得するため、若手外科医の執刀機会が多いことも特徴の一つです。

肝移植医療は2007年より病院全体の協力のもと積極的に行っており、生体肝移植ドナー手術も可能な限り腹腔鏡下で行っていることから、患者の満足度も高いものとなっております。

胆道癌や膵癌に対しては術前放射線化学療法および術後補助化学療法など、集学的治療により治療成績を向上させるべく取り組んでおります。膵癌に対しては審査腹腔鏡を行い、適切な治療方針の決定に役立てております。

2024年 診療・研究状況報告

●手術数：250例

●腹腔鏡下およびロボット支援下手術の割合

肝切除(肝門部胆管癌、胆嚢癌を除く) 91%(腹腔鏡11%、
ロボット80%) 膵切除 16%

●2024年手術症例

《疾患別》

▶悪性

肝細胞癌	27例
転移性肝癌	29例
肝内胆管癌	8例
胆管癌	29例(肝門部7例、肝外22例)
胆嚢癌	11例
乳頭部癌	5例
膵癌 (IPMC含む)	66例
十二指腸癌	2例

▶良性

生体肝移植ドナー、IPMN、 胆嚢結石、肝嚢胞など	56例
------------------------------	-----

▶その他

副腎腫瘍、後腹膜腫瘍、小腸腫瘍など	18例
-------------------	-----

《年次推移》

脳死肝移植	0例
生体肝移植	5例
肝切除	89例(腹腔鏡18、ロボット55)
PpPD、SSPPD	61例(腹腔鏡2)
膵体尾部切除	20例(腹腔鏡5、ロボット7)
膵全摘	4例
審査腹腔鏡	22例
胆石、胆嚢良性疾患手術	21例
肝嚢胞天蓋切除	3例
副腎、脾臓、後腹膜腫瘍摘出	6例
消化管バイパス	11例
その他	10例

《年次推移》

	2022	2023	2024
肝細胞癌	31	37	27
肝内胆管癌	10	5	8
転移性肝癌	34	35	29
胆管癌	30	40	29
胆嚢癌	7	4	11
乳頭部癌	6	5	3
膵癌	73	89	66
脳死肝移植	0	0	0
生体肝移植	4	2	5

●2024年研究報告

- ・再肝切除、巨大腫瘍、高齢者、S7/S8領域などに対する腹腔鏡下肝切除術の成績と有用性を報告した。
- ・腹腔鏡下肝切除術におけるスコピストのコツと重要性について報告した。
- ・ロボット支援下肝切除術の手術手技、手術成績について報告した。
- ・腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技の工夫と手術成績を検討し報告した。
- ・肝移植レシピエントに対する hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors 投与の腎保護効果に関して検討し報告した。
- ・ヒト肝臓手術における Muse 細胞 (Multilineage-differentiating stress-enduring cells) の動態と肝再生における関与・意義について報告した。

診療では、内分泌代謝疾患（高度肥満症、副腎、甲状腺）、一般外科・消化器外科疾患（脾臓、ヘルニア）に対する内視鏡外科手術を担当しています。主な研究課題は、2型糖尿病、高血圧症、MASLD/MASH、閉塞性睡眠時無呼吸症候群などの肥満関連健康障害に対する減量・代謝改善手術の効果と改善機序の解明です。術式は、reduced port surgeryを中心とした腹腔鏡下手術を選択しています。

2024年のニュース

- 2月 ▶ JSPEN フェローシップ賞を受賞(梅邑 晃)
- 7月 ▶ 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン2024発刊 作成委員長を担当(佐々木章)
- 10月 ▶ 2027年日本肥満学会会長に選出(佐々木章)
- 11月 ▶ 第54回胃外科・術後障害研究会 優秀演題賞(棚橋洋太)

2024年 診療・研究状況報告

- 入院数：155例
- 手術数：114例

《内訳》

疾患	術式	症例数
高度肥満症	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	16
副腎疾患	2孔式腹腔鏡下副腎摘出術	8
甲状腺疾患	内視鏡下甲状腺片葉切除術	6
	頸部切開甲状腺全摘術	3
	頸部切開甲状腺片葉切除術	6
副甲状腺疾患	頸部切開副甲状腺切除術	3
腹壁癒痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア修復術	19
	傍ストーマヘルニア修復術	2
鼠経ヘルニア	腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術(両側1例)	44
	開創鼠経ヘルニア修復術	10

《年次手術数推移》

	2022年	2023年	2024年
高度肥満症	20	23	16
鼠経ヘルニア	68	56	54

● 2024年研究報告

《教室内》

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における口腔内・腸内細菌叢の変化：論文作成中
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術前後のヘパトカイン濃度の変化と代謝改善効果の関連：Surg Today 2024; 54:581-590.
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を施行した高度肥満症患者の高血圧症寛解予測因子の検討：PLoS One 2024; 19:e0314792.
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除施行患者における

ヘパトカインの変化と代謝改善効果の関連：Surg Today 2023 online ahead of print.

- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術前後の血中ケトン体変化と代謝改善効果の関連：Obes Surg 2024;34:2607-2616.
- ・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の経裂孔胃管脱出が術後減量とGERDに及ぼす影響：World J Surg online ahead of print
- ・腹腔鏡下調節性胃バンディング術後胃癌の1例：Int J Surg Case Rep 2024;119:109714.

《全国規模》

▶ 獲得研究費

- ・肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索(2023-2025年度科研費基盤研究C)：症例集積・データ解析中
- ・高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索(2022-2024年度科研費基盤研究C)：論文作成中
- ・肥満外科手術後の腎機能の変化と肥満健康関連障害改善の機序の解明(2024-2026年度科研費若手研究)：症例集積・データ解析中
- ・高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後における尿中メタボローム解析による慢性腎臓病のサロゲートマーカー検索と肥満関連健康障害との関連について(2024年度中外製薬研究活動支援)：症例集積・データ解析中

乳腺チーム

STAFF: 石田和茂、川岸涼子、松井雄介、天野 総
橋元麻生、對馬真緒、石井勇吾

内丸メディカルセンター
木曜8時30分～17時
(新患・紹介)
矢巾附属病院
火曜・水曜8時30分～17時
(専門外来)



はじめに、2024年も多くの先生に支えられ無事に乳腺診療を行うことができましたことを御礼申し上げます。また、乳腺専門外来の診療応援に来て下さった松井雄介先生、對馬真緒先生、手術応援に来てくださった橋元麻生先生、3名の不在時にご負担をおかけしました岩手県立二戸病院、岩手県立千厩病院、北上済生会病院の先生にも感謝申し上げます。乳癌患者増によって一時は手術待機期間が3ヶ月となり、連携医院の先生には紹介時のご配慮を賜りました。当科の乳腺診療医師不足は直ちに解決される状況にはございませんが、有難いことに乳腺外科志望を公言する学生が学内に増えてきており、今を乗り切れば安定的な診療応援をご提供できる日も遠くないと考えております。また、各病院の先生から乳癌治療の相談を頂く機会も多くなり、地元で治療を完結しようとする動きに我々も大変助けられています。子育てや就労年齢が多い乳癌患者さんにとっても素晴らしい変化だと実感しております。乳癌手術は消化器外科の先生にとっては難しくないと思われ、周術期治療計画や薬物療法の知識連携ができれば各地域で治療いただくことは可能であると実感しております。また、2023年から始まった岩県立中央病院・乳腺外科チームとの定期合同症例検討会のZOOM公開も乳腺診療の均てん化に役立っていることを期待しております。

2024年の臨床トピックスは、薬物療法でCapivacertive（商品名：トルカブ）、Sacituzumab govitecan（商品名：トロデルビ）が登場し、手術では手術支援ロボット（ダヴィンチ）が乳癌手術にも適応拡大されました。トルカブはホルモン受容体陽性乳癌、トロデルビはトリプルネガティブ乳癌の進行再発症例における薬剤ですが、トロデルビは遺伝子パネル検査によって適格性を確認する必要があるため、是非ともご相談いただけますと有難いです。ダヴィンチの乳癌手術における適応は乳輪温存乳房切除術のみであり、整容性の向上や血流不全を生じやすい乳頭乳輪下の皮弁作成に期待されています。他にも手術の低侵襲化は進んでおり、当院は東北で4施設しかないラジオ波焼灼療術の認定施設となっております。また、腋窩リンパ節郭清も条件つきで省略できることが学術的に分かってきており、当院でも一部のリンパ節転移陽性症例に対する郭清省略を開始しております。

乳腺領域は患者数の増加、新規薬剤の登場、術式の変化など目まぐるしく変化しており、大学病院としての質を提供し続けるためにはますます医師の人材確保が必要となってきております。引続き学生の勧誘と専門医の育成、地域乳腺診療医との連携が重要タスクと考えております。

若輩のチームではございますが着実に成長しており、数年後には数名の乳腺専門医の誕生と岩手県内への貢献が期待されます。同門の先生には一層のご指導、ご鞭撻ならびに診療連携を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

2024年 診療・研究状況報告

●総手術件数：196例

《内訳》

術式	件数
乳房部分切除術	86
乳房全切除術	108
リスク低減乳房切除術	12
乳房再建	14
腫瘍摘出術	3

●講演会

- ・ Breast Cancer Web Seminar in Iwate, 「まだ怖いですか!?CDK4/6阻害剤 ～そろそろアップデートしておきますか～」, 石田和茂
- ・ がん緩和セミナー, 「乳癌治療とオラパリブ ～薬医連携を意識して～」, 石田和茂
- ・ 岩手 Breast Care カンファレンス, 「難しいよね乳癌治療 ～手術が先なの？薬が先なの？～」, 石田和茂
- ・ 市民公開講座 乳房再建を学ぼう！@岩手, 「乳癌治療から見た乳房再建」, 石田和茂
- ・ 環仙台湾乳腺疾患勉強会, 「高齢者におけるCDK4/6阻害剤と薬医連携」, 石田和茂
- ・ AKITA BConnect in NOSHIO, 「高齢者におけるCDK4/6阻害剤と薬医連携」, 石田和茂
- ・ いわてピンクリボンフェスタ, 「乳がん 2024- 気になるコトにお答えします-」, 石田和茂
- ・ MBC Expert Web Forum in 東北, 「薬医連携の課題と取り組み」, 石田和茂
- ・ 東北・新潟若手乳癌セミナー, 「高齢者におけるAbemacicribの恩恵とマネジメント, 乳腺外科医を目指して-道の途中より-」, 石田和茂
- ・ 岩手県北外科集談会, 「ペグフィログラスチムの意義と乳腺最新事情」, 石田和茂
- ・ 岩手県「薬医連携」講演会, 「『薬医連携』における試験的取り組みから見えた意義と課題」, 石田和茂

●著書

- ・ 石田和茂, 早期(原発性)乳癌の治療戦略～総論, 日本臨牀 増刊号「乳癌 2024 (下)」, 日本臨牀社, 2024, pp.7-13.

●2024年研究報告

《臨床試験》

- ・ JCOG2110試験「オリゴ転移を有する進行乳癌に対する根治的局所療法追加の意義を検証するランダム化比較試験」
- ・ HALLOW 試験「化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツマブデルクステカンの多機関共同前向き観察研究」
- ・ EMBER-4試験「2-5年間の術後内分泌療法による前治療歴を有する再発高リスクのER+, HER2-の早期乳癌患者を対象に、術後薬物療法としてimlunestrantと標準的な術後内分泌療法を比較する無作為化非盲検第III相試験(J2J-MC-JZLH)」
- ・ OASIS MaleBC 試験「男性乳がんの臨床病理学的特徴と予後因子についての多機関共同後ろ向き研究」

《チーム研究課題》

- ・ 肥満関連乳癌術後再発リスクバイオマーカーの探索, 石田和茂
- ・ 肥満を伴うホルモン受容体陽性乳癌における再発リスクバイオマーカーの検討, 天野総

●今後の研究課題

- ・ 論文執筆
- ・ チーム研究の実践
- ・ 乳癌検診の啓蒙
- ・ 地域乳腺診療の連携協力
- ・ 若手医師の乳腺専門医取得
- ・ 乳腺専門医を目指す若手外科医の勧誘

小児外科チーム

STAFF:鈴木 信、藤野順子、小山亮太、井原欣幸(4～9月)
有末篤弘(能代厚生病院)、早野 恵(県立釜石病院)

一般小児外科外来
月曜午後、水曜全日
金曜午前、土曜午前

専門外来
第3水曜午後
小児ストーマ・スキンケア外来



2024年の小児外科チームの診療体制は肝移植担当として埼玉県立小児医療センター移植外科より井原講師が4月から加わりましたが、小児外科としての診療体制は変わらず、小山・藤野・鈴木の3名体制での診療で、能代厚生病院の有末篤弘先生にも土曜日の手術のお手伝いをいただきました。

外来診療は従来の水曜日全日を中心とし、患者さまの利便性を考慮し月曜日午後・金曜日午前・土曜日午前の診療日を追加しました。手術日は従来通り木曜日全日および第1・4土曜日午前で、小児における外科診療の最後の砦として救急患児に24時間365日常に対応できる体制をとっております。対象疾患は、新生児から16歳未満の呼吸器(気管・肺・胸郭異常など)・消化器(食道から肛門までの消化管および肝胆膵)・その他腹部臓器(副腎・脾臓など)・皮膚軟部組織(皮膚・皮下組織・筋肉など)・泌尿生殖器(腎臓・尿管・膀胱・外陰部など)の疾患で、AYA世代の移行期医療にも対応しています。

手術症例は全国的に問題となっている少子化の影響が2023年の出生数が過去最低の約5500となった岩手県では特に顕著に表れてきているとともに、新型コロナウイルス感染症以外にもインフルエンザやマイコプラズマ等の他の感染症蔓延の影響が強くあり、手術総数は年々減少傾向が見受けられます。2024年は特に新生児手術数は5例(2023年は17例)と激減しておりました。手術内容としては、鼠径ヘルニア類縁疾患や全麻下検査を除く手術の28%(35例)に内視鏡手術を行い、新生児に対する内視鏡手術は2例(十二指腸閉鎖、卵巣嚢腫)でした。

教育・研究に関しては、新たな小児外科医の育成を目標に、臨床実習等の卒前教育での積極的なアプローチを行っており、興味を抱く学生を多く認めるようになっており、積極的に学会での学生発表の機会を与えることで更に興味を抱くようにするといった、多くの種を蒔いています。今後芽が出てくれるようにサポートを継続的に続けていきたいと考えております。また、これまで行ってきた小児腫瘍の発生機序に関する分子生物学的研究や低侵襲手術に関する臨床的研究に加え、食道インピーダンス検査および漢方治療に関する研究も進めていき、若手の為の研究シーズを蓄えて行きたいと考えております。

これまでと変わらず、すべての患者さまとご家族に信頼される国際水準の質の高い小児外科診療を提供できるよう、日々診療、研究、教育に励んでおります。症例等のご相談がありましたら常に対応可能ですのでご連絡頂ければと思います。今後とも関連の先生方には尚一層のご指導、ご鞭撻、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

2024年のニュース

- 4月▶埼玉県立小児医療センター移植外科より井原が講師として着任
- 6月▶鈴木が2027年開催の第63回小児放射線学会学術集会会長に選任
- 9月▶鈴木が第47回東北小児外科研究会を主催
- 12月▶小山が日本周産期・新生児医学会認定外科医に合格

2024年 診療・研究状況報告

- 総手術数：153件(うち内視鏡手術35件)
- 入院数：158名(うち他科併診44名)

《手術症例内訳》 重複あり

疾患群	症例数
新生児疾患	5
悪性腫瘍(生検を含む)	2
鼠径ヘルニア類縁疾患	36
消化器・肝胆膵疾患	47
呼吸器疾患	14
泌尿生殖器疾患	27
全麻下検査	2
その他	29

《年次手術数推移》

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
新生児	11	23	23	24	17	5
非新生児	155	182	202	154	152	148
計	166	205	225	178	169	153

● 2024年研究報告

- ・日本小児がん研究グループ(JCCG)関連臨床試験参画
日本神経芽腫研究グループ(JNBSG)
日本小児肝臓スタディグループ(JPLT)
日本ウィルス腫瘍スタディグループ(JWiTS)
- ・学会主導研究「ゲノムワイド関連解析による膀胱尿管逆流発症関連遺伝子の探索」参画

高度救命救急センター 《救急・災害・総合医学講座》 《救急医学分野》

STAFF：小鹿雅博・石田 馨・佐藤寿穂・佐々木秀策

専門外来

24時間体制



高度救命救急センターは院内各講座からスタッフが派遣されている複合科であり、各科医師との連携が重要です。外科学講座はじめ同門の先生方の多大なご協力に深く御礼申し上げます。我々は外科チームですが、あらゆる救急疾患、重症疾患、急性血液浄化等の窓口とも考えております。適切な専門医と連絡を取りますので、24時間いつでもどのような病態でもご相談ください。岩手医科大学代表電話（019-651-5111）から救急センター事務経由で呼び出すように命じてください。

2024年 診療・研究状況報告

●入院数：111例

●手術数：68例

《手術症例内訳》

疾患（内因性）	手術	非手術
腹腔内感染症	15	19
虚血性疾患	13	29
出血性疾患	5	4
その他	0	5

疾患（外因性）	手術	非手術
管腔臓器損傷	5	2
実質臓器損傷	6	3
その他	0	3

●2024年研究報告

《グループ内》

- ・ Damage control laparotomyにおける遅延吻合、輸液量およびNPWT出力量の影響(継続)
- ・ 絞扼性腸閉塞に対する治療と管理(継続)
- ・ Fluid bolus therapy（輸液ボラス療法）と Glucose control（血糖管理）を併用した際の血糖値変化に関する後方視的研究(継続)

◆入院患者分類

疾患		例数
顔面・頸部		1
甲状腺・上皮小体	良性	14
	悪性	4
乳腺	良性	1
	悪性	245
食道	良性	3
	悪性	209
胃・十二指腸	良性	0
	悪性	163
大腸・肛門	良性	20
	悪性	341
肝・胆・膵・脾	良性	114
	悪性	970
腸閉塞		28
虫垂炎		8
ヘルニア・腹壁・腹膜		83
副腎		10
病的肥満		69
小児		107
その他		111
入院者合計		2501

◆手術件数

	件数
全身麻酔数	961
局所麻酔数	67
その他	1
全手術数	1029

◆関連病院手術件数

	全手術数	全身麻酔手術数	急患手術数	腹腔鏡手術数	甲状腺癌	乳癌	肺癌	食道癌	胃癌	胆膵癌	肝癌	大腸癌
函館五稜郭病院	1248	972	97	572	8	222	0	5	72	22	12	210
盛岡市立病院	604	571	45	424	0	2	0	0	21	5	12	95
盛岡赤十字病院	563	460	48	372	5	34	0	0	11	0	0	91
八戸赤十字病院	429	381	40	115	16	40	0	0	31	2	0	101
能代厚生医療センター	390	325	41	213	2	29	0	0	16	18	4	58
県立宮古病院	336	294	45	172	0	23	0	0	16	2	0	104
県立二戸病院	314	286	28	115	0	36	0	0	11	2	3	56
県立久慈病院	288	241	39	156	0	12	0	0	9	1	0	49
県立釜石病院	200	189	20	119	2	11	0	0	14	2	0	40
北上済生会病院	200	193	12	135	3	4	0	0	5	0	0	24
かつの厚生病院	165	136	23	99	2	8	0	0	14	0	0	31
県立千厩病院	146	142	16	105	1	10	0	0	7	1	2	24
県立江刺病院	8	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

◆関連病院発表業績件数

	英文	和文	国際学会	全国学会	全国研究会	地方会
函館五稜郭病院	2	0	0	11	0	4
盛岡市立病院	0	0	0	6	0	2
盛岡赤十字病院	1	2	0	1	1	3
八戸赤十字病院	0	0	1	1	0	1
能代厚生医療センター	0	0	0	5	0	5
県立宮古病院	0	2	1	3	1	0
県立二戸病院	0	0	0	3	0	3
県立久慈病院	0	0	1	7	0	0
県立釜石病院	2	0	1	2	0	0
北上済生会病院	0	0	0	0	0	1
かつの厚生病院	0	0	0	0	0	1
県立千厩病院	0	0	0	3	0	0
県立江刺病院	0	0	0	1	0	0

◆ 外科専門医制度修練指定施設・関連施設

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2026. 12
指定	函館五稜郭病院	～ 2026. 12
指定	盛岡赤十字病院	～ 2026. 12
指定	盛岡市立病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立中部病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立宮古病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立二戸病院	～ 2026. 12
指定	岩手県立久慈病院	～ 2026. 12

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立釜石病院	～ 2026. 12
関連	岩手県立千厩病院	～ 2026. 12
関連	能代厚生医療センター	～ 2026. 12
関連	八戸赤十字病院	～ 2026. 12
関連	かづの厚生病院	～ 2026. 12
関連	岩手県立江刺病院	～ 2026. 12
関連	北上済生会病院	～ 2026. 12

◆ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）

指定関連区分	施設名	
指定	岩手医科大学附属病院	～ 2027
指定	函館五稜郭病院	～ 2026
指定	盛岡赤十字病院	～ 2027

指定関連区分	施設名	
指定	岩手県立久慈病院	～ 2027
指定	岩手県立宮古病院	～ 2025
指定	岩手県立中部病院	～ 2027

外科学講座

須藤 佑介



出身大学：岩手医科大学 大学卒業年：2022年

出身地：岩手県盛岡市 座右の銘：質実剛健

岩手医科大学外科に入った理由：

学生実習や初期研修で外科学講座の先生方の診療に触れ、患者さんに真摯に向き合う姿勢と外科治療の面白さに惹かれました。特にも術後退院する際の患者さんの表情は、外科をやっていききたいという意思を固いものにしました。また、故郷である岩手県の方々に少しでも恩返しができるよう、当教室への入局を決めました。

様々ご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

令和6年度岩手県営医療貢献賞を受賞して

吉田 徹（岩手県立中部病院）

この度、岩手県立中部病院が岩手県営医療貢献賞を受賞致しましたのでご報告致します。

この賞は中村元知事の業績を称えて設立された「中村賞」を引き継ぎ、県営医療の発展に著しく功績を挙げた病院および団体に対して送られるものです。毎年一回実施されており、今回は当院と県立千厩病院が受賞致しました。

受賞理由は、コロナ禍において患者数が減少し県立病院の収支が悪化する中で、千人を超す新型コロナウイルス感染症の入院を受け入れるとともに、通常診療との両立にも努めることで持続的な健全経営を実現し、地域医療の要として貢献したことが評価されたものです。

また地域の医療機関と連携強化を積極的に進めることにより、患者紹介率および逆紹介率ともに県立病院の中で最も高く、地域の医療を支える病院として大きな役割を果たしていると評価されました。

さらに令和6年度からは「ハッピープロジェクト」と称して職員全員へのアンケートを実施して病院・各部署単位での改善の取り組みに繋げるなど、患者確保による収支改善のみならず職員の満足度向上を測りながらの組織運営を行なっている事も評価されました。

当院は県立花巻厚生病院と北上病院が統合合併して16年目を迎えますが、公立病院同士の合併で収支改善に成功し

た全国でも数少ない病院です。これまで当院の病院運営が良好に経過してきたことは、一重に大学をはじめ同門の先生方の勤務されている病院との良好な連携が無くしては成し得なかったことであり、改めまして同門の先生方に感謝したいと思います。

県立病院の収支は非常に厳しい状況になっておりますが、今回の受賞を励みとして、今後も地域の医療ニーズを見極めながら、県営医療に貢献していきたいと考えております。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



令和6年度岩手県営医療貢献賞を受賞して

佐藤 一（岩手県立千厩病院）

岩手県立千厩病院は、令和6年度の岩手県営医療貢献賞を受賞いたしました。同門会におきましては外科学講座、同門の皆様から温かいお祝いのお言葉を頂き誠にありがとうございました。



この賞は、岩手県立病院の中で貢献度が高いとされた病院に送られるものです。当院は新型コロナの入院患者を多く受け入れ、同じく受賞した県立中部病院に次ぐ患者数だったことと、加えてこれまでの地域医療、特に高齢者を中心とした救急医療に貢献して来たことが評価されました。歴代の院長や、これまで勤務してきた医師、職員の貢献の長年の積み重ねの基に、この数年の当院職員の努力があって受賞出来たものと考えております。

県立千厩病院は20年ほど前に岩手医科大学のほとんどの講座が常勤医師を引き上げて、医師数が激減する状況となりましたが、外科学講座だけが継続して常勤医師を複数配置し、

外科領域に限らず広範囲の診療の中心を担うことでその機能を保ってきた施設です。歴代の院長も同門の先輩がほとんどであり、東磐井地域の医療を中心となって支えてきたのは、岩手医科大学の外科の医師と言っても過言では無いと考えております。現在も常勤医師配置に加えて、外来、手術、日直などで多くの医局からの派遣を頂き、それに加えて同門の多くの先生方にも診療応援など様々な形で支援を頂いております。今後も外科学講座、巖刀会の皆様のご支援を頂きながら、東磐井地域の医療に貢献し続けたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



第4回 J-STAD（日本敗血症診断・治療研究会） The 4th Presentation AWARDを受賞して

片桐 弘勝

この度、第4回J-STAD（日本敗血症診断・治療研究会）からThe 4th Presentation AWARDという大変名誉ある賞を「肝胆膵外科領域周術期における敗血症の原因と管理」の演題で受賞しました。同研究会は、クリティカルケア領域における敗血症診断・治療のレベル向上を目指し、世界に通用する医師の育成、救急・集中治療領域における臨床研究医の支援、敗血症領域の研究、臨床の発展を目指すことを目的とし発足した新進気鋭の会です。

当教室における成績として、肝切除術と膵頭十二指腸切除術（PD）の周術期成績を提示し、術後敗血症・DIC治療として抗凝固作用のみならずDAMPsの制御による抗炎症作用を意図したrTM・AT3製剤による管理と治療成績を報告しました。

2019/9月（岩手医大附属病院移転後）～2023/12月の期間、359例の肝切除と235例のPDを対象。肝切除後の敗血症性DIC発症率は2.5%、90日死亡率は0.6%。肝切除後の敗血症性DICに対するrTM/AT3を用いた治療のDIC離脱率は77.7%。敗血症性DICを発症した症例の90日死亡率は22.2%でした。PD後の敗血症性DIC発症率は2.9%、90日死亡率は1.2%。PD後の敗血症性DICに対するrTM/AT3を用いた治療のDIC離脱率は57.1%。敗血症性DICを発症した症例の90日死亡率は42.9%。

PD症例において、化学療法施行に伴う敗血症性DICのリスク上昇について大規模な検討が必要であること。胆道再建を伴う術式では特に逆流性胆管炎、肝膿瘍、胆道内圧上昇による胆汁漏リスクが大きく、DKTや腸管蠕動促進薬を積極的に使用していることを報告しました。治療に関連し

て、血小板数の回復がFDP、PTよりもDIC離脱とマッチしていること、肝胆膵領域疾患においては出血性素因が多分にあり出血性合併症が懸念されるところ、有意にrTMの使用と関連づけられる出血性合併症がなかったことを報告しました。高侵襲である肝胆膵外科手術後では、急性期DICスコアが4点を超えるようであれば臨床症状に関係なく重症と判断し、臓器不全の超ハイリスクとみなして治療介入を行うことが重要であると結論づけています。

肝胆膵領域術後の敗血症性DICについて数百を超える大規模データによる報告は多くはなく、救急・集中治療の専門家が多く名を連ねる本会において、このような名誉ある賞を受賞したことに大きな意義を感じております。この場において、日々共に奮闘しているチームメンバーと、このような貴重な機会を与えて下さった佐々木章教授、新田浩幸教授に心より感謝申し上げます。



日本栄養治療学会(JSPEN) フェローシップ賞を受賞して

梅邑 晃

この度、2024年2月に開催されました第39回日本栄養治療学会において、フェローシップ賞を受賞させていただきました。このフェローシップ賞は、栄養に関する研究を行うJSPEN会員の国際的な活動を支援し、研究者の育成を目的としているもので、米国静脈経腸栄養学会および欧州臨床栄養代謝学会での発表に関して学会側で演題発表の支援をお約束頂けるという非常にありがたい賞です。院内で栄養サポートチームの一員として活動する中で、佐々木章教授が先進的に進めてこられた減量・代謝改善手術（MS）の領域でも栄養管理に対する多職種連携チームの介入効果が極めて高いことを実感しておりましたので、今回はMS前後の血中ケトン体の変動に焦点を当てて研究を行いました。当日は、「非アルコール性脂肪性肝炎合併高度肥満症患者の減量・代謝改善手術前後の血中ケトン体と治療効果の関連」という演題でMS直後のケトン体増加が非アルコール性脂肪性肝炎の改善効果に関連するという内容でしたが、発

表時間や質疑応答に厳格な基準が定められており大変緊張する発表の舞台でした。本研究と発表に際してご指導を頂きました佐々木章教授、また研究の進捗に力を貸して頂いた岩崎崇文先生、棚橋洋太先生に深く御礼を申し上げますと共に今後も精進し

てまいりたいと存じます。本当にありがとうございました。



第22回日本ヘルニア学会学術集会 手術記録コンテストを受賞して

川島 到真

この度は第22回日本ヘルニア学会学術集会で手術記録コンテスト受賞することができました。現在、鼠径部ヘルニアに対して私の主軸となっているTAPP法とKugel法についての手術記録を評価頂きました。入局してから各関連施設で先輩方から御指導頂いた賜物と感じております。手術記録を描くことは手術の上達にも役立つと考えられ、ヘルニアに限らず今後も邁進していきたいと思えます。改めまして、各関連施設で御指導頂いた先生方には、この場をお

借りして感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。



令和5年度臨床研修ベストティーチャーを受賞して

片桐 弘勝

この度、令和5年度臨床研修ベストティーチャーという大変名誉ある賞を受賞しました。

自身はスーパーローテーション制度の1期生としてレジデント時代を過ごし、まだ手探りであった「研修の在り方」に向き合ってきた歴史がございます。各学年に20名の研修医を有する研修病院において、シニアレジデントとして約80名の後輩に対して完全屋根瓦式の指導体制に参画できたことが大きな経験であると感じております。

受賞した身ではありますが、表彰される者のみが言葉を述べるのではなく、「真に聞くべき重要な声」として指導される側の言葉や思いを公に発信すべきと考えています。研修医にとってどのような点において指導が良かったのか、どのようなことを求めているのか。また、それらの声を聞くことで研修医自身意識していないが研修医にとって重要

かつ不足している問題点が明らかになってくると思います。指導者たる全ての医師が発信を受ける

ことで、指導者の質も向上し研修も意義あるものになっていくのでは、というのが理想です。1つの案ではありますが、各科を代表する指導医師複数名と臨床研修医全員が、月1回定期的なミーティングを持つことがあればいいかな、と。「みんなの前で共有された言葉を出す」ことが、重要であると認識しています。

誰かがベストティーチャーを受賞したことは他人事ではなく、全員がベストティーチャーでありますように。その組織は強いでしょうし、多くのことがうまくいくでしょう。



令和5年度臨床研修ベストティーチャーを受賞して

棚橋 洋太

この度、令和5年度臨床研修ベストティーチャーに選出して頂きました。自身の考えになりますが、臨床研修時代の経験は、その後の医者人生での基盤になると考えております。私自身は初期研修時代に救急センターで多くの時間を過ごさせて頂きました。そこで小鹿先生から外科的手術手技や術後管理、集中治療、そして患者様との向き合う姿勢について学び、その経験が今の自身の基盤となっており、また外科医としてのモチベーションにつながっています。そのため研修医に多くの経験をさせること、教育を行うことは非常に重要であると考えます。

医局内で研修指導についての取り決めはなく、各自の判断で行っているのが現状です。今後は個人単位ではなく、医局全体で研修医に対しどのようなカリキュラムを組むか

検討することが非常に重要だと考えます。そういった取り組みは間違いなく外科に興味を持つきっかけになり、結果として医局員の増加につながると思います。

私自身はまだ未熟であり、指導して頂く立場にありますが、その状況でも後輩や研修医、学生に指導することは医師として責務であります。しっかりした指導を行うには自身に技術、知識がなくてはできません。私自身、引き続き研鑽して参りますので今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



第60回日本周産期・新生児医学会学術集会 論文賞を受賞して

小山 亮太

この度、第60回日本周産期・新生児医学会学術集会において、「新生児卵巣嚢胞の予後予測因子としての胎児期嚢胞径の変化についての検討」の題で投稿しました論文が論文賞を受賞しました。前任地の群馬県立小児医療センターでのデータを解析して論文化したものになります。新生児の卵巣嚢胞は稀に捻転壊死を起こすことがあり、治療介入の基準として、単純性の嚢胞であれば4 cm以上を適応としている施設が多いとされますが、3 cm台の大きさであっても自然退縮を待つ間に捻転する症例の報告は散見されます。これに対し、何らかの手術適応基準を追加で設定することができないかという目標のもと、過去65例を後方視的に検討し、胎児期からの嚢胞径の変化率や最大時の在胎週数などが基準になりうることを提示した論文になります。この論文作成にあたり、ご指導いただいた先生方に改めて感謝の意を申し上げますとともに、この場で紹介をさせていただきます事を荣誉に思います。昨今急激に進む少子化に対し、政策の観点では何ら有効な手立てがなされていないのが現状です。そんな中でこそ、小児を扱う我々はより低侵襲かつ長期予後の改善を目

指していかなければなりません。今回の論文では手術適応の設定という目標と同時に手術回避可能性についてもセットで考えています。無駄な侵襲を避け、必要な手術を必要なタイミングですることの重要性を、本論文を書きながら痛感したところであります。最後になりますが、今後も引き続きご指導を賜りたく、切にお願い申し上げます。



第54回胃外科・術後障害研究会 優秀演題賞を受賞して

棚橋 洋太

この度、第54回胃外科・術後障害研究会におきまして優秀演題賞を受賞することができました。

今回は「腹腔鏡下スリーブ状胃切除後のIntrathoracic sleeve migrationが与える影響」というテーマで発表させて頂きました。近年注目されているスリーブ状胃切除後に胃管が縦隔内に嵌入するintrathoracic sleeve migration (ITSM)に着目し、ITSMの発症が減量効果不良や逆流性食道炎をきたすことについて報告させて頂きました。

佐々木章教授、梅邑晃准教授にスライドの作成、発表のご指導頂かなければ受賞することはできませんでした。今後は

自身の力でこのような賞を受賞できるように、また、自身がして頂いたことを後輩にできるようになることを目標に、引き続き研究活動に取り組んでいきたいと考えております。



巖刀会学術賞を受賞して

熊谷 秀基

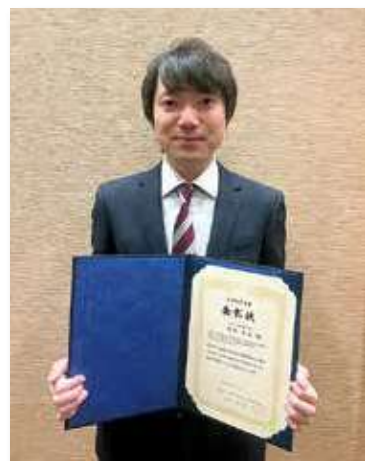
この度は歴史ある巖刀会学術賞を受賞できたこと、身に余る光栄に存じます。また、選出して頂いた巖刀会の皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

受賞論文「Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease and TGF- β signaling pathway」では、減量・代謝改善手術前後で採取した保存血清を用いてプロテオーム解析を行い、変動がみられたタンパクについて酵素結合免疫吸着測定法および免疫組織化学染色の手法を用いて検証実験を行いました。プロテオーム解析では、TGF- β シグナル伝達経路に関連する多くのタンパクが手術前後で変動しており、そのうち5つのタンパクに着目して非アルコール性脂肪性肝疾患との関連を検討すると、Asporinが手術後の肝線維化を予測するマーカーとして、既存のマーカーよりも有用である可能性を示すことができました。Asporinと非アルコール性脂肪性肝疾患との関連は過去にほとんど報告がなく、本研究が非アルコール性脂肪性肝疾患における肝線維化の病態解明の一助になる

ことを期待しております。

最後に、このような貴重な研究の機会を与えて下さった佐々木章先生、梅邑晃先生、研究遂行に際してご指導、ご協力いただいた先生方、スタッフの方々に心より感謝申し上げます。

今後も岩手医科大学外科学講座の発展に少しでも貢献できるよう精進して参ります。巖刀会の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



患者さんの声

岩手医科大学附属病院 外科 婦人科
医療スタッフの皆様へ

寒さが厳しくなってきました。

皆様におかれましては人々の命を救う為に
日々励んでおられることと思います。

私は [REDACTED] と申します。

[REDACTED] には肝臓腫瘍切除などの
手術をしていただきました。また 2012年、2023年
には婦人科で手術をしていただきました。

その都度大変お世話になりました。

本当にありがとうございます。

今は痛みもなく普通の生活を送ることが
できています。しかし、病気の事を考え過ぎると
不安になることがあります。

これから誠実で患者のことを思いやる
ことのできる素晴らしい先生方、沢山の
看護師、スタッフの皆様にも助けていただいた
ことを忘れずに、生きていきたいと思っています。
本当にありがとうございます。

お忙しいとは思いますが、季節柄皆様も
お体を大事なお過ごし下さい。

2024年 12月 18日

これからも患者さんに寄り添った、安全で良質な医療が提供できるよう努めてまいります。

学位論文報告

熊谷 秀基

学位論文名：

Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease and TGF- β signaling pathway

掲載雑誌：Endocrine Journal 2024;71 (2) :139-152

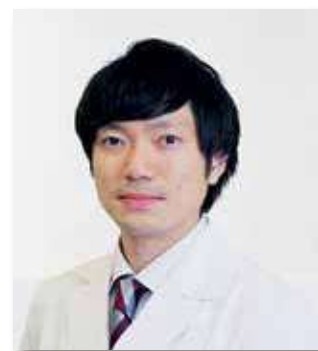
大学院博士課程の学位論文は、「Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease and TGF- β signaling pathway」で、Endocrine Journal (Impact Factor : 2.86)に掲載されました。

高度肥満症患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術は、減量効果のみならず、非アルコール性脂肪性肝疾患を改善し得る効果的な治療法として認識されつつあります。非アルコール性脂肪性肝疾患の診断上の問題点として、未だに肝生検がゴールドスタンダードであることが挙げられます。非侵襲的なスコアリングシステムも報告されていますが、複数の項目を組み合わせたものであり、煩雑だけでなく、精度も決して高いとは言えません。

本研究では、非アルコール性脂肪性肝疾患のバイオマーカー探索を目的に、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術前後で採取した保存血清を用いてプロテオーム解析を行い、変動がみられたタンパク質に着目し、酵素結合免疫吸着測定法および免疫組織化学法の手法を用いて検証実験を行いました。

対象は、2020年から2022年に岩手医科大学附属病院で腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を受けた36名の高度肥満症患者です。はじめの6名に対して、プロテオーム解析を行い、TGF-

β シグナル伝達経路に関連する多くのタンパク質が手術前後で変動していることが分かりました。そのうち、いくつかのタンパク質に着目して、酵素結合免疫吸着測定法を行うと、Asporinが手術後の肝線維化を予測するマ



ーカーとして、既存のマーカーよりも優れている可能性が示唆されました。術中肝生検により採取した肝組織を用いて免疫組織化学を行うと、Asporinが非アルコール性脂肪性肝疾患の肝組織中に発現し、病勢に関連していました。

Asporinと非アルコール性脂肪性肝疾患との関連は過去にほとんど報告がありません。

本研究が非アルコール性脂肪性肝疾患における肝線維化の病態解明に寄与し、将来的にAsporinが肝線維化を予測するバイオマーカーの1つになればと期待しております。

本研究では、酵素結合免疫吸着測定法、免疫組織化学法といった、これまで教室内であまりノウハウのなかった研究手法を用い、多くの先生方、スタッフの方々にお力添え頂きながら、学位論文として形にすることができました。学位研究を通じて、今後の糧となるような多くの経験を積ませて頂きました。このような研究の機会を下さった佐々木章先生、梅邑 晃先生に心よりお礼を申し上げます。

大塚 観喜

学位論文名：

Use of digital PCR to detect variability in circulating tumor DNA level among colorectal cancer patients with different metastatic sites

掲載雑誌：Journal of Iwate Medical Association 2024;76 (1) : 9-20

大学院博士課程の学位論文である“Use of digital PCR to detect variability in circulating tumor DNA level among

colorectal cancer patients with different metastatic sites”は、Journal of Iwate Medical Associationに掲載されました。

近年、腫瘍から血中に放出される腫瘍特異的なDNAであるCirculating tumor DNA (ctDNA)が、術後の微小腫瘍遺残や再発予測を推し測るバイオマーカーとして有用であるという報告が散見されております。しかし、それと同時に癌腫や転移臓器によりctDNAの検出限界が明らかになっており、大腸癌の転移臓器においては肺転移症例や腹膜播種症例は肝転移と比較してctDNAの検出が困難とされております。

す。本研究では、ctDNAの高感度検出法であるdPCRを用いて、大腸癌の転移巣別にctDNAが検出可能かを検証したのになります。

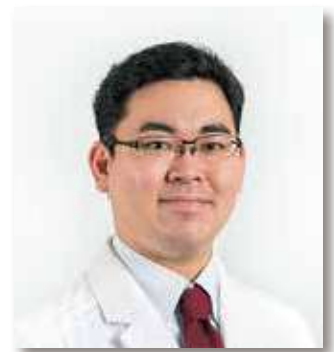
2016年6月から2022年5月までにclinical Stage III以上の結腸・直腸癌患者139例のうち、化学療法を施行した遠隔転移を有する22例をNext generation sequence (NGS)を用いて遺伝子変異スクリーニングを施行しました。多臓器転移を除き、dPCRで追跡可能と判断した、肝転移3例、肺転移4例、腹膜播種2例、リンパ節転移1例を本研究の対象症例としました。各症例において、Valiant allele frequency (VAF)が10%以上、read数が100以上ある遺伝子変異を1つずつ選定し、各症例の術前、遠隔転移治療前、Progressive disease (PD)時、Stable disease (SD)、Partial response (PR)のctDNA陽性・陰性の確認、及びVAFの測定を行いました。また、各転移巣の最大径とVAFを照らし合わせ、検出状況を解析しました。

研究の結果、本症例全てにおいて原発巣切除後いずれかのタイミングで血漿からのctDNA検出が可能でした。また、腫瘍細胞増殖能が高いと思われる化学療法施行前においては、肝転移症例と非肝転移症例でVAFの有意差は認めませんでした(肝転移vs非肝転移, 中央値13.1 [0.35 – 22.3] vs. 0.1 [0 – 5.2], $p = 0.11$)。CTでの画像所見とVAFの相関関係においては、いずれの転移巣・期間にて有意な関係はありませんでした。

んでした。

ctDNAの研究ではNGSが主流とされておりますが、本研究では200倍ほどの感度があるdPCRで腫瘍の根幹となる特異的遺伝子変異を追跡したため、肺転移や腹膜播種症例においてもctDNAを検出することが可能であったと判断しました。また、ctDNAは分裂増殖期にある腫瘍細胞量を反映するため、腫瘍最大径とVAFとの相関は認められませんでした。以上より、本研究のctDNA検出システムは、検出が困難とされている大腸癌の肺転移や腹膜播種にもctDNA検出が可能であり、腫瘍細胞の増殖能を鋭敏に反映しているctDNAは、今後の癌診療において有用なバイオマーカーになると示唆されました。

指導医である八重樫瑞典先生、医歯薬総合研究所 医療開発研究部門 西塚哲教授、臨床腫瘍科 岩谷岳教授をはじめ、研究から論文作成に至るまで御指導御教授いただきましたすべての先生方に深く感謝申し上げます。今後も、研究・臨床ともにお世話になることがあるかと思いますが、何卒御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



口田 脩太

学位論文名：

Renoprotective effect of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors in liver transplant recipients

掲載雑誌：Journal of Iwate Medical Association 2024;76 (2):61-73

大学院博士課程の学位論文である“Renoprotective effect of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors in liver transplant recipients”は、Journal of Iwate Medical Associationに掲載されました。

本研究は、肝移植患者に必要な不可欠である免疫障害薬、カルシニューリン阻害薬(CNI)による腎毒性への対策として、腎性貧血治療薬であるHIF-PH阻害薬(HIF-PHI)の腎保護効果を検討しました。岩手医科大学附属病院で肝移植を受けた患者のうち、HIF-PHIを投与された患者を対象として検討しました。患者背景として、当院で肝移植を受けた患者は移植後42か月間でeGFRの漸進的な悪化が観察され

ました($p < 0.001$)。HIF-PHIを投与された患者では投与開始後6か月でeGFRが有意に改善し[33.5 (27.6–53.6) vs. 46.5 (36.3–58.8), $p = 0.049$]、貧血も改善が認められました。肝移植患者におけるHIF-PHI投与は腎機能が徐々に悪化する疾患背景において、腎機能の維持と貧血改善に寄与し、CKDと貧血を有する肝移植患者に対する有望な治療選択肢となる可能性が示唆されました。今後はさらなる研究や動物モデルを用いた詳細なメカニズム解明が期待されます。本研究の遂行にあたり、多大なるご指導・ご支援を賜りました片桐弘勝先生、このような貴重な機会を与えて下さった佐々木章教授、新田浩幸教授、ご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

第186回東北外科集談会

新田 浩幸（第186回東北外科集談会 当番世話人／岩手医科大学医学部外科学講座 教授）

このたび2024年秋の東北地方会（第186回東北外科集談会、第112回日本胸部外科学会東北地方会、第44回日本血管外科学会東北地方会、第101回日本小児外科学会東北地方会）を、2024年9月14日（土）にマリオス（盛岡地域交流センター）で開催させて頂きました。209名の参加と多くの企業の協賛をいただき、若手医師からのすばらしい発表と活発な討論により有意義な会となりましたことを報告させて頂きます。また、同門の先生には多くのご寄付を頂いたことを改めて感謝申し上げます。



The 5th meeting of Three East Asian countries Metabolic Surgery (TEAMS) in Shanghaiに参加して

梅邑 晃

2024年3月9日に上海でFudan UniversityのProf. Yaoによって新型コロナウイルス感染症終息後初めてのTEAMSが盛大に開催されました。上海は東京都とほぼ同じ人口を有する都市であり、中国のエネルギーを間近に感じることが出来る非常に刺激的な都市でした。TEAMSは、中国、韓国、日本で減量・代謝改善手術（MS）に関わる臨床医や研究者が集って世界のMSに追従するのみならず、東アジアからもエビデンスを出そうという会議です。これまで、TEAMSが主導した研究でも佐々木章教授の御指示のもとで教室のデータを含めて提供し、この領域のトップジャーナルに掲載されています。今回、3か国間のMSに注力している若手外科医の交流を目的として、佐々木章教授からご推薦を頂きまして参加することができました。MSに関わる中国や韓国の先生方は非常にパワフルで、手術に対する高い好奇心と患者アウトカムをどれだけ良くできるかというマインドを常に持っておられるのを肌で感じることができました。2025年になり中国への観光目的の渡航ではビ



ザの取得は不要となりましたが、2024年2月時点では岩手県民は中国札幌総領事館に直接出向いてビザを取得しなければならないという社会勉強もさせて頂きました。TEAMSで得たネットワークと知識を今後のMSでも実践してまいりたいと思います。今回、TEAMSへの参加のご推薦を頂きました佐々木章教授に改めまして感謝申し上げます。

32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES)に参加して

菊地 晃司

この度、令和6年6月11日～15日にオランダのMaastrichtで開催された 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery (EAES)に参加しましたのでご報告させていただきます。

今回「Is the pure laparoscopic hepatectomy in liver segments 7 and 8 safe?」という演題で発表いたしました。本演題は、当教室で力を入れて取り組んできた腹腔鏡下肝切除術に関



する内容を報告したものです。これまでも当教室の先生方が論文で報告し、エビデンスを積み上げて来た領域であり、同テーマを国際学会で発信できたことを大変光栄に思います。

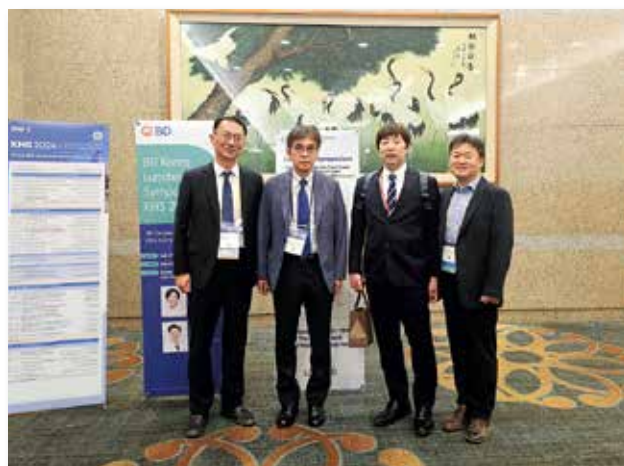
自分自身は英語を流暢に話せるわけではないので、発表練習と想定される質問への回答の練習、分からない質問が来たときの回答の練習を繰り返して本番に臨み、なんとか発表を無事終えることができました。

コロナが収束し、今後海外学会への参加の機会が増えてくるかと思います。学会発表のためのその場しのぎの英語ではなく、本当の意味での英語力を身につける努力をしなければいけないと痛感した学会でした。最後に、佐々木章先生、新田浩幸先生、片桐弘勝先生、梅邑 晃先生をはじめ、研究遂行にご指導いただいた諸先生方、ご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

The 18th Congress of the Korean Hernia Society and 2nd International Symposium 2024(KHS2024)に参加して

梅邑 晃

今回、日本ヘルニア学会（JHS）とKHSとの持続的な交流を深めるべく、そして2025年に岩手県立宮古病院院長の川村英伸先生が主催される第23回日本ヘルニア学会学術集会におけるKHSとのジョイントシンポジウムの構築を目的としてKHS2024に参加させて頂きました。International Symposiumの演者として選定頂きまして、岩手医科大学外科学講座でこれまで蓄積してきたヘルニア診療の全てを凝縮してKHSの先生方にお伝えすることができました。岩手医科大学附属病院では、主に再発鼠経ヘルニア、大きなヘルニア門を有する腹壁癒痕ヘルニア、傍ストーマヘルニアや腹膜外修復法による手術など比較的難易度の高い手術の多くを低侵襲手術で行っており、これらの手術ビデオを供覧させて頂くことでKHSの先生方と多くのディスカッションをすることができました。ソウルは非常にエネルギッシュな都市であり、アクセスも良く毎年外科系の大きな学会が何かしら開催されておりますので他の専門領域の先生方の海外発表の機会としても非常に良いロケーションであると



実感致しました。今回、このような機会を頂きました佐々木章教授、川村英伸先生に改めまして感謝致します。写真は、KHSの会場でJongno-gu先生、HyungJin Kim先生、川村英伸先生と4人で撮影し、Jongno-gu先生にお送り頂いたものです。

The 17th Asia Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgeons of Asia (ELSA)に参加して

梅邑 晃

新型コロナウイルス感染症が終息して、多くの医局員の先生方とELSAに参加する機会を頂きました。今回のELSAはリゾート地としても有名なインドネシアのバリ島

で開催されました。自分は、教室の高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後のCT volumetryを用いた評価の有効性についてoral presentationで発表して参りました。

た。ELSAには、国内の有名な先生方をはじめ、アジアのtop surgeonsが集う学会で様々な領域の先生方とコミュニケーションを取ることが出来ました。また、佐々木章教授、新田浩幸教授も参加されエキゾチックな雰囲気のレストランで会食もでき、久しぶりに海外学会参加の醍醐味が詰まった学会となりました。今後、多くの中堅や若手の医局員の先生方にもレクリエーションを兼ねて、しっかり勉強する国際学会として参加を促していきたいと思います。ELSAでMSに関するoral presentationの機会及びご指導を頂きました佐々木章教授に深く御礼を申し上げます。

武田 大樹

2024年8月にインドネシア・バリで開催された、アジア内視鏡外科学会（ELSA）2024に参加させていただきました。久しぶりに海外学会に参加させていただける嬉しさとともに、その準備期間は英語での発表に不安が消えない毎日でした。

私の所属する肝胆膵外科学会では、既に完全英語での発表・討論が導入されており、毎年発表するごとに自分の英語力のなさを痛感していたところでした。今回は助け舟を出してくれる座長もいない海外での発表で、自分の英語力を鍛え、度胸を身につける良い機会と思い、参加してみました。

当然、度胸だけでは英語力は身につけません。かといって英会話教室、駅前留学に行く時間は当然ない。少しでも英語を上達し、身近に感じるにはどうしたらいいだろうか…。実はELSA参加の半年ほど前から、自分が毎週欠かさず視聴している海外サッカー番組で勧められていた「Duolingo」という語学アプリを利用して、毎日10分程度ではありますが、必ず英語の学習を行うようにしていました。このアプリでは文字を打つだけでなく、リスニング、スピーキングも学習可能で、毎日英語を身近に学ぶことができます。しかも無料！便



利な時代になったなあと実感しております。とりあえず毎日繰り返してみました。果たしてその成果は出るかどうか…。

日本の蒸し暑い夏と違い、バリはからっとした気持ちのいい暑さで、暑いけど快適でした。海外学会の楽しみは、学会での勉強もさることながら、その土地の美味しいものを食べたり、観光をしたりというのは今でも変わらないです。普段食することも少ない東南アジア独特のクセのある料理も自分にはとても美味しく感じられました。地元のすっきりした味わいの「BINTANG ビール」も最高でした。一緒に行った若い先生方と「ウォーターボム」という巨大プール施設で楽しめたのも良い思い出になりました。

さて、今回私は「Robot-assisted distal pancreatectomy with lymph node dissection for pancreatic tumors」という演題名で、当科で導入したロボット支援下尾側膵切除の導入期の成績、また悪性腫瘍に対する成績について発表させていただきました。日本では2020年4月に膵癌を含む膵腫瘍に対してリンパ節郭清を伴うロボット支援下尾側膵切除術が保険収載され、われわれはやや遅れたものの2022年5月より導入を行い、現在まで症例を重ねてまいりました。まだまだ国内の他の施設に比べれば症例数も少なく、なおかつ海外ではさらに様々な術式がロボットを用いて行われていという現状ではありますが、日本の癌に対する手術における丁寧なリンパ節郭清はまさにロボット手術が非常に有効であると考えられます。その導入期の成績においても、これまでに行ってきた腹腔鏡下手術に比べて膵液瘻は少ない傾向にあり、術後在院日数は短い結果でありました。まだまだ少ない症例での検討ではありますが、ロボットによる非常に繊細な手技による恩恵と考えられます。その手術手技には他国からの参加者からも関心を持たれ、発表後には質問を受けました。当然「Duolingo」で鍛えた英語でスムーズに答えられた…はずです（笑）。当科での治療成績は



世界でも自信を持って発信できるのだと、非常に嬉しく感じました。現在、当科では臍頭十二指腸切除に対してもロボット支援下手術の導入を進めており、その成績をまた発表するのが楽しみであります。

海外の学会に参加すると、日本では様々な制限の下で実施できない治療法や手術などが既に何年も前から平気で導入されていたり、そんな方法いいの？という驚きの治療法が日常で行われていたり…。国内の学会とは一味違い、その世界基準に驚かされると共に、自分の視野が狭く、本当にちっぽけだなあと世界の広さを改めて思い知らされます。今回受けた刺激を岩手の、そして日本の医療に還元できるように、いっそう努力を続けようと思いながら、名残惜しくインドネシアの地を後にしました。

今回、発表内容をご指導いただきました佐々木章教授をはじめ、海外学会参加を支えていただきました医局の先生方、肝胆膵チームに感謝いたします。ありがとうございました。

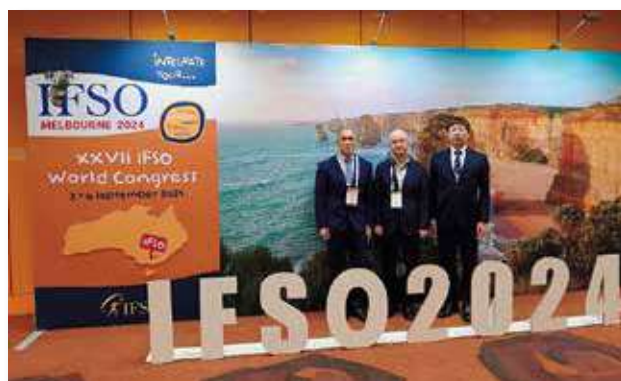


The 26th World Congress of the International Federation for the Surgery of Obesity and Metabolic Disorders (IFSO)に参加して

梅邑 晃

2024年9月にオーストラリアのメルボルンで開催されたIFSOに佐々木章教授と共に参加する機会を頂きました。オーストラリアは、ほぼ冬の気候で日本から参加される先生方の多くがユニクロのダウンジャケットを丸めて持って来られているという状況でした。日本の減量・代謝改善手術（MS）の領域は海外と比較して術式選択や症例数の面では遅れを取っていると認識されています。一方で、病変がない胃や腸管を意図的に切除したり吻合したりすることには一定の術後合併症のリスクもあるため、MSの医学的な治療効果を詳細に検討していくことはメスを取る外科医の義務であることを自分は佐々木章教授から常々御指導頂いておりました。そのような観点からも、IFSOのoral presentationでMS後の心機能改善効果について多くの海外の先生方の前で発表できたことは自分にとっても非常に良い経験となりました。会場では、IFSOのモニュメントの

前で日本肥満症治療学会の理事長おられる佐々木章教授と副理事長でおられる笠間和典先生と写真を撮らせて頂きました。IFSOはMSに関わる外科医の最も権威がある学会であり、このような貴重な発表の機会を頂きました佐々木章教授に深く御礼申し上げます。



緩和ケア 命に寄り添って

西和賀高 小原さん(さわうち) 病院長 招き講座

西和賀

西和賀高(助川) 剛宋校長、生徒1

06人)は20日、町立西和賀さ

わうち病院長の小原真さん(56)

を同校に招き、緩和ケアをテー

マとした講座を開いた。がん患

者と家族の心身の苦痛を和らげ

る意義が紹介され、医療職の仕

事のやりがいを実感した。

総合的な探究の時間の一環

で、1年生44人が聴講した。小

原さんはがん患者が心身の痛み

や死への恐怖、自分の人生に対

する問いに直面すると指摘。「医

療者はそれを受け止め、対処す

る。全て取ることとはできないが

寄り添うことはできる」と強調

した。

丁寧なケアを続けることで

「今まで何一つ残っていないので、

緩和ケアの役に立ちたい」と心

を開いてもらったことや、最期

をわが家で過ごしてもらったた

め、点滴スタンドをネット通販

で準備する家族など、「忘れら

れないことはたくさんある」と

振り返った。

病院長を招いた講座は初め

ずいた。

て。生徒は旧沢内村の生命尊重

行政も学び、地域医療に関心を

高める。松平首々さんは「緩和

ケアに取り組む医療従事者も負

担は大きい。命を守るとい

仕事の魅力が伝わった」とうな

ずいた。

生徒は旧沢内村の生命尊重

行政も学び、地域医療に関心を

高める。松平首々さんは「緩和

ケアに取り組む医療従事者も負

担は大きい。命を守るとい

仕事の魅力が伝わった」とうな

ずいた。

生徒は旧沢内村の生命尊重

行政も学び、地域医療に関心を

高める。松平首々さんは「緩和

ケアに取り組む医療従事者も負

担は大きい。命を守るとい

仕事の魅力が伝わった」とうな



生徒に医療職の魅力を伝える小原真院長

岩手日報 2024年5月23日掲載

しこり 普段から確認を

病院の 実力 ～岩手編 193

乳がん

今回は、乳がんを取り上げる。一覧表には、2023年の切除手術や再建手術の実績などを示した。

病院の実力「乳がん」

医療機関別2023年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	乳がん手術		再建手術		遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)の遺伝子検査(人)
	全切除 (件)	自家組織 (件)	人工乳房インプラント (件)	自家組織 (件)	
岩手					
県立中央	223	132	2	0	151
岩手医大	177	101	16	12	123
青森					
八戸市立市民	179	97	0	0	115
秋田					
秋田大	119	66	5	2	51
宮城					
東北大	278	143	14	22	150
仙台市立	239	76	0	6	66
石巻赤十字	198	90	0	1	57
国・仙台医療セ	155	66	0	9	47

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター

全国の調査結果は19日の「安心の設計」面に掲載しました。

乳がんの手術は、乳房をすべて切除する全切除と、がんとその周囲を取り除く部分切除がある。がんの大きさが広がり、乳房のサイズを踏まえて決める。全切除では、希望すれば再建手術を受けられる。部分切除では、再発を防ぐため手術後に放射線を照射する。

全切除後の再建手術には、自身のおなかや背中の筋肉や脂肪などの自家組織を使う自家再建と、シリコン製の人工乳房(インプラント)を使う方法がある。

再建手術では、自家再建に加え、13年に人工乳房に公的医療保険が適用された。20年にも人工乳房の新たな製品が対象になった。再建手術の保険適用範囲の拡大と技術の進歩によって、全切除を選択する患者が増えてきている。

遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)は、がんになりやすい特定の遺伝子

治療方針患者ごと考慮



岩手医大 外科学講座 乳腺疾患チームの石田和茂講師(44)提供写真

乳がんは、薬物療法・手術・放射線治療などを組み合わせて治す時代で、何通りもの治療方針がある。どんな治療をどの順番で行うのか、乳がんの進行度や特徴を考慮しながら一人一人に合った治療方針を決めていくため、まさに「オーダーメイド医療」といっても過言ではない。

乳房にできたしこりを乳

卵巣を摘出する手術(予防切除)が保険対象になった。乳がんは、女性がかかるがんの中で最も多いがんだが、早期に発見し、適切な治療を受ければ、命を落とさずに済むことも多い。

乳房の形やしこりを確かめ、気になる症状があれば乳腺外科を受診し、40歳になったら2年に1回の検診を続ける。

がんと確定するためには、しこりに針を刺して組織を採取し、顕微鏡で確認する「針生検」という検査を行う。針生検では同時に、どの種類の薬が効きやすいかなど、がんの特徴もわかる。その上で、肺や骨などに転移がないかをコンピュータ断層撮影法(CT)で調べ、進行度を判断。これらの結果をもとに、個別治療を組み立てることができ。ステージ1-3の患者には、手術と薬物療法の2本立てで治療する。手術は乳房にできたがんやわきのリンパ節に転移したがんを切除するために、薬物療法は血液やリンパ液を通じ

て全身に広がっていると考えられる目に見えない小さながん細胞を殺すために行う。

医療の進歩で治療の選択肢も増えたが、進行度によっては過剰治療もあるため、不要な副作用を減らすことで患者の負担を減らすことも考えながら、最適な治療を選択している。

これから乳がん治療に臨む人には、日本乳癌学会の「患者さんのための乳がん診療ガイドライン」をお薦めしたい。書店やインターネットで購入することができ、Q&A形式でわかりやすく患者の悩みや不安に答えてくれる。また、患者会「アイリスの会」に連絡し、乳がん経験者から治療の体験談を聞いたり、相談にのってもらったりすることも安心につながると思う。

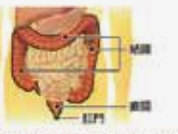
治療を開始する時は、必ずゴールを見据えて主治医や医療従事者とチームで取り組むことが重要だ。そして、わからないことがあれば患者側からも積極的に主治医に質問してもらおうなど、双方のコミュニケーションを大事にしながら治療を進めていきたい。

(聞き手・有村瑞希)

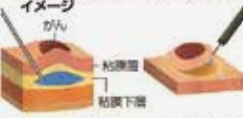
大腸がん 早期なら内視鏡治療

[illegible]

◎大題



④内視鏡的粘膜下層剝離術(ESD)の



粘膜下層に生理食塩水などを注入し、がんと腸管を浮かす → 電気メスでがんの腸管を切開し、はがす

手術技術進歩 肛門機能温存も

手術技術進歩 肛門機能温存も

封鎖されたアミューズのロケットに弾頭を接続し、医師が遠隔操作する。手ぶれが少なく、繊細な動きが出来る。術後腫れや痛み、回復が早く、手術中の出血量も少ないとされる。

こうした手術技術の進歩により、がんが肛門付近にあっても人工肛門（ストーマ）を造らず、肛門の機能を残せるケースもある。ただ、肛門を温存させて便を十分にためられず、排便回数が増えることも多い。

国立がん研究センター中央病院（東京）大腸外科部長の金子幸典氏は「術後、排便機能はとれるらしいが、術後が苦しいのは、がんのある部位や広がりによって異なる。手術の方法、術後の生活について、主治医や看護婦からよく説明を受けなければならない」と話している。（安藤孝一）

主な医療機関の大腸がんの治療実績(2023年)

北海道	0	2	0	福岡大	73	141	9	07	大創公立大	171	80	72	55	
鹿児島県立大	272	85	180	博徳大	173	123	26	84	関西西大	169	155	11	49	
札幌大	206	61	140	公立昭和	162	103	50	71	守口聖仁会	158	143	5	24	
函館聖徳大	195	88	96	三井製鉄	161	98	08	—	市立立附	155	98	41	19	
山形大	155	88	96	専修大	157	122	7	34	聖明学院大	153	95	98	70	
山形大	154	104	30	大宮大	144	110	31	158	聖一大学	149	92	05	12	
山形大	134	127	7	大宮大	144	110	31	158	公立立附	149	92	05	12	
山形大	137	94	30	11	東海大	143	158	0	八尾市立	140	29	105	6	
山形大	119	25	63	43	東京女子大	139	115	19	189	兵庫				
山形大	205	152	0	31	神奈川				姫路南十字	427	184	38	40	
山形大	174	135	25	21	相模大	226	110	69	116	姫路南十字	202	125	125	52
山形大	231	165	0	71	相模大	221	152	44	35	姫路南十字	254	151	70	111
山形大	212	189	0	1	相模大	203	118	74	34	姫路南十字	128	128	14	21
山形大	149	59	58	36	相模大	200	145	19	0	姫路南十字	181	161	0	47
山形大	138	119	0	25	相模大	199	62	79	130	姫路南十字	181	128	51	105
山形大	136	91	63	49	相模大	182	89	36	162	姫路南十字	158	69	53	21
山形大	141	91	0	12	相模大	150	100	37	20	姫路南十字	157	97	25	16
山形大	260	109	30	44	相模大	155	131	17	40	姫路南十字	138	85	24	27
山形大	210	75	110	56	相模大	147	145	0	16	姫路南十字	144	94	38	11
山形大	172	109	39	70	相模大	249	120	44	21	姫路南十字	139	106	22	65
山形大	171	101	18	33	相模大	212	132	66	28	姫路南十字	135	74	42	22
山形大	144	71	59	19	相模大	195	135	44	41	姫路南十字	238	196	50	48
山形大	135	80	30	8	相模大	170	40	121	—	姫路南十字	182	143	39	72
山形大	228	113	42	11	相模大	100	53	46	19	姫路南十字	126	60	48	63
山形大	217	148	27	77	相模大	185	99	39	37	姫路南十字	108	81	22	58
山形大	184	68	86	53	相模大	153	74	77	36	姫路南十字	250	111	128	55
山形大	178	97	31	25	相模大	175	70	105	71	姫路南十字	195	97	41	19
山形大	183	139	2	23	相模大	266	113	7	—	姫路南十字	152	84	60	18
山形大	179	90	61	18	相模大	187	93	56	53	姫路南十字	141	100	39	42
山形大	135	75	11	9	相模大	330	117	389	110	姫路南十字	216	120	65	159
山形大	530	324	191	254	相模大	504	108	73	66	姫路南十字	202	154	10	4
山形大	250	159	81	110	相模大	536	118	38	106	姫路南十字	196	125	55	156
山形大	227	132	80	84	相模大	504	118	38	106	姫路南十字	182	113	44	41
山形大	210	131	9	42	相模大	504	118	38	106	姫路南十字	182	113	44	41
山形大	184	125	54	125	相模大	504	118	38	106	姫路南十字	182	113	44	41</

「国」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療推進機構、「セ」はセンター。「」は施設名または部門。省略科目は愛西市病院からは別表がなかった。※関連病院で実施

40歳以上便潜血検査を

病院の實力 ～岩手編 194

大腸がん

今回の病院の實力は、大腸がんを取り上げる。一覧表には、手術や内視鏡治療の治療実績を載せた。

大腸は、結腸と直腸に分かれる。がんが腸管の内側にある粘

病院の實力「大腸がん」
医療機関別2023年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	全手術 (件)	腹腔鏡手術 (件)	ロボット支援手術 (件)	内視鏡的粘膜下層剥離術 (EMR) (件)
岩手				
県立中央	205	152	0	31
岩手医大	174	135	25	21
青森				
弘前大	119	25	63	43
十和田市立中央	91	82	0	14
秋田				
秋田赤十字	141	91	0	12
市立秋田総合	81	21	45	14
秋田大	57	41	0	30
宮城				
仙台厚生	231	165	0	—
仙台オープン	212	186	0	71
石巻赤十字	149	59	58	36
仙台市立	138	119	0	25
東北大	138	51	63	49
東北医科薬科大	101	68	20	17
国・仙台医療セ	—	—	—	2

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は17日の「安心の設計」面に掲載しました。

生活習慣見直し 放置禁物



岩手医大外科
学講座下部消化
管チームの八重
樫瑞典講師(41)

膜下層のごく浅い部分にとどまっていれば、内視鏡治療の対象となる。がんの形や大きさによって方法が変わる。

「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」は、専用のナイフで病変の周りの粘膜を切開し、その下にある粘膜下層をめくるといった方法で、がんを取り除く。開腹手術と比べ、体の負担が少なく、回復が早いとされる。

手術では、がんとその周辺の腸管やリンパ節を切除する。開腹手術のほか、おなかに数か所の穴を開けて行う腹腔鏡手術、ロボットを使う手術がある。

「提供写真」に大腸がんの治療や特徴について聞いた。

大腸がんは、早く見つかれば見つかるほど長生きできる可能性が高く、ステージ0～3の5年生存率は8～9割にのぼる。かなり進行したステージ4でも近年の化学療法は進歩によって2割の人が生きられ、なかには手術によって完治する患者も少ないが、一定数いる。

早期症状がほとんどないため、早期発見には検査が何より重要だ。40歳以上の人は、便に血が混じっていないかを調べる「便潜血検査」を受けてほしい。

一方、本県の大腸がんの罹患率は全国でもトップクラス。寒い地域なため、運動不足になりがちで、肥満率が高く、飲酒や喫煙者も多い。いずれも大腸がんの発症リスクを高めている。本県の検診受診率は全国平均より高いものの、最近では進行がんで見つかる患者も増えてきた印象で、放置は禁物だ。

近年、進行した大腸がんの場合、手術前に放射線療法や化学療法を組み合わせて行う手法「Total Neoadjuvant Therapy(TNT)」が開発され、主流となりつつある。がんを残さずきれいに切除するために、数か月から半年ほどかけて術前治療であるTNTによってがんを小さくし、がんの微小な転移を予防する。

早期には内視鏡治療

病院の實力 ～岩手編 195

胃がん

今回の「病院の實力」は胃がんを取り上げる。一冊表には、2023年の手術や内視鏡治療の実績を載せた。

内視鏡治療は、胃の内側の粘

膜にとどまっている早期の病変が対象で、専用ナイフでがし取る内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が中心だ。胃が残せる上、全身麻酔も不要のため、体への負担が少ない。

内視鏡治療が難しい場合は手術が行われる。開腹手術のほか、腹部に小さな穴を数か所開け、器具を入れて操作する腹腔鏡手術、手ぶれがなく正確な操作が

特長のロボット支援下手術がある。腹腔鏡、ロボット支援下手術は、開腹手術より術後の痛みが少なく、回復も早いとされる。手術は、切除する部位によっ

て、全摘、幽門（胃の出口）側胃切除、噴門（胃の入り口）側胃切除、入り口と出口の両方を残す幽門

塩分の多い食事発症リスク



岩手医大外科 学講座・上部消化管チームの局長 嶋崎麻理（45）

に、胃がんの特徴や治療法について聞いた。

胃がんの原因は、主に井戸水に含まれるピロリ菌の感染が多

保存胃切除の四つに大別される。80歳以上で手術を受けるケースも増えている。

術前化学療法は、体力のある手術前に化学療法を行って、がんを小さくしてから手術する治療。画像で見分けられない微小ながんへの効果も期待できる。

胃がんは、発症原因の一つであるピロリ菌の除菌が進み、減少傾向にある。ただ、初期にはほとんど自覚症状がないため、定期的な検診の受診が推奨される。喫煙や飲酒、塩分の多い食事を控えるなど、生活習慣の改善も重要だ。

適な治療をチームで検討している。

胃の切除後は、腸液や胆汁が逆流し、特に高齢者では誤嚥性肺炎の危険性が高まる。また、食べ物や胃酸が逆流し、心臓や肺が変動することやめまいや動悸などの症状を引き起こすダンピング症候群が表れることがある。

さらに、急激な体重の減少も懸念される。胃は切除してしまえば元に戻らないため、術後は食事の回数を増やし、少量をゆつくり食べるよう心がけていたが、当院では、管理栄養士による術後の栄養指導も行っている。

胃がんは、早期に発見すれば内視鏡治療で取り除くことができ、再発率も低くなる。バリウムを飲んで行う造影検査だけでなく、年に1度は胃力メラによる内視鏡検査を行うようにしてほしい。

（聞き手・有村瑞希）

病院の實力「胃がん」

医療機関別2023年治療実績
（読売新聞調べ）

医療機関名	全手術				内視鏡治療	
	(件)	腹腔鏡手術 (件)	ロボット支援下手術 (件)	術前化学療法を行った手術 (件)	(件)	(件)
岩手						
岩手医大	60	30	12	3	111	
県立中央	59	42	0	0	117	
青森						
弘前大	64	27	2	2	97	
八戸市市民	39	13	0	—	54	
十和田市立中央	25	9	0	0	37	
秋田						
秋田赤十字	54	26	0	0	55	
市立秋田総合	50	11	12	2	29	
秋田大	18	10	0	0	80	
宮城						
仙台厚生	104	81	0	3	266	
仙台オープン	87	39	0	3	207	
県立がんセ	85	18	32	3	69	
東北大	58	33	23	0	133	
石巻赤十字	58	2	37	1	115	
仙台市立	38	32	0	—	77	
東北医科薬科大	28	6	21	1	78	
国・仙台医療セ	—	—	—	—	46	

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は21日の「安心の設計」面に掲載しました。

当院では、早期がんの手術の場合、胃全摘ではなく、可能な限り胃を残せるような術式の選択を心がけている。胃のどの部分を切除するかはがんの大きさや位置で決まり、その後の生活に大きく影響する。がんを取り除くこと自体が目的ではなく、患者一人一人のQOL（生活の質）や術後の生活も見据え、最

口腔、食道がん発症 喫煙、飲酒がリスク

盛岡で市民公開講座

日本消化器病学会東北支部（海野倫明支部長）は29日、盛岡市盛岡駅西通のアイーナで第93回市民公開講座「口腔がんと食道がんについて」を開いた。

岩手医大の大橋祐生特任准教授（口腔外科）、大泉

智史特任講師（消化器内科）、馬場誠朗講師（外科）



口腔がんや食道がんに関する講演に耳を傾ける市民

の3人が講演。口腔がんや食道がんについて、喫煙や飲酒が発症リスクを高めることなどを説明した。大泉特任講師は「自覚症状がない、または乏しいことが多いため、検診や内視鏡検査で早期発見が大事だ」と強調し、市民約130人が聞き入った。同市箱清水の佐々木秀基さん（80）は「自分も病気を内視鏡検査で見つけてもらって手術で治った経験がある。これからも病気を疑って早めに検査するようにしたい」とうなずいた。

岩手日報 2024年9月30日掲載

■県立中部病院と県立千厩病院に医療貢献賞 県医療局（小原重幸局長）は8日、県営医療の発展に貢献したとして、北上市の県立中部病院（吉田徹院長）と一関市の県立千厩病院（佐藤一院長）に県営医療貢献賞を贈った。

表彰式は盛岡市内で行い、小原局長が両病院の代表者に表彰状を



手渡した＝写真。

中部は、新型コロナウイルス禍で県立病院のうち最も多くのコロナ患者を受け入れ、通常診療と両立させることで健全経営や地域医療の要として貢献した。

千厩は東磐井の地域病院として限られた職員体制の下、多くのコロナ入院患者を受け入れたほか「断らない救急」を目標に救急医療の確保に寄与している。

吉田院長は「他の医療機関を含めた連携をさらに強化し、地域医療のとりでとして職員一丸で職務を遂行していく」と謝辞を述べた。

岩手日報 2024年11月9日掲載

太っているのは病気？



に、自己管理ができていない

は、思い込みや偏見が根強くあります。遺伝や体質、成育歴など様々な要因が関係するの

Q 自分がしっかりしないから太るんだよね……。

ヨ 肥満や肥満症に対しては、思い込みや偏見が根強くあります。遺伝や体質、成育歴など様々な要因が関係するの

Q メタボリックシンドロームという言葉もよく聞

ヨ 内臓脂肪症候群とも呼ばれますが、肥満や肥満症とは異なる考えです。内臓脂肪がたまる

肥満症は適切な治療を受けることが必要です。

Q 肥満は体格指数（BMI）が25以上の体格を指す言葉で、特定の病気がなければ治療の対象にはなりません。

しかし、BMIが25以上で、糖尿病や高血圧など1種類

健康障害のうち一つが該当する

か、そのリスクが高い場合には、肥満症と診断されます。

Q 肥満と肥満症は違うの？

ヨ 肥満は体格指数（BMI）が25以上の体格を指す言葉で、特定の病気がなければ治療の対象にはなりません。

しかし、BMIが25以上で、糖尿病や高血圧など1種類

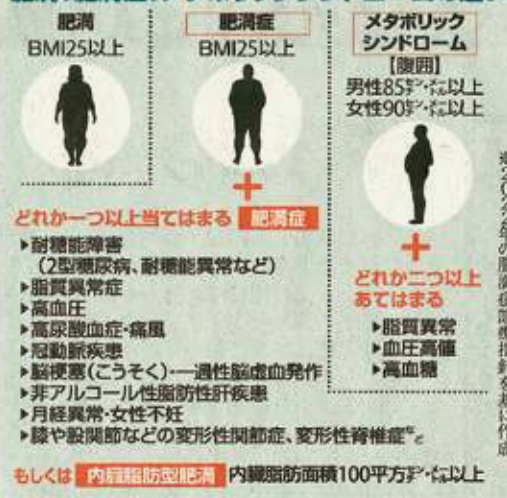
健康障害のうち一つが該当する

か、そのリスクが高い場合には、肥満症と診断されます。

Q 肥満と肥満症は違うの？

ヨ 肥満は体格指数（BMI）が25以上の体格を指す言葉で、特定の病気がなければ治療の対象にはなりません。

肥満、肥満症、メタボリックシンドロームの違い



肥満症は治療が必要

どと、必要以上に個人の責任を問われる傾向があるためです。こうした負の印象はステイグマと呼ばれ、苦しむ人が多

Q どう治療するの？

ヨ 基本は減量です。医師や管理栄養士の支援を受けながら、食事や運動、行動など生活習慣を改善します。さらに、食欲を抑える薬を使う

こともあります。

BMI35以上の高度肥満症

ヨミドックは読売新聞の医療サイト・ヨミドクターのお

医療者さんキャラクターです。

Q 治療を受けた方がいいかな。

ヨ 肥満症かもしれないと思

う人は、肥満症専門病院や肥満症の外科手術の認定施設、内分

泌・代謝・糖尿病内科など、専門医のいる医療機関に相談してください。

で、これらの治療を6か月ほど続けていても効果がでない場合などには、胃を小さくする外科手術も行われます。一部の肥満症患者は、BMI32以上でも手術の対象となります。

Q 治療を受けた方がいいかな。

ヨ 肥満症かもしれないと思

う人は、肥満症専門病院や肥満症の外科手術の認定施設、内分

泌・代謝・糖尿病内科など、専門医のいる医療機関に相談してください。

（余門知里／取材協力）横手幸太郎・千葉大学長、佐々木章・岩手医大教授

ヨミドックは読売新聞の医療サイト・ヨミドクターのお

医療者さんキャラクターです。

Q 治療を受けた方がいいかな。

ヨ 肥満症かもしれないと思

う人は、肥満症専門病院や肥満症の外科手術の認定施設、内分

読売新聞 2024年11月16日掲載

手編み帽子 患者温かく 緩和ケア支援 ボランティア 2病院に贈る



綿帽子を手渡す市緩和ケア支援事業ボランティア会の小原節子会長（左から2人目）ら

北上市緩和ケア支援事業ボランティア会（小原節子会長、会員27人）は11月28日、市内の2病院へ手編みの綿帽子を15個ずつ贈った。がん治療の副作用で毛髪が抜ける患者が自由に選んで使用できる。

肌触りが良く、洗濯できる綿糸を使用し、カラフルに仕上げたS、M、Lの3サイズを用意した。同市村崎野の県立中部病院では、小原会長（70）が吉田徹院長（65）に手渡し、「帽子をかぶることで明るい気持ちになってほしい」と願った。

吉田院長は「皆さまの真心が患者一人一人に届いて、病状が良くなっていくことを期待する」と感謝した。

同会は市のサポートを受け、2012年から春に同病院と北上済生会病院に綿帽子を贈っている。編み手の減少で今春は数が少なかったが、会員以外のボランティアの協力もあり今回、追加分として寄贈した。

岩手日報 2024年12月1日掲載

37th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association (2024.5.16-17)

May

5



farewell party

June

6

巖刀会 (2024.6.1)





June

6

佐々木教授誕生日会 (2024.6.18)



August

8

納涼会 (2024.8.2)



第186回東北外科集談会 (2024.9.14)

September

9





岩手肥満症・糖尿病オータムセミナー（2024.10.11）

2024
10/11
[Fri]
17:00
-
18:40

**岩手肥満症・糖尿病
オータムセミナー 2024**

会場：ホテルロイヤル盛岡

開会挨拶 石垣 泰 先生 岩手医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 教授

17:05 特別講演1

座長 石垣 泰 先生 岩手医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 教授

演者 佐々木 章 先生 岩手医科大学 外科学講座 教授

「MASLD/MASHに対する減量・代謝改善手術の現状と今後の展望」

17:25 特別講演2

座長 石垣 泰 先生 岩手医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 教授

演者 木村 郁夫 先生 京都大学大学院生命科学 教授

「栄養環境の変化を認識する短鎖脂肪酸受容体を介した代謝制御」

17:55 特別講演3

座長 佐々木 章 先生 岩手医科大学 外科学講座 教授

演者 下村 伊一郎 先生 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 教授

「肥満2型糖尿病の病態と治療学展望」

18:35 閉会挨拶 佐々木 章 先生 岩手医科大学 外科学講座 教授

※参加の申込みは事前登録制になります。参加申込書を各病院の、申込ください。
※本セミナーは、岩手医科大学大学院医学系研究科教育委員会により、医学部医科臨床
医科共通教育科目「大学院セミナー」（臨床科目1つ）に認定されています。

共催： ジョーンソン・エンド・ジョーンソン株式会社
エス・コ・エス株式会社
岩手医科大学 010-2098-7000
kita@kita-jy.com

協賛会社
ジョーンソン・エンド・ジョーンソン株式会社
エス・コ・エス株式会社
岩手医科大学 010-2098-7000
kita@kita-jy.com



昭和大学における腹腔鏡下スリーブ状胃切除術導入 情報交換会
(2024.12.13)



December

12

巖刀会 忘年会 (2024.12.14)



December

12

外科学講座 忘年会 (2024.12.26)



ゴミ落とし (2024.12.27)

December

12



Iwate Prefectural Ninohe Hospital

岩手県立二戸病院

令和6年度の岩手県立二戸病院の近況を、今回は二戸勤務8年目にして初めて私 松井からご報告させていただきます。昨年度とメンバーはそのまま、御供真吾先生(副院長兼感染管理室長)、松井雄介(外科長兼災害医療科長)、石井勇吾先生(外科医長)の3人体制で診療にあたっております。私が赴任した8年前は常勤医が5人いたのですが、気づくと3人になっておりました。少しでも外科医が増えるよう微力ながら我々も医学生や研修医への勧誘活動に余念がありません。また、県立病院で唯一の診療看護師(NP:Nurse Practitioner)が今年度も引き続き当科に配置されており、おかげで常勤医3人体制でも並列手術ができたりとなんとか例年通りの業務内容を維持できております。しかし県立病院におけるNPの処遇改善を訴えてはきましたが、なかなか難しい問題のようで、このままではNPもいつまで当院にいてくれるかわかりません。

外来診療応援は前年度までと同様に、新田浩幸教授、木村祐輔教授(緩和ケア外来)、鈴木信准教授(小児外科外来)、石田和茂先生(乳腺外来)、遠藤史隆先生(臨床腫瘍科外来)、手術応援は毎週火曜日に武田大樹先生、そして今年度から毎週金曜日に軽米病院から伊藤浩平先生にお手伝いいただいております。当科からは引き続き松井が毎週水曜日に大学の乳腺外来へ行っております。1人足りない水曜日に限ってなぜか急患、緊急手術が多くなるようです。あるあるです。医局の先生方には今年度も厚くご支援いただきました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

令和6年度の手術件数は全手術数314件でした(前年度279件)。全身麻酔手術数286件(248)、鏡視下手術数115件(104)、緊急手術数は28件(33)でした。前年度と比較しますと手術数



が30件以上増加しましたが、前年度はコロナクラスターの影響で例年より手術件数が少なく、令和6年度はほぼ例年通りの件数でした。

御供先生は副院長という役職のため会議や委員会への出席も多い中、毎日外来に病棟に手術にと働き続けております。我々後輩Dr.の負担を減らそうと夜間や休日のファーストコールも引き受けてくださる器の広さ、感服するほかありません。松井はこれまでと同様に乳腺疾患を中心に消化器疾患の手術を任せていただくことも多く、素敵な上司の下で相も変わらずのびのびと仕事させていただいております。好きな手術は腹腔鏡下の直腸脱手術です。石井先生は卒後6年(当院3年目)となり、胆石症、ヘルニア、虫垂炎はもちろん、大腸癌や胃癌、乳癌手術の執刀も増え、当院へ来た時とは別人のように成長しております。石井先生は二戸に在る間に私と同じく岩手医大乳腺グループの一員となりましたので、がっちりホールドして今後も一緒に岩手の乳腺診療に携わっていきたいと思っております。

さて、県立病院の収益は昨年度、過去最大規模の大赤字だったことがニュースでも報じられ、皆様の記憶にも新しいことと思います。各病院、全職員へ向けて、赤字改善に向けた様々な取り組みへの協力がこれまで以上に強く求められました。各地で人口減少がみられ、さらに人件費や物価の高騰と、赤字は今後も拡大していくことが予想されます。解決の難しい多くの問題を抱えながらも地域の皆様が安心して生活できるよう引き続きスタッフ一丸となって地域医療に貢献していきたいと考えております。(文責:松井雄介)

Iwate Prefectural Karumai Hospital

岩手県立軽米病院

令和6年度の軽米病院の近況報告をさせていただきます。例年通り外科医局からの応援は、水木曜には川島先生、菊地先生、琴畑先生、土日には瀬川先生、木村先生、藤澤先生、棚橋先生、下沖先生、嶋田先生、徐先生など本当に多数の皆さんの応援を受けております。佐々木教授、新田教授には本当に感謝に絶えません。

今年一番の変化は、医局から伊藤浩平君という常勤医師の派遣があったことです。伊藤浩信先生のご子息で、お父様も

優しい方でしたが、息子さんも同様です。軽米では手術スキルの習得はできませんが、内科・外科疾患を問わず急性期から緩和ケアまで主治医になっていただき、医師としての懐を深めてもらっています。

伊藤くんからのコメントも転記しますと、「今年、初めて軽米病院に赴任し、今までの手術や急性期治療とは異なり慢性期治療を中心とする業務を担当させていただくことになりました。軽米病院は、軽米町をはじめ、二戸市や九戸村、久慈市方面からの慢性期患者を一手に担っております。今年はCOVID-19の院内感染が複数回発生し、それに伴って病棟をロックダウンすることがありました。引き続き感染予防を徹

底的に行なっていききたい所存です。今年度は9月に盛岡で開催された第186回東北外科集談会におきまして、「過去3年間の当院における蜂刺傷の分析」のテーマで発表をさせていただきました。軽米町は周囲を山林に囲まれており、蜂に刺されてアナフィラキシーを起こして搬送される患者が多いことに注目して発表させていただきました。その後11月にも二戸病院で開催された県北外科集談会でも発表を行い、論文文化に向けて鋭意編集集中です。」とのことでした。

ご存知の通り、県立病院では「90億円の赤字」という大問題があり、入院患者を出来るだけ増やすようにと、医療局からのプレッシャーも強い一年でした。看護の面では夜勤ができる人材が不足しているため、「外来・病棟一元化」を導入して病棟看護師不足をなんとか凌ぎました。



11月には佐々木教授には当院まで出張いただき、「肥満症・糖尿病に対する外科療法」と題して教育セミナーも開催できました。内科治療しか知らない当院スタッフは目を輝かせて聴講しておりました。有難うございました。

今後とも医局の皆様には、ご指導・ご鞭撻いただけるようお願い申し上げます。
(文責：葛西敏史)

Iwate Prefectural Kuji Hospital

岩手県立久慈病院

令和6年度の久慈病院の近況報告をさせていただきます。

令和6年度は、院長 遠野千尋先生、藤井仁志、高橋眞人先生の3名に加え、県立釜石病院より小泉優香先生、岩手医科大学より岩佐友寛先生が着任され、皆川幸洋救急センター長を加えた6名で診療にあたっております。小泉先生は久慈病院で初期研修を行っており、久しぶりの久慈での勤務となり、岩佐先生は初めの長期出張となっております。

外来診療には、小児外科外来に鈴木信准教授、乳腺外来に石田和茂先生、臨床腫瘍科として岩谷岳教授が毎月1回の応援診療に来て頂きました。手術応援には、佐々木章教授、新田浩幸教授、肥田圭介教授、秋山有史准教授、片桐弘勝准教授に来て頂き手術の指導をして頂きました。今年も医大医局からたくさんの先生を派遣していただき大変感謝しております。

令和6年の手術件数は全手術件数 288件（前年度 327件）、全身麻酔下手術数 241件（273件）、鏡視下手術数 156件（150件）、緊急手術数 39件（40件）でした。1月～3月に麻酔科の出張枠の縮小があり、手術枠が3回/週から2回/週に減少したことが影響して昨年度に比べて手術件数が減少してしまいました。4月からは麻酔科の先生が常勤として赴任したことで、前年度と同じペースで手術を行っております。また鏡視下手術の割合が増加しており、今後も低侵襲の手術を目指していききたいと



考えております。当院では、若手の先生に手術を多く行なってもらうように心がけており、術者として多くの経験を積んでいってもらえればと思っております。

今年話題としては、高橋先生に第1子が誕生しました。かわいい女の子であり、穏やかで楽しいご家庭になることと思います。

昨年度から脳神経外科の撤退があり、脳出血やくも膜下出血のリハビリ目的の転院や不搬送の場合の入院も外科で担当しております。また、来年度からは神経内科の撤退が決まっております。4月からは遠野先生と皆川先生で総合診療科としてリハビリ目的の転院などの受け入れを行う予定ですが、外科としての業務はもちろんのこと外科以外としての業務も全員で協力しながら行なっていきたいと考えております。

学術活動としては、各々が学会などにも現地参加することができました。今後も学会参加はもちろんのこと論文執筆活動も活発に行なっていきたいと考えております。

当院は盛岡から2時間以上かかる遠方の病院であります

が、医療の均てん化や新しいことへのチャレンジ精神を持ちながら地域のニーズ・個々の病態に応じられるよう日々の診療を行っております。来年度も引き続きスタッフ一丸となって、久慈市、洋野町、野田村、普代村からなる医療圏のニーズに外科診療で貢献していきたいと思っております。

今後とも医局先生方、関連病院の先生方のご指導・ご鞭撻、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

(文責：藤井仁志)

盛岡赤十字病院

巖刀会の先生方におかれましては、平素より格別の御高配を賜り、誠に有難うございます。2024年度の盛岡赤十字病院の近況報告を致します。

今年度は、大山健一、西成悠、佐々木智子、大塚観喜の4人体制で行いました。例年通りふるだて加藤肛門外科クリニックから加藤久仁之先生が毎週水曜日に手術応援、小児外科領域は緩和ケア科と併科し畠山元先生が診療及び指導的立場、小林めぐみ先生は月2回の診療応援・手術応援をして頂いております。臨床腫瘍科から岩谷岳特任教授に月1回のゲノム外来での診療、外科学講座からも隔週で月曜日の外来補助を援助して頂き深謝しております。また新田教授の御配慮も承り、肝胆膵領域に関し転移再発症例も含め適応症例はほぼ全例御紹介し、ロボット手術や膵・胆道系疾患の御加療を頂き、術後管理や外来なども含め外科学講座肝胆膵グループの皆様には多忙な中、ご対応頂き深謝致します。

肝胆膵症例の紹介を行った現在でも、当院の本年度の手術件数は、全身麻酔件数が460件（前年432件）、腹腔鏡手術件数は372件（前年342件）でありました。全身麻酔件数・腹腔鏡下手術は昨年と比較しやや増加している状況でした。

近年切除不能・根治不能も含めた胃癌・胃疾患件数の激減について、若手への手術症例提供が厳しい現状でした。しかしその中でも佐々木先生には2例腹腔鏡下幽門側胃切除、1例腹腔鏡下胃局所切除を執刀させることが出来ました。しかし今後も減少に至る中で手術指導のあり方を考えさせられる年度でもありました。外科手術一般にも当てはまる状況ですが、近年の腹腔鏡下手術に移行する状況下で手術時間と手技指導、術式quality維持など助手による補助が極めて重要なポイントになると痛感し、若手医師の指導のみならず、外科医師の減少に伴い今後指導的立場にある外科医育成も急務であると感じました。

また佐々木先生は本年二足のわらじ状態で、御家庭の件



も含め初めてのことが重なり、かなり心労が溜まる1年だったと思われますが、御家族の協力・自身の気力もあり、病棟管理・外来・手術もさることながら、多忙な中での外科専門医取得やがん治療認定医の取得・学会発表・論文掲載など精力的に貢献して頂きました。大塚先生は腹腔鏡手術定型化のため、左手の鉗子操作を中心に指導をすることになり、胆嚢摘出や虫垂炎・ヘルニア手術などを中心に80例の腹腔鏡下手術・経肛門手術を執刀させることが出来ました。定型手術の他にReduced portでの執刀を経験させることにより、視野展開における鉗子操作の重要性や手術進行の方針も指導し、今後も引き続き手技向上のために精進して頂く予定です。

今後の結婚・出産・育児適齢期の女性外科医は御家族の協力は不可欠であり、若手男性医師への不公平さが露呈する可能性があるため、今後も医師業務指導や手術指導が公平かつ可能な指導的立場の医師の増加は必須であると思われます。同時に修練時期の女性外科医の気力・吸収力は短期間での習得を考慮すると男性外科医よりも更に必要になることも周知の事実であり、これは今後の若手医師の課題であると感じました。また指導的立場の上司は如何に公平な補助・指導するかという点で今後難しい選択を迫られると思いますが、どの社会でも同様なので頑張るしか選択肢はないと思っています。

そんな令和時代ではありますが、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、切にお願い申し上げます。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後も宜しくお願い致します。

（文責：西成 悠）

盛岡市立病院

令和6年度の盛岡市立病院 外科の活動状況を報告します。

令和6年4月より4名の常勤医師で診療を行いました。

箱崎将規 外科第一科長（釜石病院より赴任）、菅野将史 外科第二科長（岩手医大より赴任）、直島君成 外科第三科長、口田脩太 外科医師（岩手医大より赴任）で診療を行いました。外来診察は、月（箱崎）火（菅野）水（直島、口田）木（直島）金（箱崎、菅野）で行っております。月

曜日 午後は、乳腺外来（岩手医大 天野医師）を行っております。

また医局の先生方にも手術応援や、当直応援をいただいております。佐々木章教授の手術指導はじめ、新田浩幸教授、梅邑見准教授、八重樫瑞典講師にも手術応援いただきました。若手の先生方にも出張応援で大変助けられております。

入院は、主に6階病棟で診療を行っております。手術日は、月曜日から金曜日までの毎日となっております。また、毎週木曜日夕方には、消化器内科と外科との症例検討やミーティングを行いました。

スタッフ交代に伴い休止となっていましたロボット支援下手術を菅野医師中心に6月より再開することができました。徐々に症例数を増やしていきたいと思っております。

診療部門との連携、チーム医療

・クリニカルパス

各疾患の手術用パスと、化学療法パスを継続して使用し、患者さんとの治療経過の共有や、入退院の均一化を目指して継続しております。口田医師を中心に新たな経過観察入院パスの作成や、パスの見直し等も行い、さらに利用しやすいパスを目指していきたいと思っています。

・入院

術後管理や、人工肛門ケア、創傷処置などにおいては皮膚排泄ケア認定看護師、また病棟スタッフにも協力い

ただき入院管理や術後指導を行いました。

・化学療法

外来化学療法や、入院化学療法も例年通り診療しております。患者さんの高齢化に伴い副作用対策等がより重要になるなかで、癌化学療法認定看護師や薬剤師のみなさんと連携しながら安全な診療を行ってまいります。

・キッズ外科手術体験セミナー

新型コロナ感染症のために中止となっておりました盛岡市立病院キッズ外科手術体験セミナーは、今年度は10月に開催することができました。Da Vinciの可動している場面の見学や縫合実習や、腹腔鏡鉗子の操作などを小、中学生に体験いただき盛況に開催することができました。今後も継続していきたいと思っています。

手術実績

令和6年1月より令和6年12月までの手術概要を示します。スタッフ交代のため3月、4月は一時的に手術件数の減少となりましたが、5月以降は件数の増加となりました。令和7年に向けて

今後も外科手術を安全に継続し、また岩手医大との連携や近隣の病院との紹介連携も密に行い、さらなる手術件数の増加やニーズに答えられるようにスタッフ一同で診療に臨んでいきたいと思ひます。これからもよろしくお願ひいたします。（文責：箱崎将規）



2024年 外科手術実績

部位	良性	悪性		
食道	2		腹腔鏡下膈門胃切除	1
胃		21	腹腔鏡下膈門胃切除	
小腸	1	1	腹腔鏡下大腸切除	1
十二指腸	10		腹腔鏡下回盲部切除	18
大腸	4	47	腹腔鏡下右半結腸切除	5
直腸	12	63	腹腔鏡下左半結腸切除	5
虫垂	21		腹腔鏡下S状結腸切除	6
肛門	3		腹腔鏡下横行結腸切除	5
胆嚢		4	腹腔鏡下下行結腸切除	5
胆管	138	1	腹腔鏡下結腸部分切除	
肝臓		12	腹腔鏡下低位前方切除	6
胆管		5	腹腔鏡下高位前方切除	1
膵臓			腹腔鏡下ハルトマン術	5
膵管			ロボット支援下直腸切除	13
腎臓	2		腹腔鏡下直腸固定術	10
副腎			腹腔鏡下直腸切断	
子宮			腹腔鏡下人工肛門造設	3
ヘルニア	177		腹腔鏡下肝切除術	5
腹膜炎				
尿管				
肺	2	1	肝右葉切除	2
甲状腺	8		肝S5部分切除	1
乳腺	2	2	肝S8部分切除	1
四肢血管			肝部分切除	2
気管切開			膵頭十二指腸切除	1
PEG			膵体尾部切除	1
PTEG				
CV		31	腹腔鏡下腹壁癌ヘルニア根治術	18
小手術	14		TAPP	150
その他	34		LPEC	1
手術数合計	435	169		
全身麻酔	571		腹腔鏡下直腸切除	3
局所麻酔	33		腹腔鏡下絞環解除	1
腰麻麻酔			腹腔鏡下小腸切除	4
静脈麻酔				
手術数合計	604	(重複)	胆嚢	137
緊急手術	45		腹腔鏡下虫垂切除	19
			盲腸結腸	5

岩手県立釜石病院

令和6年 岩手県立釜石病院の診療状況をご報告させていただきます。

外科スタッフは1～3月までは院長 坂下伸夫先生、副院長兼外科長 箱崎将規先生、外科医長 田金恵先生（1月末より育児休暇取得）、外科医師 小泉優香先生、外科医師 岩佐友寛先生の実働4人体制、4～12月は人事異動に伴い院長 坂下先生、第一外科長 畑中智貴、第二外科長 熊谷秀基先生、外科医長 田金恵先生（育児休暇取得中）の実働3人体制で診療にあたっております。

外来診療は4月以降人員の交代および実働人数減に伴い畑中、熊谷で連日行い、専門外来は月1度の食道専門外来に臨床腫瘍科 岩谷岳先生、乳腺外来に県立中央病院から診療応援をいただいております。

水曜日には例年同様に県立大槌病院 院長 石川徹先生に診療及び手術指導をいただき、医局の先生方にも火、金の午後に手術応援をいただいております。

平日の当直にも医局の先生方の応援をいただき、常勤医が少ない状況ではありますが大いに助けていただいております。

専門疾患についても、引き続き各グループの先生方に診



療方針についてご教示いただくことで当院での治療につなげております。

また、常勤医は少ない状況ではありますが多様な認定看護師スタッフに恵まれ、ご協力いただきながら日常診療にあたっております。

今年度は大きな人員の変更となりましたが、手術件数を維持することを目標に掲げて取り組みました。手術件数は199件、うち全身麻酔件数は188件、緊急手術20件、鏡視下手術116件となり、例年並を維持することができました。

12月中旬からは産休とそれに続く育児休暇にて長らく臨床を離れていた田金先生が復帰されました。これに伴い診療応援のない曜日でも3人体制で行う手術が可能となっております。

引き続き可能な限り地域のニーズに応えられるよう診療に臨みたいと思います。今後ともご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。（文責：畑中智貴）

岩手県立宮古病院

当院は、川村英伸院長先生、私（藤社勉、副院長兼感染管理室長兼第一外科長兼緩和医療科長）、細井信之先生（第二外科長）、中村侑哉先生（外科医長）、そして、今年度も国立国際医療研究センター外科から木村友里花先生（外科医師）の5人で外科診療を行っております。また、岩手県立山田病院院長兼当院副院長の阿部薫先生には、毎週水曜日の外来診療応援をして頂いています。さらに、岩手医科大学からの診療応援は、鈴木信准教授（小児外科外来）、石田和茂先生（乳腺外科外来）、火曜日の外来応援に安藤太郎先生、片桐弘勝先生、火曜日の当直応援に下沖美里先生、徐光仁先生、佐々木教之先生、棚橋洋太先生、嶋田拓明先生、琴畑洋介先生、水曜日の外来応援には、藤澤良介先生、菅野正紀先生に来ていただいております。また、8月2日に、馬場誠朗講師に腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の手術応

援、指導のため、宮古病院に来ていただきました。患者さんはもとより、当院スタッフも、貴重な手術に参加することができ、本当に感謝しております。

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が感染症法上第五類に変更となり、徐々に、感染対応も緩和されてきておりますが、感染力は、いまだに強力で、当院においては、院内での感染が、ほぼ2か月毎に発生し、入院ベッドの確保、患者の治療、感染拡大時には、病棟のロックダウン（2年ほど前の状態よりは、ゆるめですが）を実施せざるを得ず、当院のような医師数の少ない市中中核病院では、外科でもコロナウイルス感染患者の入院対応も実施することとなり、スタッフの疲弊する原因となっておりますが、いつも、頑張ってもらっております。感謝です。また、新聞、TV等でも報道されている通り、県立病院の赤字が過去最大の90億円程度と見込まれ、県立病院の存続が危ぶまれる状況となってきております。人口減、人口比率の変化、コロナウイルス対応時からの診

療報酬等の変更、医師の働き方改革、医師の偏在など、様々な問題が複合的に絡み合い、岩手県だけではなく全国的に医療機関の経営難を抱えるようになり、コストの削減、病床の利用率向上など、現場でもより一層、取り組んでいく課題が山積しています。

また、当院では、今年度から、老朽化した病院施設の改築工事の予定となっており、どのように改修していくか、何度か会議を開いて、対策をしておりました。ところが、入札の時点で、問題が生じました。指定期日までに、入札工事に参加する業者が決まらないというよりも、入札する業者がいない、つまり、入札不調ということを経験することとなりました。私も、なかなか経験することのない出来事でしたので、社会の厳しさを知ることとなりました。今後、どのような対応となるか、未定なのですが、しばらくは、病院施設を大事に使っていくことになります。



最後に、当院のスタッフ、先生方、当院に応援に来てくれた先生方、医局の先生方へ。本当に感謝でございます。医療が、高度化、細分化してきた関係とも言われておりますが、医師の偏在化に拍車がかかり、労働環境が改善していく兆しがあり見えない状態となっておりますが、体に気をつけてともに頑張っていきましょう。

(文責：藤社 勉)

Kitakami Saiseikai Hospital

北上済生会病院

北上済生会病院が新体制となり約1年経過した活動状況を報告します。

2024年1月から3月まで勤務された棚橋先生よりバトンを受け、2024年4月より藤原の常勤1名体制でスタートしました。6月より育休明けの橋元麻生先生が復帰着任し常勤2名体制で診療を行っています。棚橋先生の努力により外科手術実績回復の手応えは感じつつあるものの、赴任早々は上手く立ち回ることができず、外来診察、手術と病棟の全てが何となく間延びした3ヶ月間を過ごしておりました。しかし、2名体制となり周囲より安心して紹介できる環境になったと判断されたこともあって7月以降より消化器内科及び花巻・北上地区の開業医さんからの手術紹介患者が増え始めています。その頃より週3日の手術枠全てに手術症例が入るようになり、10月頃からはさらに増加する手術に対して自科麻酔による手術枠を設けて対応しています。今後も診療症例数増加についてまわる周囲の変化にうまく対応し、さらに逆境に直面しても常に前進できる能力を示したいと思います。藤原、橋元を信頼し数多くの症例を紹介いただいた安部彦満先生、佐々木盛光先生、岡本和美先生、千田雅美先生を筆頭に、北上及び花巻地区の先生方に深く感謝します。

2024年の診療応援です。主な応援は、鈴木信准教授、石黒保直先生、鴻巣正史講師、中村聖華先生にお願いしまし

た。藤原、橋元の2名では対応できない内視鏡下甲状腺手術では佐々木章教授、腹腔鏡下胃全摘術では池田健一郎先生、臍頭十二指腸切除術及び後腹膜腫瘍手術では玉澤佳之先生、複雑痔瘻根治術では菊池信太郎先生、がん化学療法では岩谷岳先生、遠藤史隆先生に各分野の指導をお願いし快く引き受けて頂きました。また、藤原一人では心配だと、後輩の天野怜先生、棚橋洋太先生に緊急手術などのサポートで適時駆けつけてもらいました。北上済生会病院外科を応援して頂き誠にありがとうございます。その他、医局より外来診療応援、宿直応援に来て頂いた多数の先生方にも感謝しています。

さて、常勤スタッフの便りとなりますが当院は2名体制ですので橋元先生の報告が長くなります。当初、自分にとって橋元先生の評価は低く、臨床のかなりの範囲は自分一人でやるしかないかと考えていました。しかし、育休明け早々にも関わらず橋元先生のmotivationは高く、positive思考で、近年流行りの専門の細分化は気にしていないようです。子育てのために厳しい時間制限がある中で鼠径ヘルニアや虫垂切除から結腸切除/低位前方切除、幽門保存胃切除/胃全摘まで腹腔鏡で執刀して行うことができました。当院で最も多い術式の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術においては手術時間40分程度までに安定してきており、鈴木准教授には上手になりましたねという評価を頂くことができます。2025年は比較的稀な手術である食道裂孔ヘルニア、膈体尾部切除、脾臓摘出、副腎摘出、胆道再建などをさらなる修練として経験する機会があればと考えています。

橋元先生の将来像は乳腺治療に関わる専門医ではありますが、その途中で消化器外科専門医や内視鏡外科技術認定医取得も考えており、どちらも取得までのハードルが数例程度と低いようです。専門医や技術認定医を取得するということは消化管領域の指導と教育ができることと同義ですので、自分なりの治療判断と手術手技哲学が形作られるようにサポートしたいと考えています。一方、私自身も甲状腺疾患、肛門疾患、乳腺など今まで避けてきた勉強が必要な状況に追い込まれています。月に数度は鈴木准教授、中村先生の厳しい評価もあります。2024年中は橋元にその領域は興味が無いと言っていたのですが、2025年はどうしたら良いでしょうか。自分だけはサボっても治療レベルは低下しない環境がありますが、他人を批判してる分だけその誘惑には負けないようにしたいところです。

最後に北上済生会病院外科の未来を書きます。私を指導してくれた片井均先生は胃癌学会総会のテーマとして予防から治療における十分な知識を持つ重要性を、その翌年同学会総会で寺島雅典先生が均てん化と集約化をテーマにどの施設でも質を担保した治療ができるようになることを発信しました。これらテーマは私の治療と教育方針となっています。診療応援の先生方のおかげもあり当院外科は各領域で横断的診断と治療のカンファレンスが可能であり、そ



のレベルは周囲の中核施設に劣るものはないと自負します。一方、寺島先生がもう一つ訴えていたように各種のガイドラインが示されても症例への治療介入が日々高度化、複雑化する中で、ある時期には岩手県外の外科治療は集約化の方向へ舵が切られると考えています。その時期に北上済生会病院外科は周囲施設に向けて十分な診療と教育の能力を発信し続ける力量を持つことが目標です。

新天地での2024年は、北上を中心とする医療圏は非常に恵まれた環境であると気づくことができ、また、済生会病院外科の信頼回復に関しても順調な滑り出しでした。まだ数年間を必要としますが診療と治療の質の向上に加えて学術面を含む教育で当院はさらなる飛躍ができると確信しています。(文責：藤原久貴)

Iwate Prefectural Senmaya Hospital

岩手県立千厩病院

2024年4月から、伊藤浩平先生から對馬真緒先生に交代となり、佐藤一院長（平成2年卒）塩井義裕（平成13卒）對馬真緒（令和2卒）の3人体制でスタートしました。

2024年の当院の全身麻酔手術件数が142件、うち腹腔鏡下手術件数は105件でした。腹腔鏡下手術率は73.9%と昨年（67%）より増加しました。

臨床面では、對馬真緒先生が当院で外科手術症例の研鑽を積みました。また對馬先生はマンモグラフィ読影部門でA判定を取得しており、岩手県対がん協会の検診読影を開始しております。

学術面では、對馬真緒先生が日本外科学会と日本臨床外科学会で発表し、私が全国自治体病院学会（新潟）で救急応需率向上への取り組みについて発表いたしました。

2024年に岩手県医療局から県営医療貢献賞の表彰をいただきました。受賞理由は、「限られた職員体制の下、多くのコロナ入院患者を受け入れたほか、『断らない救急』を目標に救急医療の確保に寄与している」ということでした。新



型コロナ入院診療に尽力いただいた遠野千尋前院長先生、佐藤一院長先生、熊谷秀基先生、おつかれさまでした。また、増加する外科手術に加えて、内科一般・整形外科・脳神経科の診療までしていただいた熊谷秀基先生、川島到真先生、伊藤浩平先生、對馬真緒先生、当直をしていただきました大学の先生方、本当にありがとうございました。コロナ禍で千厩病院の診療は後退するどころか、手術のみならず救急応需率及び救急車応需件数で過去最高の受け入れを継続し、奨学金養成医師みんなで地域医療に貢献できましたこと、大変うれしく思います。

岩手医科大学外科学講座からは、佐々木章教授に對馬真緒先生の手術指導をしていただきました。新田浩幸教授には膵癌や転移性肝癌などを執刀していただき、肥田圭介教

授には腹腔鏡下胃切除術を手術指導していただきました。
また、診療応援いただきました西成尚人院長先生、下沖収教授、西塚哲教授、小原真院長先生、松谷英樹先生、藤井大和先生には大変お世話になりました。

2025年も、岩手医科大学外科学講座と岩手県立千厩病院・総合診療外科がさらなる飛躍ができるよう頑張りますので今後ともご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

(文責：塩井義裕)

Iwate Prefectural Esashi Hospital

岩手県立江刺病院

2024（令和6）年度の江刺病院は内科医陣が（多少）若返るという幸先が良さそうな始まりでした。その代わりなのか、整形外科が週イチの応援診療になってしまいました。外科の体制は、川村秀司院長と石黒の2名で継続していましたが、手術が増えることもなく、それでも「江刺病院でいいよ」と言ってくれる患者さんの中～小手術については全身麻酔も自家麻酔で行っていました。

外来の診療応援には、火曜日に県立紫波診療センターからセンター長の松尾力先生、水曜日に県立中部病院の吉田徹院長、金曜日に大学から肥田圭介教授に変わらず応援にきていただいております。さらに医局からは当直や手術の応援で引き続き若手医師たちの派遣をいただいております（順不同で、下沖美里先生、琴畑洋介先生、菅野正紀先生、木村拓先生、藤澤良介先生、菊地晃司先生、徐光仁先生、棚橋洋太先生、嶋田拓明先生、安藤太郎先生ほか）。12月は当院に勤務歴のある瀬川武紀先生もいちどいらっしゃいましたので、数年前の常勤当時のことを知る看護スタッフが色めき立ちました。また、北上済生会病院に藤原久貴先生が赴任したことにより、こちらから北上済生会への手術応援はなくなりましたが、逆に月イチで当直応援にきていただいております。内科医が多少は若返ったとはいえ、常勤だけで日当直をまわせる人数はおりませんので、対応に感謝しております。



江刺地域でも、長年続いた開業医の先生の閉院も続き、人口減少・医師偏在のなか、地域医療の維持・継承の課題もあるように感じられます。江刺～水沢は新幹線やJR、路線バスも微妙に拠点が分散しており、北上方面へのバス路線がないなど、患者さんの「足」を維持する工夫も必要そうです。タクシーも台数が減り天気が悪いと捕まえにくくなるし、ドライバーさんも高齢化してきて、たまたま病院から乗車すると健康相談される機会も増えました。よく利用するタクシー会社の江刺営業所の深夜営業はなくなりました。リモート診療などブーム？ですが、人員や移動手段が確保できるならこちらからあちこち赴いての巡回診療も地域医療っぽくて個人的にはいいものではないかと思ったりもしています。

いろいろと厳しい状況もありますが、全体がすこしでも上向きよう、厳刀会をはじめとした同門のみなさんや関連病院の隆盛を祈念しております。

(文責：石黒保直)

Hakodate Goryoukaku Hospital

函館五稜郭病院

函館五稜郭病院の近況を御報告させていただきます。

2024年度の当院外科は、高金明典（1987年卒業）、小林慎（弘前大1984年卒業）、木村仁（札幌医大1994年卒業）、船渡治（1995年卒業）、米澤仁志（1995年卒業）、木村聡元（2002年卒業）、千葉丈広（2003年卒業）、川岸涼子（2009年卒業）、佐藤慧（2009年卒業）、藤野紘貴（札幌医大2015年卒業）、村松里沙（札幌医大2018年卒業）、の計11名で診療を行っております。

2024年（1～12月）の総手術件数は967件（うち全身麻酔941件）でした。内訳は食道癌12件、胃癌53件、肝悪性26件、胆嚢悪性26件、大腸癌167件、乳癌192件、甲状腺癌7件、でした。

今後の人事異動ですが、高金先生は2025年2月で定年となり、3月より、ななえ新病院（当院と同じ函館厚生院系列）に院長として赴任することとなりました。小林先生も定年を迎え、臨床顧問として引き続き外科診療、救急診療に携わられることとなりました。4月より、船渡医師は、岩手県立千厩病院に転出し、岩手の地域医療に貢献することとなりました。佐藤慧医師は盛岡市立病院へ異動。札幌医大外科の人事として

は木村仁、藤野の両医師が転出となっております。

千葉医師と村松医師の消化器外科専門医合格、藤野医師の第2子誕生など、おめでたいイベントがありました。しかし何といても大きいのは高金先生の退職です。ごく個人的な思い出を記してしまいましたが…元々、私（米澤）がMagen班に入ろうとしたのは高金先生が存在が大きかった（というか、それしか無い）。今となっては、先生に胸ぐらをつかまれながら「入ります、入ります、マーゲンに入ります」と笹もりの外で宣言したのも良い思い出です。結局、私のサボリ症ゆえに半ば消化器外科を離脱し、後輩にもダメ人間呼ばわりされ、花巻あたりでフラフラしていた私をなぜか函館五稜郭病院なんていう立派な病院に、受け入れてくださいました。まだまだ不十分ではありますが、乳腺担当となり、消化器時代より楽しく診療にあたらせて頂いております。そういえばNeuherrnの頃、高金先生に医局の標本室で「あれ、お前、甲状腺に向いてるんじゃないか？」と言われたことがありました、岡目八目ということですかね。

函館五稜郭病院といえば、以前私が3カ月トランクで1998.4月に赴任したことがあります。当時の布陣は金森・貝塚・村

前列左から、米澤、船渡、木村仁、高金、小林、木村聡元。
後列左から、村松、藤野、川岸、佐藤、千葉。



上・玉澤・岡田・新田に私でした。その当時でも手術が多い病院とされていましたが、再度2014年に来た時には大層手術が増えておりました。村井英夫先生らにより病院含め規模拡大した当院外科ですが、高金先生は最盛期を現出なされたと言っても過言では無いでしょう。今後も近くにおられるとは言え、頼りにしていた先生が第一線から離れられるのは、残る側としては不安ではあります。残り少なくなってきた岩手医大メンバーですが、札幌医大メンバーと協力し合いながら、何とか踏ん張って行こうと思います。

本年度も医局の先生方、同門の先生方からのご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。（文責：米澤仁志）

Noshiro Kousei Medical Center

能代厚生医療センター

当院の2024年は全手術件数390例、全身麻酔手術件数325例、腹腔鏡下手術213例でした。人口減少は継続しておりますが、開業医の先生方とのよい関係を継続し、手術件数は維持しておりました。胃癌症例においては例年の30例前後から半数の16例まで減少しておりました。腹腔鏡下率は80.3%と、例年通りで推移しておりました。外来化学療法においても昨年同様500件以上を実施しました。

本年のスタッフは昨年同様、有末篤弘、石橋正久、畠山瑞生の3人体制でした。肝胆膵領域に関しまして、例年に引き続き新田浩幸教授の応援を頂き、高難度の手術を御執刀頂いており、非常にありがたく思っております。また、井原欣幸先生・富澤勇貴先生・加藤久仁之先生・馬場誠朗先生・片桐弘勝先生・天野怜先生・棚橋洋太先生にも応援を頂き、専門性の高い手術の御執刀や御指導、週末を中心とした診療応援



を頂きました。引き続き応援をよろしくお願い致します。

また、秋田大学小児外科の水野大先生の指導の下、乳幼児の小児外科手術も2例ですが実施致しました。

12月からは、秋田大学大学院医学系研究科医学専攻腫瘍制御医学系呼吸器・乳腺内分泌外科学講座からの要望もあり、毎週月曜に手術応援を頂いております。

遠方の関連病院で人口は減りつつありますが、症例数の維持を目標に引き続き頑張っております。同門の先生方の御指導、御鞭撻の程、今後ともよろしくお願い致します。

（文責：有末篤弘）

Hachinohe Japanese Red Cross Hospital

八戸赤十字病院

巖刀会の皆様、いつもお世話になっております。八戸赤十字病院の2024年の活動を報告いたします。

2024年は玉澤佳之、藤澤健太郎、野田宏伸、川上亜紀子、屋成信吾の5名のスタッフでスタートしました。4月に川上が異動となり、須藤佑介先生が加わりました。

須藤先生は当会員の須藤隆之先生の御子息であり、2年間の臨床研修を修了し当科に赴任しました。初めての執刀、初

めての外来など色々と戸惑うところはあったかと思いますが、日々成長を続けております。

また、これまで同様に近隣の先生方と大学医局からの応援を頂きながら業務に当たっております。手術応援として近隣の南部町で開業されている川守田究先生、譜代村診療所の荒谷宗光先生に週1回来ていただいております。

大学医局からは、外来応援に片桐弘勝先生、石田和茂先生、手術応援に武田大樹先生にいらして頂きました。先生方に変感謝申し上げます。

通常の診療業務以外にも副院長業務、病院経営、医局長業務、研修医指導、化学療法、緩和、NST、感染、クリニカルパス、広報、RRT (Rapid Response Team)、災害対策等、病院全体の業務に関して外科スタッフが中心となって担当している分野が多岐にわたります。

2024年は大きな災害とともにスタートしました。元日に発生した能登半島地震において当院の救護班第1陣として藤澤先生が現地に赴き、救護活動にあたりました。発生早期で、ライフラインの確保もままならない中、非常に大変な活動をされたとのこと。当院は赤十字病院という性質上、災害対策には力を入れておりますが、日頃の訓練の成果を発揮されてこられた事と思います。

2023年にCOVID19が5類感染となり、従来のような対策



をしなくてもよくなりました。しかしながら依然として通年にわたり発症者を見、臨床への影響はさほど変わらずあるように感じます。2024年は8月に藤澤、野田が同時に感染し手術が1週間ストップする事態に見舞われました。残された先生方にはご迷惑をおかけしました。

最後に当院の副院長で外科部長の玉澤佳之先生が、本年度をもって御定年を迎えられます。長く当院に勤務され、たくさんの御指導を頂きました。これまでのご指導に感謝し、今後の新たな御活躍と、御健康をお祈り申し上げます。

2025年は私たちにとっても新しいスタートとなります。新体制の中で至らぬ点多々あるかと思いますが、同門の先生方におかれましてもお体を御自愛いただき、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。(文責：野田宏伸)

Kazuno Kosei Hospital

かづの厚生病院

2024年の近況をご報告申し上げます。

スタッフは前年度から引き続き2人体制であり、小川先生と4月から佐々木秀策先生が赴任され、7月からは交代で川上が赴任致しました。

手術件数に関しては全身麻酔手術138例、腹腔鏡手術が94例と、前年度に比較して減少傾向でした。

毎週木曜には肝胆膵グループから菊地先生、臨床腫瘍科から岩谷教授が隔週で手術応援に来ていただき、大学医局から毎週月曜にたくさんの先生方に当直応援に来ていただいております。また、本年度は佐々木章教授、新田教授に手術指導に来ていただきました。みなさま日々の診療にお忙しい中、ご尽力いただき感謝申し上げます。各グループの先生方には日々症例のご相談やご紹介させていただき、誠にありがとうございます。

私がかづのに赴任して感じたことは、秋田県にはありますが矢巾の大学病院まで高速で1時間半ほどの距離であること



と、ドクターヘリでの搬送範囲でもあり大学との連携が取りやすい印象があります。当院医局人員の減少もあり有事の際のご相談の機会が増える可能性があります。地域へのより良い医療の貢献とスムーズな連携を目指し日々精進して参りたいと思います。

コロナやインフルエンザの流行もまだまだある昨今ですが、みなさまどうぞお身体にお気をつけてお過ごしください。重ねて御礼申し上げます。これからもぜひご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。(文責：川上亜紀子)

2023年
6月1日
開業

青森県八戸市

乳腺外科

はるクリニック

院長／福田春彦



2023年6月にクリニックを開院いたしました。乳腺外科をメインに医師・看護師・事務員各1名の計3名で診療を開始しました。スタッフはいずれも内科系のため外科系の業務にはかなり苦労しました。看板や院内掲示、診察券のデザインなどは全て自分で行いました。現在は看護師・事務員それぞれ常勤2名、非常勤1名で診療にあたっています。当初は前病院からの継続受診が多く、その後徐々に検診要二次精検や乳腺の受診者が増えてきました。エコー下の細胞診や針生検も増え、最近では多い時には週に5件ほど乳癌が見つかっています。また八戸市立市民病院を始め県内外からのフォローアップ目的での患者紹介も増えています。受診者の年齢層は9歳から101歳とかなり広く、乳房に異常を感じる男性の受診も散見されます。乳腺以外では、消化器がん・甲状腺がんや他の消化器疾患の術後、脳梗塞・脳出血や高血圧症等の患者さんも受診しています。その他としてはCVポート増設術や局所麻酔下の小手術、一部の抗がん剤治療、肝動注も行っています。歳をとってそれなりの経験を積んできたつもりですが、やはり個人クリニックでは出来る事に限りがあり、病診連携、診診連携の重要性を痛感しています。そんな折、2024年日本乳癌学会企画の乳がん地域連携座談会「乳腺診療を支えるさまざまな連携の形とは」という企画に取り上げて頂きました。乳がんは近年かなり増加していますが手術を中心とした治療は中核病院に集中し、病院の負荷は増える一方です。「確定診断」、「手術・治療」、「その後のフォロー」という一連の流れをいかに円滑にしていかがが問題ですが、当地では特に診断や術後のフォローアップが可能な開業医が少ないのが現状です。症状があったり、検診でチェックされたけど、どこを受診したら良いかわからないという患者さんが多い中、その受け口になればと思っています。八戸の医療圏で地域医療に少しでもお役に立てるよう、まだまだ試行錯誤しながらですが頑張っていきたいです。巖刀会の先生方におかれましては、ご指導ご教授くださいますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

2022年
5月18日
開業

盛岡市上田

内科・外科

ちえ内科・外科クリニック

院長／伊藤千絵



平成22年に外科学講座に入局いたしました伊藤千絵です。

令和4年5月18日に盛岡市上田に『ちえ内科・外科クリニック』を開業いたしました。

今年は開業から3年目の年になりますが、まだまだ至らないこと、分らないこと、勉強しなければならないこと、不安なことばかりです。これまでも一人で考えて悩んでどうしようもないことが多々ありました。しかし、私の周囲には相談できる先生方がいらっしゃいます。外科学講座で繋がった同門の先輩方や同期の先生たちです。盛岡医師会の集まりやプライベートの集まりの時、私はここぞとばかりに先生方に質問攻撃してしまっていますが、いろいろたくさんのお話を教えていただき助けてくれます。こうした人と人との繋がりの中で仕事ができることはとても幸せでありたいことだと実感しています。

県立中央病院の向かいにある立地のせいでしょうか、これまで勤務してきた関連病院の看護師さんや中央病院の先生方も来院してくれます。小学校、中学校、高校の友人たちも来院してくれます。何だか照れ臭いのですが、私を覚えていて頼ってくれたうれしさのほうがはるかに勝ります。

当院の患者さんの8割以上が生活習慣病をはじめとする内科疾患です。外科手術が必要な患者さんを紹介する機会が少ないことを申し訳なく思っています。

開業して2年半以上経過して今思うことは、『人と人の繋がりを大切に、自分と繋がってくれている皆に感謝しながら、日々、患者さんのためにできることを真摯にやっていく、これに尽きる！』です。大学病院や関連病院で勤務していた際にたくさんの先生方と出会い、たくさんのご指導をいただいたことは私の財産です。この財産を患者さんに還元できるようにこれからも毎日の診療に向き合っていきます。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年
2月14日
開業

盛岡市みたけ

肛門外科・外科・内科

松尾医院

院長／松尾鉄平



2024年2月14日、みたけに松尾医院を開業いたしました。肛門外科、外科、内科を標榜しております。まだまだ軌道に乗ったとは言えませんが、患者さんの数や手術件数は徐々に増えており、やはり私は手術が好きなので日々楽しく過ごしております。

肛門外科を主科として開業しましたが、これまで肛門疾患についての診療や手術、大腸内視鏡の経験がなかったため2021年1月から約10ヶ月間、東京・新大久保にある東京山手メディカルセンター（旧社会保険中央病院）大腸肛門外科で研修してまいりました。研修が始まると今まで聞いたことのない用語が飛び交い、見たことがない手術が多く行われました。研修医時代に戻ったかのように色々なことを吸収させていただき、肛門外科医として最低限必要な経験をしっかり積めたと実感しております。とは言っても研修を終え岩手に帰ってくるにあたり自分一人ですることができるのかなという不安もありました。しかし、指導してくださった山名先生から「みんな開業してから学ぶことの方が多から大丈夫」とお言葉をいただき今でも気持ちの支えとなっております。ありがたいことに大腸肛門病学会専門医（Ⅱb肛門科）も取得させていただきました。

肛門外科医として自分が習得させていただいた経験、知識、技術を自分一人だけにとどめることは、とても勿体ないと考えております。まだまだ未熟で自分自身の修練が必要な身ではありますが、今後は何らかの形で岩手医大外科の後輩達にそれらを伝えていきたいと考えております。

また自分一人だけでは何一つできないということを開業して強く思うようになりました。これまでも岩手医大外科、同門の先生方には熱い指導をしていただき、困った時には助けていただければかりでしたが今後も何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2024年
5月9日
開業

宮城県岩沼市

内科・外科

いたばし内科外科クリニック

院長／板橋英教



平成15年卒の板橋英教と申します。

私は8年前に医局を離れ、地元の宮城県岩沼市の中堅病院外科で勤務させていただき、昨年5月に岩沼市内に開業させていただきました。元々のきっかけは東日本大震災の時に、当時函館五稜郭病院に勤務させていただいておりましたが、実家の玄関の柱が折れた等の話や、持ち回りで市内の医師が患者を診ている等の情報のみでしたので、ご相談した所お時間を頂けることとなり、現状確認と手伝いの為に帰省しました。一車線通行の高速を走りながら車窓から流れ着いた船を何艘もみたことを鮮明に覚えています。また当時は普段の生活にまだまだ戻れておりませんでしたので、市内外をみて回った際に自分も何かできればなぁと漠然ながら感じたことが始まりでした。

その後も佐々木教授のもと医局で勉強させていただいておりましたが、3月11日になれば震災を思い出し、徐々に地元の地域医療への思いが強くなり、当時肝胆膵グループでしたので、グループ長であった新田教授にまずご相談としてお話をさせて頂きながら医局を離れる決心を致しました。

地元では、学生時住んでいた場所ではあるものの地域医療の現状は全くわかっておりませんでしたので、まず地元にあった中堅病院で外科医として働かせて頂き、実際の地域医療の現状を7年間学び、昨年の開業に至っております。

開業してからは、自身が生活しているときには感じていなかったこと、気づいていなかったことも多くあり、毎日患者と触れ合いながら勉強させていただいている状況です。

日々の業務も少しずつ落ち着きつつありますが、近年の感染症対応にしばしば追われること、経営という点で考えなければならないことなども少しずつ進めております。

臨床医としては諸先生方からご教授頂いた指導がベースにあるおかげで、患者様の対応から処置、加療まで地域医療の一つとして結び付けられており、感謝申し上げる次第です。

まだまだ不十分な点がある開業スタートですが頑張ります。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

2024年もたくさんの患者様をご紹介いただきありがとうございました。今後も最善をつくし治療させていただきます。また、地域連携パスが稼働した際には、ぜひとも先生方のご協力をお願いいたします。

あ

医療機関名	院長	郵便番号	住 所		
青森労災病院	玉 澤 直 樹	031-0822	青森県	八戸市	白銀町字南ヶ丘1番地
安部医院	安 部 彦 満	024-0061	岩手県	北上市	大通り1-11-23
あべ内科・消化器科クリニック	阿 部 礼 司	020-0146	岩手県	盛岡市	長橋町17-45
飯島医院	飯 島 信	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼狐洞1-277
池田外科・消化器内科医院	池 田 健一郎	020-0041	岩手県	盛岡市	境田町5-18
岩手医科大学附属病院(矢巾)	森 野 禎 浩	028-3695	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1番1号
(公財)岩手県対がん協会 すこや館	村 上 晶 彦	028-3390	岩手県	紫波郡矢巾町	医大通2丁目1-6
岩手県対がん協会いわて健康管理センター	狩 野 敦	020-0864	岩手県	盛岡市	西仙北1-17-18
岩手県予防医学協会(含付属診療所)	田 巻 健 治	020-0834	岩手県	盛岡市	永井4-42
岩手県立胆沢病院	郷右近 祐 司	023-0864	岩手県	奥州市	水沢区龍ヶ馬場61
岩手県立磐井病院	阿 部 隆 之	029-0192	岩手県	一関市	狐禅寺字大平17
岩手県立大船渡病院	中 野 達 也	022-8512	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越10-1
岩手県立釜石病院	坂 下 伸 夫	026-8550	岩手県	釜石市	甲子町10-483-6
岩手県立軽米病院	葛 西 敏 史	028-6302	岩手県	九戸郡軽米町	軽米2-54-5
岩手県立久慈病院	遠 野 千 尋	028-8040	岩手県	久慈市	旭町第10地割1番
岩手県立千厩病院	佐 藤 一	029-0803	岩手県	一関市	千厩町千厩字草井沢32-1
岩手県立中央病院	宮 田 剛	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-4-1
岩手県立中部病院	吉 田 徹	024-8507	岩手県	北上市	村崎野17-10
岩手県立遠野病院	鈴 木 雄	028-0541	岩手県	遠野市	松崎町白岩14-74
岩手県立二戸病院	小笠原 敏 浩	028-6193	岩手県	二戸市	堀野字大川原毛38-2
岩手県立宮古病院	川 村 英 伸	027-0096	岩手県	宮古市	崎嶽ヶ崎1-11-26
白井循環器呼吸器内科	白 井 雄 太	020-0107	岩手県	盛岡市	松園2-2-6
内丸病院	宮 川 朋 久	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-12-7
内丸メディカルセンター	下 沖 収	020-8505	岩手県	盛岡市	内丸19-1
鶴浦医院	鶴 浦 章	029-2205	岩手県	陸前高田市	高田町字鳴石22-9
奥州病院	佐 藤 直 夫	023-0828	岩手県	奥州市	水沢区東大通り1-5-30
大里医院	大 高 道 郎	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字堰向56番
大澤クリニック(医科)	大 澤 宏 之	020-0822	岩手県	盛岡市	茶畑2-8-3
大館市立総合病院	吉 原 秀 一	017-0885	秋田県	大館市	豊町3-1
大手先内科循環器クリニック	織 笠 俊 樹	020-0015	岩手県	盛岡市	本町通1-8-9
おか乳腺クリニック	岡 きま子	024-0084	岩手県	北上市	さくら通り1丁目5-11
荻野病院	荻 野 義 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1-6-12
かさい糖尿病内科クリニック	葛 西 伸 彦	031-0011	青森県	八戸市	大字田向字冷水22-2
かづの厚生病院	吉 田 雄 樹	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字向畑18
鹿角中央病院	高 橋 今日子	018-5201	秋田県	鹿角市	花輪字六月田97

か

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
金子胃腸科内科	金 子 博 純	020-0403	岩手県	盛岡市	乙部13-135-3
川久保病院	田 村 茂	020-0835	岩手県	盛岡市	津志田26-30-1
川野病院	川 野 幸 夫	190-0022	東京都	立川市	錦町1丁目7番5号
川守田医院	川守田 安 彦	028-3309	岩手県	紫波郡紫波町	日詰駅前1-8-2
菊池医院(大船渡市)	菊 池 洋	022-0002	岩手県	大船渡市	大船渡町字山馬越183-5
菊池俊彦内科クリニック	菊 池 俊 彦	028-0522	岩手県	遠野市	新穀町5-19
きたかみ駅前内科クリニック	高 橋 徹	024-0061	岩手県	北上市	大通り1丁目3-1
北上済生会病院	福 島 明 宗	024-8506	岩手県	北上市	九年橋3-15-33
九州大学病院	中 村 雅 史	812-0054	福岡県	福岡市	東区馬出3丁目1-1
くろだ脳神経・頭痛クリニック	黒 田 清 司	020-0884	岩手県	盛岡市	神明町10-38
ケイ・ティ・メディカル	太 田 一 三	100-0005	東京都	千代田区	丸の内2-2-3
健生病院(津軽保健生協)	竹 内 一 仁	036-8004	青森県	弘前市	野田2-2-1
国保葛巻病院	伊 藤 達 朗	028-5402	岩手県	岩手郡葛巻町	葛巻16-1-1
国保三戸中央病院	葛 西 智 徳	039-0141	青森県	三戸郡三戸町	大字川守田字沖中9-1
国立国際医療研究センター病院	宮 寄 英 世	162-8655	東京都	新宿区	戸山1-21-1
国立病院機構弘前総合医療センター	大 熊 洋 揮	036-8545	青森県	弘前市	大字富野町1番地
国立病院機構盛岡医療センター	木 村 啓 二	020-0133	岩手県	盛岡市	青山1-25-1
後藤泌尿器科皮膚科医院	後 藤 康 樹	027-0083	岩手県	宮古市	大通1-3-24
近藤医院	近 藤 晃 弘	028-1352	岩手県	下閉伊郡山田町	飯岡9-23-1
済生会岩泉病院	柴 野 良 博	027-0501	岩手県	下閉伊郡岩泉町	岩泉字中家19-1
済生会横浜市南部病院	猿 渡 力	234-8503	神奈川県	横浜市	港南区港南台3-2-10
埼玉県立がんセンター	影 山 幸 雄	362-0806	埼玉県	北足立郡伊奈町	小室818
齋藤外科クリニック	齊 藤 穂 積	988-0066	宮城県	気仙沼市	東新城1丁目12-1
ささきクリニック	佐々木 盛 光	025-0053	岩手県	花巻市	中北万丁目836
佐藤雅夫クリニック	佐 藤 雅 夫	027-0074	岩手県	宮古市	保久田4-7
三愛病院附属矢巾クリニック	藤 島 幹 彦	028-3601	岩手県	紫波郡矢巾町	高田11-25-2
雫石大森クリニック	大 森 浩 明	020-0541	岩手県	岩手郡雫石町	千刈田79-2
順天堂大学医学部附属順天堂医院	桑 鶴 良 平	113-8431	東京都	文京区	本郷3丁目1番3号
昭和大学病院	相 良 博 典	142-0064	東京都	品川区	旗の台1丁目5番8号
市立大森病院	小 野 剛	013-0525	秋田県	横手市	大森町字菅生田245-205
しんたろうクリニック	菊 池 信太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮1丁目9-1
すがさわ外科・内科クリニック	菅 澤 治 彦	025-0312	岩手県	花巻市	二枚橋6-440-1
鈴木肛門外科・守口内科	鈴 木 俊 輔	020-0016	岩手県	盛岡市	名須川町16-14
せいてつ記念病院	佐 藤 滋	026-0052	岩手県	釜石市	小佐野町4-3-7
総合花巻病院	佐 藤 正 俊	025-0082	岩手県	花巻市	御田屋町4番56号

た

な

は

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所		
総合水沢病院	菊 池 淳	023-0053	岩手県	奥州市	水沢区大手町3-1
たかしクリニック	黒 田 敬	020-0862	岩手県	盛岡市	東仙北1-3-7
孝仁病院	西 成 尚 人	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田泉田28
高宮消化器科内科医院	高 宮 秀 式	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	大字西徳田2-106-3
滝沢中央病院	山 内 広 平	020-0668	岩手県	滝沢市	鶴飼笹森42番地2
ちえ内科・外科クリニック	伊 藤 千 絵	020-0066	岩手県	盛岡市	上田1-1-19
千葉市立海浜病院	吉 岡 茂	261-0012	千葉県	千葉市	美浜区磯辺3-31-1
照井内科消化器科医院	照 井 虎 彦	025-0072	岩手県	花巻市	四日町3-5-8
東京医科大学病院	山 本 謙 吾	160-0023	東京都	新宿区	西新宿六丁目7番1号
東京ベイ・浦安市川医療センター	神 山 潤	279-0001	千葉県	浦安市	当代島3-4-32
東北公済病院	仁 尾 正 記	980-0803	宮城県	仙台市	青葉区国分町二丁目3番11号
東北大学病院	張 替 秀 郎	980-0872	宮城県	仙台市	青葉区星陵町1番1号
遠山病院	千 葉 知	020-0877	岩手県	盛岡市	下ノ橋町6-14
栃内第二病院	栃 内 秀 彦	020-0778	岩手県	滝沢市	大釜吉水103-1
栃内病院	白 石 秀 夫	020-0878	岩手県	盛岡市	肴町2-28
とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニック盛岡	富 澤 勇 貴	020-0024	岩手県	盛岡市	菜園1丁目5-23
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック八戸	富 澤 勇 貴	031-0042	青森県	八戸市	十三町1番地 ヴィアノヴァ 2階-10
とみさわ甲状腺・乳腺のクリニック盛岡	富 澤 勇 貴	020-0022	岩手県	盛岡市	大通1-1-16 岩手教育会館1F
十和田市立中央病院	丹 野 弘 晃	034-0093	青森県	十和田市	西十二番町14-8
なおしま医院	直 島 淳 太	028-3441	岩手県	紫波郡紫波町	上平沢字川原田33-5
なかつか消化器内科クリニック	中 塚 明 彦	020-0052	岩手県	盛岡市	中太田新田25-270
なないろのとびら診療所	松 嶋 大	020-0861	岩手県	盛岡市	南仙北2-1-20
成田内科胃腸科医院	成 田 知 史	028-3614	岩手県	紫波郡矢巾町	大字又兵工新田第8地割101番地
乳腺外科いしだ外科胃腸科クリニック	石 田 茂登男	020-0834	岩手県	盛岡市	盛岡駅前通14-9 ヒラトヤビル3F
野崎内科・神経内科医院	野 崎 有 一	028-3303	岩手県	紫波郡紫波町	高水寺字大坊183-1
八戸市総合健診センター	岡 本 道 孝	031-0000	青森県	八戸市	青葉2-17-4
八戸市立市民病院	水 野 豊	031-8555	青森県	八戸市	田向3-1-1
八戸赤十字病院	紺 野 広	039-1104	青森県	八戸市	大字田面木字中明戸2
八幡平市立病院	瀧 山 郁 雄	028-7111	岩手県	八幡平市	大更25-328-1
花巻市石鳥谷医療センター	似 内 郊 雄	028-3163	岩手県	花巻市	石鳥谷町八幡5-47-2
平井医院	平 井 大 士	028-3305	岩手県	紫波郡紫波町	日詰字下丸森138-2
プレスト齊藤外科クリニック	齊 藤 純 一	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮6丁目17-6
宝陽病院	荒 木 慶 彦	028-3111	岩手県	花巻市	石鳥谷町新堀15-23
堀江医院	堀 江 圭	028-3603	岩手県	紫波郡矢巾町	西徳田6-143
本田胃腸内科外科	本 田 健 一	023-0816	岩手県	奥州市	水沢区西町4番21号

ま

医 療 機 関 名	院 長	郵便番号	住 所			
松園第二病院	平 澤 大	020-0103	岩手県	盛岡市	西松園3-22-3	
三沢市立三沢病院	斎 藤 聡	033-0001	青森県	三沢市	大字三沢字堀口164-65	
三沢中央病院	棟 方 博 文	033-0001	青森県	三沢市	中央町3丁目11-2	
みたけ消化器内科クリニック	齊 藤 慎 二	020-0122	岩手県	盛岡市	みたけ4-11-46	
南昌病院(帰厚堂)	木 村 宗 孝	028-3621	岩手県	紫波郡矢巾町	大字広宮沢1-2-181	
三船内科	三 船 俊 英	020-0137	岩手県	盛岡市	天昌寺町9-10	
三本柳かんのクリニック	菅 野 公 徳	020-0831	岩手県	盛岡市	三本柳23-10-5	
みやもと内科クリニック	宮 本 康 弘	020-0143	岩手県	盛岡市	上厨川字杉原101-4	
むつ総合病院	松 浦 修	035-0071	青森県	むつ市	小川町1-2-8	
村井産婦人科小児歯科医院(産婦人科)	村 井 正 俊	020-0851	岩手県	盛岡市	向中野字道明55番地	
もりおか往診ホームケアクリニック	木 村 幸 博	020-0857	岩手県	盛岡市	北飯岡3-20-3	
盛岡観山荘病院	小 泉 幸 子	020-0114	岩手県	盛岡市	高松4-20-40	
もりおか静眠堂医院	櫻 井 伴 子	020-0034	岩手県	盛岡市	駅前通9-5 佐川ビル2階	
盛岡市立病院	加 藤 章 信	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5丁目15-1	
盛岡赤十字病院	久 保 直 彦	020-8560	岩手県	盛岡市	三本柳6-1-1	
盛岡つなぎ温泉病院	関 博 文	020-0055	岩手県	盛岡市	繁字尾入野64-9	
盛岡友愛病院	佐々木 達 哉	020-0834	岩手県	盛岡市	永井12-10	
や						
八角医院	八 角 有 紀	028-4125	岩手県	盛岡市	玉山区好摩字夏間木101-2	
やまだ胃腸内科クリニック	山 田 宏 之	020-0838	岩手県	盛岡市	津志田中央2-18-31	
吉田消化器科内科	吉 田 俊 巳	020-0832	岩手県	盛岡市	東見前8-20-16	
わ						
わたなべおしりのクリニック	渡 邊 陽太郎	020-0866	岩手県	盛岡市	本宮5-1-3	

獲得研究費

科学研究費助成事業

【研究代表者】

1. 2022-2024 基盤研究 (C)
「ctDNA を用いた大腸癌化学療法効果判定法と転移巣切除適応症例層別化の確立」
研究代表者：八重樫 瑞典 研究分担者：西塚 哲，岩谷 岳
2. 2022-2024 基盤研究 (C)
「高度肥満患者の細菌叢変化とマルチオミックス解析による肝線維化メカニズムの探索」
研究代表者：梅邑 晃 研究分担者：佐々木 章
3. 2023-2025 基盤研究 (C)
「ctDNA 解析による UR-LA 膵癌 Conversion Surgery 適応症例の層別化と治療効果判定の確立」
研究代表者：片桐 弘勝 研究分担者：西塚 哲
4. 2023-2025 基盤研究 (C)
「肥満非アルコール性脂肪性肝炎に対する外科治療の改善機序と新規バイオマーカーの検索」
研究代表者：佐々木 章 研究分担者：梅邑 晃，二階 春香
5. 2024-2026 若手研究
「HER2 陽性胃癌における ctDNA-ERBB2 モニタリングの手法の確立」
研究代表者：二階 春香
6. 2024-2026 若手研究
「ctDNA モニタリングを用いた食道癌根治治療後サーベイランスの開発」
研究代表者：藤澤 良介
7. 2024-2026 若手研究
「ctDNA を用いた局所進行直腸癌の再発リスク層別化と治療効果モニタリング法の開発」
研究代表者：佐々木 教之
8. 2024-2026 若手研究
「肥満外科手術後の腎機能の変化と肥満健康関連障害改善の機序の解明」
研究代表者：安藤 太郎

【研究分担者】

1. 2023-2025 基盤研究 (C)
「動物個体の発生原理を利用した、異種間臓器作製技術の確立」
研究分担者：片桐 弘勝
2. 2023-2025 基盤研究 (C)
「卵巣明細胞癌に対する HSF1 経路を標的とした新規治療法の開発」
研究分担者：岩谷 岳，遠藤 史隆
3. 2022-2024 基盤研究 (C)
「膀胱癌の再発診断における血漿および尿沈渣中変異 DNA モニタリング」
研究分担者：西塚 哲
4. 2024-2026 基盤研究 (C)
「悪性リンパ腫の骨髄浸潤治療後再発に及ぼす腫瘍クローンの検出」
研究分担者：西塚 哲

【AMED研究分担者】

1. 2023-2025 革新的がん医療実用化研究事業
「局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第 III 相試験」
研究開発分担者：馬場 誠朗 研究参加者：二階 春香，遠藤 史隆
2. 2023-2025 革新的がん医療実用化研究事業
「個別化デジタル PCR による超高感度腫瘍由来循環 DNA モニタリング」
研究開発分担者：西塚 哲 研究参加者：岩谷 岳

その他の外部資金（奨学寄附金）

1. JB 奨学寄附
「小児における気道手術（気管切開、喉頭気管分離）術後におけるカニューレ関連合併症予防に関する研究」
研究代表者：佐々木 章 共同研究者：鈴木 信

2. 科研製薬奨学寄付金

「内視鏡手術手技定量評価に向けた簡易動作分析手法の確立」

研究代表者：佐々木 章 共同研究者：鈴木 信

3. 中外製薬株式会社

「高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後における尿中メタボローム解析による慢性腎臓病のサロゲートマーカー検索と肥満関連健康障害との関連について」

研究代表者：佐々木 章 共同研究者：梅邑 晃

英文論文

1. Umemura A, Sasaki A. Invited commentary: The outcome of closure of inguinal hernia with laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure in young adults. *World J Surg* 2024 ; 48(2) : 377-378
2. Kikuchi K, Ogawa M, Sasaki A. Radiological complete response with regorafenib for multiple lung metastases of ascending colon cancer: a case report. *J Med Case Rep* 2024 ; 18(1) : 45
3. Nakao E, Honda M, Uesugi N, Osakabe M, Sato A, Todate Y, Yaegashi M, Takano Y, Sasaki A, Kono K, Sugai T. Evaluation of the prognostic impact of pathologic tumor regression grade on patients with colorectal cancer after preoperative chemoradiotherapy. *J Surg Oncol* 2024 ; 129(8) : 1521-1533
4. Kumagai H, Sasaki A, Umemura A, Kakisaka K, Iwaya T, Nishizuka SS. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on nonalcoholic fatty liver disease and TGF- β signaling pathway. *Endocr J* 2024 ; 71(2) : 139-152
5. Kobayashi M, Hirai M, Suzuki M, Sasaki A. Tracheostomy for the pediatric patient with fibrodysplasia ossificans progressiva: a case report. *Surg Case Rep* 2024 ; 10(1) : 61
6. Kanno M, Unoura S, Tanahashi Y, Sato H, Ishida K, Noda H, Kojika M, Fujino Y, Mase T, Sasaki A. Under the Covers: A Sharp Foreign Body Buried Within the Lumen. *Am J Gastroenterol* 2024 ; 119(6) : 1013
7. Ando T, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Nishiya M, Uesugi N, Sugai T, Sasaki A. Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Encapsulated by a Tumor-Forming Type 1 Autoimmune Pancreatitis Located at the Pancreatic Tail: A Case Report. *Case Rep Gastroenterol* 2024 ; 18(1) : 181-188
8. Umemura A, Nitta H, Takeda D, Katagiri H, Kanno S, Sasaki A. Transthoracic transdiaphragmatic approach in laparoscopic liver resection for hepatocellular carcinoma in a patient with severe obesity and history of deceased donor liver transplantation. *Asian J Endosc Surg* 2024 ; 17(2) : e13305
9. Otsuka K, Yaegashi M, Hiraki H, Yashima-Abo A, Iwaya T, Nishizuka S, Sasaki A. Use of digital PCR to detect variability in circulating tumor DNA level among colorectal cancer patients with different metastatic sites. *JIMA* 2024 ; 76(1) : 9-20
10. Kumagai H, Sasaki A, Umemura A, Tanahashi Y, Iwasaki T, Katagiri H, Nitta H. Second-stage treatment strategy for severely obese patient with primary aldosteronism-laparoscopic adrenalectomy after laparoscopic sleeve gastrectomy: a case report. *Ann Laparosc Endosc Surg* 2024 ; 9 : 18
11. Kanno M, Umemura A, Baba S, Nikai H, Sugimoto R, Sasaki A. Gastric cancer after laparoscopic adjustable gastric banding: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2024 ; 119 : 109714
12. Umemura A, Sasaki A, Takamura T, Takayama H, Takeshita Y, Toya Y, Kakisaka K, Hasegawa Y, Ishigaki Y. Relationship between the changes in hepatokine levels and metabolic effects after laparoscopic sleeve gastrectomy in severely obese patients. *Surg Today* 2024 ; 54(6) : 581-590
13. Kuchida S, Katagiri H, Nitta H, Sasaki A. Renoprotective effect of hypoxia-inducible factor prolyl hydroxylase inhibitors in liver transplant recipients. *JIMA* 2024 ; 76(2) : 61-73
14. Umemura A, Sasaki A, Kumagai H, Tanahashi Y, Iwasaki T, Nitta H. Relationships Between Changes in Serum Ketone Body Levels and Metabolic Effects in Patients with Severe Obesity Who Underwent Laparoscopic Sleeve Gastrectomy. *Obes Surg* 2024 ; 34(7) : 2607-2616
15. Kotohata Y, Yaegashi M, Sasaki N, Sasaki A. Rare strangulated intenal hernia following extraperitoneal colostomy for rectal cancer operation: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2024 ; 120 : 109911
16. Nihei S, Asaka J, Yaegashi M, Asahi K, Kudo K. Effect of blood pressure control on the risk of proteinuria during bevacizumab treatment in patients with colorectal cancer: a single-center retrospective cohort study. *J Pharm Health Care Sci* 2024 ; 10(1) : 51
17. Kumagai H, Baba S, Nikai H, Fujisawa R, Shimooki M, Sasaki A. Stage IV gastric cancer with microsatellite instability-high achieving long-term survival by gastrectomy after nivolumab as third-line therapy: a case report and literature review. *Surg Case Rep* 2024 ; 10(1) : 221

18. Watanabe Y, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A. Effects of laparoscopic sleeve gastrectomy on weight loss and metabolic improvement in subjects aged 65 years or older: a subanalysis of J-SMART study. *Diabetol Int* 2024 ; 16(1) : 56-64
19. Ito S, Takahashi A, Ueno H, Takiguchi S, Kajiura Y, Kakeji Y, Eguchi S, Goi T, Saiura A, Sasaki A, Takeuchi H, Tanaka C, Hashimoto M, Hiki N, Horiguchi A, Matsuda S, Mizushima T, Yamamoto H, Kitagawa Y, Shirabe K. Annual report on National Clinical Database 2021 for gastroenterological surgery in Japan. *Ann Gastroenterol Surg.* 2024 ; 9(1) : 32-59
20. Segawa T, Yaegashi M, Hirata Y, Sasaki N, Sasaki A. Bladder injury caused by a urachal remnant during laparoscopic ileocecal resection: A case report. *Int J Surg Case Rep* 2024 ; 125 : 110597
21. Kimura T, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kikuchi K, Kuchida S, Sasaki A. Effects of the Scopist's Skills on the Perioperative Outcomes of Laparoscopic Liver Resection. *Asian J Endosc Surg* 2024 ; 18(1) : e13413
22. Miyazaki Y, Ohta M, Kitahama S, Seki Y, Inamine S, Oshiro T, Nagao Y, Hatao F, Orita H, Sasaki A, Kagawa S, Yamaguchi T, Aizu K, Hayata K, Saito S, Amiki M, Nakamura Y, Matsubara H, Shimada M, Naitoh T, Ishibashi N, Takiguchi S, Shibao K, Inoue K, Togawa T, Saito T, Uno K, Endo Y, Kasama K, Tatsuno I. Clinical characteristics of coronavirus disease 2019 in patients undergoing laparoscopic bariatric/metabolic surgery: a nationwide survey in Japan. *Surg Today* 2024 ; doi: 10.1007/s00595-024-02967-y. Online ahead of print.
23. Kumagai H, Sasaki A, Umemura A, Tanahashi Y, Iwasaki T, Ando T, Katagiri H, Nitta H. Predictive factors involving the remission and recurrence of hypertension post-laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with severe obesity. *PLoS One* 2024 ; 19(12) : e0314792

和文論文

1. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 岩佐 友寛, 口田 脩太, 佐々木 章. 【エキスパートに習う術野展開の極意】肝癌切除術における術野展開のコツ. *消化器外科* 2024 ; 47(1) : 69-78
2. 西成 悠, 棚橋 洋太, 石橋 正久, 新田 浩幸, 佐々木 章. 慢性リンパ性白血病 / 小細胞性リンパ腫による腸閉塞の 1 例. *秋田県医師会雑誌* 2024 ; 74(1) : 39-45
3. 天野 怜, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 佐々木 章. 【必携 消化器・一般外科医のための外科解剖アトラス】肝胆膵 右肝切除に必要な局所解剖. *手術* 2024 ; 78(4) : 465-473
4. 佐々木 章. 「減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024」 発刊に寄せて. *肥満症治療学展望* 2024 ; 12(2) : 24-24
5. 佐々木 章. 特集 肥満症 2024 各論 (診断と治療) 外科療法. *日本臨床* 2024 ; 82(10) : 1576-1582
6. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術 メタボリックサージェリー. *月刊 糖尿病ライフ さかえ* 2024 ; 64(11) : 45-48
7. 佐々木 章. 日本肥満症治療学会の更なる発展を目指して. *肥満症治療学展望* 2024 ; 12(3) : 29-29
8. 佐々木 智子, 西成 悠, 下沖 美里, 對馬 真緒, 大山 健一, 岩谷 岳, 西塚 哲. 消化器癌患者に対する OTS- アッセイの適応. *盛岡赤十字病院紀要* 2024 ; 33(1)
9. 佐々木 章. 「減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024」 の概要. *Medical Practice* 2024 ; 41(12) : 1808-1812
10. 川村 英伸, 宮本 将秀, 中村 侑哉, 細井 信之, 藤社 勉, 佐々木 章. 【鼠径部・腹壁瘢痕ヘルニア手術を極める - 直達手術から腹腔鏡・ロボット支援手術まで】 鼠径部ヘルニア Direct Kugel 法. *手術* 2024 ; 78(8) : 1239-1247
11. 宇夫方 直子, 依 万里子, 馬場 誠朗, 二階 春香, 遠藤 史隆, 梅邑 晃, 秋山 有史, 高橋 一枝, 佐々木 章. 胃癌術後 6 カ月の体重減少と摂取栄養量の変化について. *日本臨床栄養学会雑誌* 2024 ; 46(1) : 16-25
12. 川島 到真, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 【肝臓診療 2024】 腹腔鏡下肝切除術. *消化器外科* 2024 ; 47(9) : 1025-1036
13. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. 【肝胆膵外科領域のロボット支援下・腹腔鏡下手術】 肝臓 肝離断法 ロボット支援下肝切除術におけるクランプクラッシュ法. *外科* 2024 ; 86(12) : 1278-1281
14. 新田 浩幸. 人医療における肝疾患に対する外科治療の進歩 ここまできたぞ肝切除. *動物臨床医学会年次大会プロシーディング* 2024 ; 45(1) : 170-176
15. 新田 浩幸. 肝疾患に対する外科治療の進歩. *岩手医学雑誌* 2024 ; 75(6) : 203-208
16. 石田 和茂. 【乳癌学 2024(下)-最新の診断と治療-】 乳癌の薬物療法 早期 (原発性) 乳癌の治療戦略. *日本臨床* 2024 ; 82(7) : 7-13
17. 佐々木 章. 高度肥満症の治療. *日本臨床栄養学会雑誌* 2024 ; 46(4) : 178-184

著 書

1. 佐々木 章. 消化器外科における止血剤の使い分け. (株) 技術情報協会 生体吸収性外科材料の使い方と新しい材料の有用性 2024 ; 1(1) : 166-170
2. 佐々木 章. 減量・代謝改善手術の手術適応基準. 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024 2024 ; 1(1) : 16-18
3. 鈴木 信. 第 6 章小児肥満症 2 手術適応基準と術式 (2) 術式. 減量・代謝改善手術のための包括的な肥満症治療ガイドライン 2024 2024 ; 1(1) : 164

国際学会発表

37th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, Japan Chapter, Sapporo, 2024/05/16 ~ 05/17

1. Kikuchi K, Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Sasaki A, Suzuki M, Fujino J. Difficulty predictors of laparoscopic hepatectomy for posterior sector tumors. Oral Session
 2. Kumagai H, Umemura A, Tanahashi Y, Iwasaki T, Fujino J, Suzuki M, Katagiri H, Nitta H, Sasaki A. Therapeutic Effect of Laparoscopic Sleeve Gastrectomy for Japanese Severely Obese Patients Complicated by Hypertension: A Validation Study. Oral Session
 3. Jyo A, Nitta H, Umemura A, Katagiri H, Kannno S, Ando T, Amano S, Sasaki A. A case of long-term survival after multimodal treatments for a primary neuroendocrine tumor of the bile duct. Oral Session
- * Sasaki A. Lecture 1. Chair

32rd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery, Maastricht, The Netherlands, 2024/06/11 ~ 06/14

1. Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kikuchi K, Sasaki A. Preparation and Management for Control of Bleeding in Laparoscopic Parenchymal-Sparing Hepatectomy for Lesions with Proximity to Major Vessels in Posterosuperior Liver Segments 7 and 8. Oral Session
2. Kikuchi K, Katagiri H, Nitta H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Sasaki A. Is the pure laparoscopic hepatectomy in liver segments 7 and 8 safe?. Oral Session

ELSA 2024 Congress, Bali, 2024/08/14 ~ 08/17

1. Sasaki N, Yaegashi M, Segawa T, Iwasaki T, Shimooki M, Kotohata Y, Umemura A, Katagiri H, Nitta H, Sasaki A. Outcomes of laparoscopic surgery for colovesical fistula associated with sigmoid diverticulitis. Poster Presentation
2. Fujisawa R, Baba S, Nikai H, Kumagai H, Yaegashi M, Fujino J, Umemura A, Katagiri H, Suzuki M, Koeda K, Nitta H, Sasaki A. Introducing the double-flap technique for gastric cancer in the proximal gastrectomy, Poster Presentation
3. Takeda D, Nitta H, Katagiri H, Umemura A, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Kikuchi K, Sasaki. Robot-assisted distal pancreatectomy with lymph node dissection for pancreatic tumors. Oral Presentation

IFSO MELBOURNE 2024, Australia, 2024/09/03 ~ 09/06

1. Umemura A, Sasaki A, Kumagai H, Tanahashi Y, Iwasaki T, Nitta H. Changes in left ventricular parameters after laparoscopic sleeve gastrectomy in patients with severe obesity. Concurrent Session

ILLS single Topic Conference in Kyoto2024, Kyoto, 2024/10/01 ~ 10/02

- * Nitta H. Satellite Seminar7 Applying 3D Image to MIS for Liver Resection. Chair

Asian Transplantation Week 2024, Korea, 2024/11/14 ~ 11/16

1. Kawashima T. A case of thrombotic micro angioplasty developed by a chronic course in LDLT. E-poster Exhibition

国内学会発表

日本消化器病学会東北支部第 216 回例会, 仙台, 2024/02/03

1. 片桐 弘勝. 肝癌に対するロボット手術. ランチョンセミナー
2. 八重樫 瑞典, 岩谷 岳, 新田 浩幸, 佐々木 章. 大腸癌に対する ctDNA モニタリングを用いた臨床応用の最前線. シンポジウム
3. 畠山 瑞生, 石橋 正久, 有末 篤弘, 新田 浩幸. 胆嚢癌との鑑別に苦慮し腹腔鏡下肝床部切除を施行した黄色肉芽腫性胆嚢炎の 2 例. 特別企画

第 25 回 Needlescopic Surgery Meeting, 大阪, 2024/02/03

- * 鈴木 信. 主題 4 小児外科領域から学ぶ細径鉗子を用いた腹腔鏡手術の有用性. 座長

第 20 回日本消化管学会総会学術集会, 宜野湾, 2024/02/09 ~ 02/10

1. 梅邑 晃, 佐々木 章. 肥満症外科治療センター開設とチーム医療の成熟化による減量・代謝改善手術患者の集約. シンポジウム

第 41 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 横浜, 2024/02/09 ~ 02/10

1. 八重樫 瑞典. 当科における一時的回腸人工肛門造設後の outlet obstruction に対する周術期対策. ワークショップ

第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 横浜, 2024/02/15 ~ 02/16

1. 有末 篤弘. 長期中心静脈栄養療法中の鉄不足に対するカルボキシマルトース第二鉄注射液の使用経験. 一般口演
2. 梅邑 晃. 非アルコール性脂肪性肝炎合併高度肥満症患者の減量・代謝改善手術前後の 血中ケトン体と治療効果の関連. フェローシップ応募者セッション

第 96 回日本胃癌学会総会, 京都, 2024/02/28 ~ 03/01

1. 遠野 千尋, 高橋 真人, 嶋田 拓明, 佐々木 秀策, 藤井 仁志, 皆川 幸洋. ニボルマブ療法が著効した Stage4B 胃癌の 1 例. 一般口演
2. 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. ロボット支援腹腔鏡下胃全摘術と腹腔鏡下胃全摘の短期手術成績の比較. 一般口演
3. 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 杉本 亮, 藤澤 良介, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 18 か月の生存が得られた胃絨毛癌術後早期再発の一例. 一般口演
4. 高橋 真人, 佐々木 秀策, 嶋田 拓明, 藤井 仁志, 遠野 千尋, 二階 春香, 馬場 誠朗. 胃癌腹膜播種再発・癌性腹水に対して Nivolumab が長期奏効した一例. 一般口演

第 60 回日本腹部救急医学会総会, 北九州, 2024/03/21 ~ 03/22

- * 梅邑 晃. 一般演題 70 小腸・腸重積. 司会
- * 佐々木 章. 一般演題 70 小腸・腸重積. コメンテーター

第 113 回日本病理学会総会, 名古屋, 2024/03/28 ~ 03/30

1. 伊藤 一洋, 杉本 亮, 刑部 光正, 鳥谷 洋右, 上杉 憲幸, 佐藤 孝, 佐々木 章, 松本 主之, 菅井 有, 柳川 直樹. 自己免疫性胃炎を背景に発生した幽門腺腺腫の一例. ポスター

第 124 回 日本外科学会定期学術集会, 常滑, 2024/04/18 ~ 04/20

1. 藤野 順子, 田金 恵, 小山 亮太, 石田 和茂, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院にて外科的治療介入を行った 18 トリソミー症例の検討. 一般口演
2. 熊谷 秀基, 梅邑 晃, 高橋 真人, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 高血圧症を合併した高度肥満症患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療効果と EMILIN-1 との関連. ポスター
3. 口田 脩太, 弘勝 片桐, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 鈴木 信, 佐々木 章. 肝移植患者における HIF-PH 阻害薬の腎保護効果. ポスター
4. 新田 浩幸. State of Art ~持続可能な肝切除~. ランチョンセミナー
5. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. 高齢者における脾癌の集学的治療. ポスター
6. 清川 真緒, 天野 総, 橋元 麻生, 松井 雄介, 石田 和茂, 佐々木 章. OncotypeDX における再発スコアと臨床的因子の検討. ポスター
7. 大塚 観喜, 八重樫 瑞典, 岩崎 崇文, 菅野 正紀, 畑中 智貴, 佐々木 教之, 高清水 清治, 馬場 誠朗, 石田 和茂, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 藤野 順子, 鈴木 信, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 佐々木 章. 切除不能大腸癌に対する化学療法中の ctDNA モニタリング. ワークショップ
8. 棚橋 洋太, 佐々木 章, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の縦隔内臓脂肪量の変化と呼吸機能の関連. ポスター
9. 天野 総, 石田 和茂, 清川 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 小松 英明, 佐々木 章. 当科におけるセンチネルリンパ節転移陽性症例に対する腋窩リンパ節郭清省略の検討. ポスター
10. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 熊谷 秀基, 秋山 有史, 高橋 真人, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 食道癌に対するロボット支援胸腔鏡下食道切除術の手術成績と短期予後に関する検討. ポスター
11. 二階 春香, 馬場 誠朗, 秋山 有史, 藤澤 良介, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 肥田 圭介, 佐々木 章. 当院における高齢者切除不能進行・再発胃癌の化学療法の検討. サージカルフォーラム

12. 二村 学, 飯原 大稔, 坂東 裕子, 川口 順敬, 水野 豊, 村上 朱里, 河合 賢朗, 石田 和茂, 竹内 賢, 石原 和浩, 中田 琢巳, 小木曾 敦子, 小島 康幸, 本多 博, 丹羽 好美, 徳丸 剛久, 森 龍太郎, 下川 元継, 松橋 延壽. 乳癌患者におけるトラスツズマブデルクステカン誘発悪心・嘔吐に対する最適制吐対策確立を目的とした非盲検無作為化多施設共同探索的Ⅱ相試験. サージカルフォーラム
13. 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤井 祐輔, 高橋 真人, 藤澤 良介, 菅野 正紀, 熊谷 秀基, 西山 一成, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 秋山 有史, 新田 浩幸, 西村 行秀, 佐々木 章. 食道癌に対する術前化学療法中のリハビリテーション治療の効果. ポスター
14. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 二階 春香, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 高頻度栄養指導が減量・代謝改善手術患者に対する術後体重減少に及ぼす影響. ポスター
15. 畠山 瑞生, 石橋 正久, 有末 篤弘, 新田 浩幸, 佐々木 章. 高齢者大腸癌肝転移に対する肝切除術の治療成績. ポスター
16. 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 大塚 観喜, 岩崎 崇文, 菅野 正紀, 遠藤 史隆, 岩谷 岳, 西塚 哲, 梅邑 晃, 石田 和茂, 馬場 誠朗, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当院における大腸癌に対する遺伝子パネル検査後の ctDNA モニタリングへの応用. ワークショップ
17. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 口田 脩太, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 石田 和茂, 鈴木 信, 佐々木 章. 審査腹腔鏡がもたらす脾臓癌治療の可能性. ポスター
18. 木村 拓, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 口田 脩太, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 鈴木 信, 佐々木 章. スコピストの巧拙が腹腔鏡下肝切除術の周術期手術成績に及ぼす影響. ポスター
19. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 石田 和茂, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 地方都市における新生児内視鏡外科手術の現状と今後の在り方. シンポジウム
- * 佐々木 章. サージカルフォーラム 18 食道・悪性. 司会
- * 新田 浩幸. シンポジウム 17 侵襲肝切除の適応拡大に向けた将来展望. 司会

第 110 回日本消化器病学会総会, 徳島, 2024/05/09 ~ 05/11

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 新田 浩幸. NASH 合併高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術による NASH の病理組織学的改善効果とオミックス解析の結果から見た今後の展望. シンポジウム
2. 有末 篤弘, 野田 宏伸, 藤澤 健太郎, 玉澤 佳之, 石橋 正久, 畠山 瑞生. 急激な進行の経過をたどった小腸癌の 1 例. 一般口演

第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京, 2024/05/17 ~ 05/19

1. 渡邊 康弘, 山口 崇, 齋木 厚人, 佐々木 章, 内藤 剛, 松原 久裕, 横手 幸太郎, 岡住 慎一, 卯木 智, 山本 寛, 太田 正之, 石垣 泰, 笠間 和典, 関 洋介, 辻野 元祥, 白井 厚治, 宮崎 安弘, 正木 孝幸, 永山 大二, 龍野 一郎. 日本人高齢者肥満症に対するスリープ状胃切除術の成績 (J-SMART 研究サブ解析). 一般口演

第 22 回日本ヘルニア学会学術集会, 新潟, 2024/05/24 ~ 05/25

1. 口田 脩太, 梅邑 晃, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. 当教室における hybrid IPOM plus の手術手技とその適応. サージカルフォーラム
2. 石橋 正久, 畠山 瑞生, 有末 篤弘. 閉鎖孔ヘルニア嵌頓に対する緊急手術においてメッシュ留置は可能か?. ワークショップ
3. 菊地 晃司, 小川 雅彰. 巨大鼠径ヘルニア嵌頓術後に陰嚢内血腫を来した 1 例. ポスター
4. 木村 拓, 梅邑 晃, 口田 脩太, 川島 到真, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 菅野 将史, 新田 浩幸, 佐々木 章. TAPP 法における腹膜閉鎖時の縫合針直針化の有用性. 一般口演
5. 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 新田 浩幸, 佐々木 章. 特定機能病院におけるヘルニア手術後の術後安静の現状. ワークショップ
6. 梅邑 晃. スプレー式癒着防止材がアシストする低侵襲ヘルニア手術. ランチョンセミナー
7. 梅邑 晃, 須藤 隆之, 川村 英伸, 藤原 久貴, 天野 怜, 口田 脩太, 川島 到真, 新田 浩幸, 佐々木 章. 傍ストーマヘルニアに対する治療戦略 ~臨機応変なテーラーメイド修復術を目指して~. ビデオシンポジウム
8. 川島 到真, 口田 脩太, 木村 拓, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 鼠径ヘルニアに対する Tapp 法と Kugel 法の手術記録. 特別企画
- * 梅邑 晃. ワークショップ 3 術後の安静期間について: 1 週間安静に意味はあるか. 司会

第 61 回日本小児外科学会学術集会, 福岡, 2024/05/29 ~ 05/31

1. 小山 亮太, 田金 恵, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 若手小児外科医の視点から考察した小児内視鏡外科修練. ワークショップ
2. 藤野 順子, 神田 恒, 岡崎 英人, 菊地 健太, 五十嵐 昭宏, 長谷川 真理子, 重田 孝信, 畑中 政博, 土岡 丘. 小児複雑性虫垂炎における術前因子の検討. 一般口演
3. 井原 欣幸, 納屋 樹, 八尋 光晴, 筒野 喬, 小川 祥子, 近藤 靖浩, 竹添 豊志子, 出家 亨一, 川嶋 寛, 水田 耕一. 胆道閉鎖症術後症例の栄養評価と肝移植周術期 Nutritional Management. 要望演題
4. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 大串 健二郎, 大竹 紗弥香, 藤野 順子, 佐々木 章. 気膀胱下膀胱尿管新吻合術における要点と盲点. 一般口演
- * 鈴木 信. ポスター 1-09 腫瘍. 座長

第 49 回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2024/06/05 ~ 06/07

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術における手術手技と成績. シンポジウム

2. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術による閉塞型睡眠時無呼吸と高血圧の改善効果の関連. ワークショップ

* 新田 浩幸. ワークショップ 6 肝切除におけるナビゲーションの展開. 司会

* 佐々木 章. ワークショップ 7 減量・代謝改善手術の現状と未来. 司会

第 42 回日本肝移植学会学術集会, 東京, 2024/06/07 ~ 06/08

1. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下ドナー肝切除術の手術手技と成績. パネルディスカッション

2. 井原 欣幸, 甲嶋 洋平, 丸田 亨, 新村 兼康, 岩間 達, 中澤 温子, 市村 香代子, 納屋 樹, 水田 耕一. 当院における小児肝移植後キャリアオーバー症例の移行期支援. 一般口演

第 35 回日本医学会公開フォーラム, 東京, 2024/06/08

1. 佐々木 章. 糖尿病、肥満症診療の進歩と問題点 肥満症に対する外科治療. 特別講演

第 60 回日本小児放射線学会学術集会, 東京, 2024/06/21 ~ 06/22

* 鈴木 信. 一般演題 6 腹部 2・肝胆膵. 座長

第 66 回日本老年医学会学術集, 名古屋, 2024/06/13 ~ 06/15

1. 竹本 稔, 林 愛子, 稲葉 洋介, 田中 智洋, 林 秀樹, 笠間 和典, 齋木 厚人, 佐々木 章, 岡住 慎一, 龍野 一郎. 減量・代謝改善手術の高齢者高度肥満症患者への適応に関する検討 第 3 報. 一般口演

第 36 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 広島, 2024/06/28 ~ 06/29

1. Takeda D, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Kuchida S. Present status and subjects for the future of conversion surgery for UR-LA Pancreatic cancer in our department. Oral

2. Umemura A, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Takeda D, Ando T, Amano S, Sasaki A. Standardization of pure laparoscopic extended cholecystectomy with en-bloc lymphadenectomy of the hepatoduodenal ligament for gallbladder cancers. Video Workshop

3. Amano S, Nitta H, Katagiri H, Kanno S, Umemura A, Takeda D, Ando T, Kawashima T, Kimura T, Sasaki A. The effectiveness of hemostasis treatment using a covered stent for hemorrhage after pancreaticoduodenectomy. Mini-Oral

4. Kanno S, Nitta H, Katagiri H, Umemura A, Takeda D, Ando T, Amano S, Kawashima T, Kimura T, Sasaki A. Treatment Strategies for Pancreatic Cancer in Patients Over 80 Years Old. Oral

5. Kawashima T, Kuchida S, Kimura T, Amano S, Ando T, Takeda D, Umemura A, Kanno S, Katagiri H, Nitta H. The Significance of HALS in Parenchymal-sparing hepatectomy in the S7 and S8 regions. Mini-Oral

* Nitta H. Student & Resident 2. Moderators

第 78 回日本食道学会学術集会, 東京, 2024/07/04 ~ 07/05

1. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 川上 亜紀子, 高橋 真人, 菅野 正紀, 熊谷 秀基, 岩谷 岳, 佐々木 章. 右上肺静脈の破格を伴う進行食道癌に対して ロボット支援下食道切除術を施行した 1 例. 一般口演

第 33 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 水戸, 2024/07/10 ~ 07/12

1. 小山 亮太, 田金 恵, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 尿路結石嵌頓による結石性腎盂腎炎に対し腹腔鏡下切石術を施行した Menkes 病の一男児例. ポスター

* 鈴木 信. ポスター VUR. 座長

第 32 回日本乳癌学会学術総会, 仙台, 2024/07/11 ~ 07/13

1. 松井 雄介, 御供 真吾, 石井 勇吾, 石田 和茂, 天野 総, 橋元 麻生, 清川 真緒, 佐々木 章. 当科における診療看護師の活動について. ポスター

2. 石井 勇吾, 佐々木 章, 石田 和茂, 松井 雄介, 御供 真吾, 天野 総, 橋元 麻生, 清川 真緒. 多発脳転移に対し Bevacizumab+Paclitaxel 療法が奏功し定位放射線治療が可能となった Luminal タイプ乳癌の 1 例. 一般口演

3. 石田 和茂, 岩谷 岳, 天野 総, 佐々木 章. 当科における遺伝子パネル検査の現状と 1 例報告. ポスター

4. 天野 総, 石田 和茂, 石井 勇吾, 對馬 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 柳川 直樹, 佐々木 章. 当院におけるリスク低減乳房切除術の検討. ポスター

第 60 回日本産婦人科・新生児医学会学術集会, 大阪, 2024/07/13 ~ 07/15

1. 小山 亮太, 高澤 慎也, 木暮 さやか, 小泉 亜矢, 京谷 琢治, 丸山 憲一, 西 明. 新生児卵巣嚢胞の予後予測因子としての胎児期嚢胞径の変化についての検討. 論文賞受賞講演

第 79 回日本消化器外科学会総会, 下関, 2024/07/17 ~ 07/19

1. 棚橋 洋太, 梅邑 晃, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 減量代謝改善術後のフォローアップ率や減量効果を維持するための取り組み. 一般口演

2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 口田 脩太, 佐々木 章. Posterosuperior segments の大血管近接病変に対する腹腔鏡下肝実質温存切除術における出血制御の準備と管理. 一般口演

3. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. conversion surgery を目指した UR-LA 膵癌に対する集学的治療の現状と課題. 一般口演
 4. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 他疾患の手術を控えた高度肥満症患者に対するメタボリック サージェリーの意義. 一般口演
 5. 菅野 将史, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡下肝尾状葉切除の 定型化. 一般口演
 6. 新田 浩幸. 肝胆膵外科領域におけるロボット手術と VINCENT の役割. ランチョンセミナー
 7. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 熊谷 秀基, 二階 春香, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸. 非糖尿病高度肥満症患者における減量・代謝改善手術 の血中ケトン体の変化が腎機能へ及ぼす 影響. 一般口演
 8. 安藤 太郎, 新田 浩幸, 口田 脩太, 木村 拓, 天野 怜, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 佐々木 章. ドナー肝切除時における ICG 蛍光法の有用性. 一般口演
 9. 佐々木 章. ミニオーラル (消化器全般・教育). 一般口演
 10. 熊谷 秀基, 佐々木 章, 梅邑 晃, 高橋 真人, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の再発高血圧症に 関連する因子について—5 年間のフォローアップ研究—. 一般口演
- * 新田 浩幸. 一般演題 268 肝臓: ロボット 1. 座長

第 60 回日本移植学会総会, 長崎, 2024/09/12 ~ 09/14

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 異時性多発肝転移を有する肝外 胆管原発神経内分泌腫瘍に対し集学的治療後に生体肝移植を行った 1 例. ポスター
2. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 佐々木 章. Gilbert 症候群の生体肝移植ドナー の経験. ポスター
3. 三井 哲史, 高原 武志, 西村 彰博, 福岡 裕貴, 谷脇 慎一, 内田 雄一郎, 岩間 英明, 小島 正之, 新田 浩幸, 須田 康一. 当院における生体肝 移植ドナー低侵襲手術手技. 要望演題
4. 井原 欣幸, 納屋 樹, 田村 恵美, 新村 兼康, 水田 耕一. 小児における preformed ドナー特異的抗体陽性肝移植の治療戦略. 要望演題

第 46 回日本臨床栄養学会総会・第 45 回日本臨床栄養協会総会 第 22 回大連合大会, 東京, 2024/10/04 ~ 10/06

1. 梅邑 晃, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 周術期栄養管理の理想と実情 - ギャップを埋めることは患者利益に叶うか 考える -. ワークショップ
- * 佐々木 章. 教育講演 10. 司会

第 51 回日本小児栄養消化器肝臓学会, 東京, 2024/10/04 ~ 10/06

1. 井原 欣幸, 出家 享一, 納屋 樹, 田村 恵美, 津坂 翔一, 筒野 喬, 小川 祥子, 近藤 靖浩, 竹添 豊志子, 川嶋 寛, 水田 耕一. 当院の腸管不全 合併肝障害 (IFALD) 症例の 検討と栄養 Management. 一般口演

第 60 回日本赤十字社医学会総会, 仙台, 2024/10/17 ~ 10/18

- * 佐々木 智子. 研修医症例発表 II. 座長

第 45 回日本肥満学会・第 42 回日本肥満症治療学会学術集, 横浜, 2024/10/19 ~ 10/20

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 石垣 泰, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術から還元する多角的な病態 メカニズムの検討と今後の展望. ワークショップ
 2. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 川島 到真, 須藤 佑介, 徐 光仁, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術による MALSD の治療効果を多角的に捉えることの重要性. シンポジウム
 3. 棚橋 洋太, 梅邑 晃, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 術前減量におけるマジンドールの効果. 一般口演
 4. 佐々木 章. 日本肥満症治療学会の課題と未来を考える. JSTO 理事長提言
 5. 宮崎 安弘, 太田 正之, 北浜 誠一, 関 洋介, 稲嶺 進, 大城 崇司, 長尾 吉泰, 畑尾 史彦, 折田 創, 佐々木 章, 香川 俊輔, 山口 剛, 會津 恵司, 早田 啓治, 遠藤 裕一, 笠間 和典, 龍野 一郎. 減量・代謝改善手術後に COVID-19 に感染した患者の感染率ならびに重症化率の検討. 一般口演
 6. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 二階 春香. 高度肥満症患者における減量・代謝改善手術の血中ケトン体の変化が腎機能 へ及ぼす影響. 一般口演
- * 佐々木 章. JSTO 総会・学会賞・川村賞受賞式 受賞講演. 座長
- * 佐々木 章. 日本肝臓学会・日本肥満症治療学会・日本肥満学会 合同シンポジウム MASLD に対する病態理解と集学的治療戦略. 座長
- * 佐々木 章. JSTO シンポジウム 1 減量・代謝改善手術の新しい日本肥満症治療学会ガイドライン. 座長

第 62 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2024/10/24 ~ 10/26

- * 新田 浩幸. 一般口演 16 肝 (HCC 手術). 座長

第 40 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 東京, 2024/10/26

1. 藤野 順子, 田金 恵, 小山 亮太, 有末 篤弘, 鈴木 信, 佐々木 章. 小児外科医療集約化の現状と取り組み. シンポジウム
2. 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 井原 欣幸, 鈴木 信, 佐々木 晃. 外科医不足と専門医制度. シンポジウム

第 32 回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2024 KOBE), 神戸, 2024/10/31 ~ 11/03

1. 梅邑 晃, 佐々木 章, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 新田 浩幸. 高度肥満症患者に対する減量・代謝改善手術前後の口腔内細菌叢変化と代謝改善効果の関連. デジタルポスター
 2. 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 高橋 真人, 熊谷 秀基, 遠藤 史隆, 梅村 晃, 片桐 弘勝, 岩谷 岳, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 教室における切除不能進行・再発胃癌に対する 2 次治療の検討. ポスター
 3. 棚橋 洋太, 佐々木 章, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸. 減量・代謝改善手術前後の GLP-1/GIP の推移と減量・代謝改善効果との関連. ポスター
 4. 岩崎 崇文, 佐々木 章, 梅邑 晃, 熊谷 秀基, 棚橋 洋太, 二階 春香, 新田 浩幸. 2 型糖尿病合併高度肥満症患者の減量・代謝改善手術による血中ケトン体の変化と治療効果との関連. ポスター
- * 新田 浩幸. デジタルポスターセッション外 099(消化器外科学会). 座長
- * 梅邑 晃. ハンズオンセミナー 7 (②腹腔鏡下嚢摘出術). インストラクター

第 86 回日本臨床外科学会学術集会, 宇都宮, 2024/11/21 ~ 11/23

1. 有末 篤弘, 畠山 瑞生, 石橋 正久. へき地医療における当院外科の役割. 一般口演
 2. 藤野 順子. 高次医療機関としての大学病院小児外科の地域医療支援体制. 一般口演
 3. 菊地 晃司, 小川 雅彰, 佐々木 章. レゴラフェニブにて画像上完全奏功を得た上行結腸癌多発性肺転移の 1 例. 一般口演
 4. 下沖 美里, 八重樫 瑞典, 琴畑 洋介, 岩崎 崇文, 瀬川 武紀, 佐々木 教之, 石田 和茂, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 上行結腸・回腸での人工肛門重積脱出嵌頓をきたしたクローン病の一例. 一般口演
- * 佐々木 章. シンポジウム 3 減量・代謝改善手術の進化と展望. 司会
- * 石田 和茂. 一般演題 (口演)107 乳腺: 悪性疾患 (化学療法なし)1. 座長
- * 馬場 誠朗. 一般演題 (口演)86 胃癌: 薬物療法. 座長
- * 八重樫 瑞典. デジタルポスター (ミニオーラル)15 稀な大腸癌. 座長

第 37 回日本内視鏡外科学会総会, 福岡, 2024/12/05 ~ 12/07

1. 口田 脩太, 菅野 将史, 松尾 鉄平, 直島 君成, 箱崎 将規. 腹腔鏡下に治癒しえた盲腸後窩ヘルニア嵌頓の 1 例. 一般口演
 2. 小山 亮太, 田金 恵, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 当科における腹腔鏡補助下胃瘻造設術の術式とその教育. 一般口演
 3. 藤野 順子, 田金 恵, 小山 亮太, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 新生児卵巣嚢胞に対する腹腔鏡下手術. 一般口演
 4. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 棚橋 洋太, 菅野 正紀, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 胃粘膜下腫瘍に対する非穿孔式内視鏡的壁内反切除術の導入経験. 一般口演
 5. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. パネルディスカッション 32 「小児内視鏡外科手術 どうやって学びましたか?」内視鏡外科手術手技習得までの道のり. パネルディスカッション
 6. 菊地 晃司, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 佐々木 章. ロボット支援下肝切除術における clamp-crush techniques と成績. ワークショップ
 7. 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 岩崎 崇史, 琴畑 洋介, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下大腸癌手術における血管処理と腸管間膜処理時の超音波凝固切開装置の使い方. ワークショップ
 8. 琴畑 洋介, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 岩崎 崇文, 下沖 美里, 石田 和茂, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 井原 欣幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 盲腸 GIST に対して腹腔鏡下回盲部切除術を施行した 1 例. ミニオーラル
 9. 川島 到真. メッシュプラグを用いた腹腔鏡下閉鎖孔ヘルニア修復術の短期治療成績. 一般口演
- * 佐々木 章. パネルディスカッション 17 高度肥満症に対する外科的治療の将来展望. 司会
- * 鈴木 信. 一般演題 (口演)52. 座長

第 66 回日本小児血液・がん学会学術集会, 京都, 2024/12/13 ~ 12/15

1. 鈴木 信, 大串 健二郎, 大竹 紗弥香, 大和 玄季, 滝沢 琢己, 佐伯 浩司, 調 憲. 脾臓房細胞癌の一小児例. 一般口演

講演会・研究会・セミナー

Lilly Breast Cancer Web Seminar in Iwate, 盛岡, 2024/01/31

1. 石田 和茂. まだ怖いですか!? CDK4/6 阻害剤 ～そろそろアップデートしておきますか～. 招待講演

第 8 回 Liquid Biopsy 研究会, 東京, 2024/02/02 ～ 02/03

1. 大塚 観喜, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 遠藤 史隆, 開 勇人, 阿保 亜紀子, 岩谷 岳, 西塚 哲, 新田 浩幸, 佐々木 章. Circulating tumor DNA monitoring of colorectal cancer with minimal metastases using Digital PCR. 一般口演

日本消化器病学会東北支部第 216 回例会, 仙台, 2024/02/03

- * 梅邑 晃. 一般演題 大腸 2. 座長
- * 梅邑 晃. 日本消化器病学会東北支部第 25 回専門医セミナー『肥満症と肥満関連疾患に対する治療の最前線』. 座長
- * 二階 春香. 一般演題 胃・十二指腸. 座長
- * 佐々木 章. ランチョンセミナー 継往開来 ～低侵襲肝胆脾手術の歩みとこれから～. 司会

Lilly Gastric Cancer Web Seminar in Iwate, Web 開催, 2024/02/16

1. 二階 春香. 進行再発胃癌のトータルトリートメントを考察する. 一般口演
- * 馬場 誠朗. 進行再発胃癌のトータルトリートメントを考察する. 司会
- * 馬場 誠朗. 進行再発胃癌の Best Sequence ～実臨床で大事なことは～. 座長

BTC Expert Seminar in Iwate, 盛岡, 2024/02/19

1. 武田 大樹. 当科の治療切除不能胆道癌に対する治療経験～TOPAZ-1 レジメンを使用した 1 年を振り返って～. パネリスト

第 21 回日本乳癌学会東北地方会, 仙台, 2024/03/01 ～ 03/02

1. 天野 総, 石田 和茂, 石井 勇吾, 對馬 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 佐々木 章. 植皮術を要した巨大乳房 Paget 病. 一般口演
2. 松井 雄介, 石井 勇吾, 川上 憂記, 御供 真吾. 当科における診療看護師の活動について. 一般口演
3. 石田 和茂, 石井 勇吾, 清川 真緒, 橋元 麻生, 天野 総, 松井 雄介, 上杉 憲幸, 柳川 直樹, 佐々木 章. 右腋窩に生じた男性副乳癌の 1 例. 一般口演
4. 天野 総, 石田 和茂, 石井 勇吾, 清川 真緒, 橋元 麻生, 松井 雄介, 佐々木 章. 植皮術を要した巨大乳房 Paget 病の一例. 一般口演
5. 天野 総. 教育セミナー. パネリスト
6. 對馬 真緒, 石田 和茂, 下沖 美里, 佐々木 智子, 天野 総, 西成 悠, 大山 健一, 門間 信博, 上杉 憲幸, 佐々木 章. 線維腺腫と浸潤性乳管癌の合併を認めた 1 例. 若手セッション
- * 石田 和茂. 一般演題 6 症例. 座長

Gastric Cancer Expert Seminar in IWATE, 盛岡, 2024/03/15

- * 馬場 誠朗. 一般講演. 座長
- * 馬場 誠朗. 特別講演. 座長

Imfinzi east Japan 1st Anniversary Symposium, 仙台, 2024/03/16

1. 武田 大樹. 胆道癌診療における新たなクリニカルエクステンション～免疫療法＋化学療法登場後の臨床経験からの考察～. パネリスト

第 66 回岩手周産期研究会, 盛岡, 2024/3/23

1. 藤野 順子, 小山 亮太, 鈴木 信. 出生直後から産科退院までに遭遇する小児外科疾患. 特別講演

弘前消化器病研究会, 弘前, 2024/04/23

1. 佐々木 章. 肥満症外科治療の新展開 ～日本肥満症治療学会新ガイドラインと令和 6 年度診療報酬改定を含めて～. 特別講演

第 35 回内視鏡外科フォーラム in 山形, 山形, 2024/05/18

1. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 熊谷 秀基, 八重樫 瑞典, 藤野 順子, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術における観音開き法による再建の導入. セッション
2. 棚橋 洋太, 梅邑 晃, 岩崎 崇文, 熊谷 秀基, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 高度肥満患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術術後の左室の変化と代謝関連パラメーターの関係. セッション
3. 川島 到真, 木村 拓, 天野 怜, 安藤 太郎, 武田 大樹, 梅邑 晃, 菅野 将史, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. S7,S8 領域の Parenchyma-sparing hepatectomy における HALS の意義について. セッション
- * 梅邑 晃. モーニングセミナー クオリティとコストを追求した TAPP 手技～マイクロライン剪刀と VIO3 を用いて～. 司会

Colorectal Cancer Surgeons Open Seminar, 仙台, 2024/05/21

1. 八重樫 瑞典. 大腸癌薬物療法の臨床の悩みどころ. パネリスト

第 15 回肥満症総合治療セミナー, 大阪, 2024/05/25 ～ 05/26

- * 佐々木 章. イブニングセミナー. 座長

岩手県病院薬剤師会研修会 令和 6 年度第 1 回がん・緩和セミナー, Web 開催, 2024/06/04

1. 石田 和茂. 乳癌治療とオラパリブ ～薬医連携を意識して～. 講演

Colorectal Cancer Web Seminar, 盛岡, 2024/06/14

- * 八重樫 瑞典. 進行直腸がんの集学的治療. 司会

第 185 回東北外科集談会, 仙台, 2024/06/15

1. 須藤 佑介, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 小泉 淳一, 八畝 一貴, 田林 東, 迫田 直也, 齋藤 大樹, 金 一, 新田 浩幸, 佐々木 章. 高度肥満症例に対して腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後に冠動脈バイパス術を施行した一例. 一般口演
2. 徐 光仁, 新田 浩幸, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. 上腸間膜動脈由来の総肝動脈が脾頭部内を走行する脾頭部癌に対して脾頭十二指腸切除・門脈合併切除を行った 1 例. 一般口演

東北 LAC 教室, 盛岡, 2024/06/21

- * 八重樫 瑞典. 東北 LAC 教室. 司会

第 19 回岩手 Breast Care カンファレンス, Web 開催, 2024/06/22

1. 石田 和茂. 難しいよね乳癌治療 ～手術が先なの？薬が先なの？～. 講演

第 480 回八戸外科集談会, 八戸, 2024/06/28

1. 馬場 誠朗. 胃癌治療の現状. 特別講演

日本消化器病学会東北支部第 217 回例会, 仙台, 2024/07/05

1. 琴畑 洋介, 佐々木 章, 新田 浩幸, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 下沖 美里. 腹痛を契機に発見された腹腔内線維腫様腫瘍の一例. 一般口演
 2. 志賀 洋城, 平井 みなみ, 永塚 真, 梁井 俊一, 八重樫 瑞典, 柳川 直樹, 佐々木 章, 松本 主之. 縦隔気腫を併発した重症潰瘍性大腸炎の 2 例. 特別企画
 3. 木村 拓, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 徐 光仁, 八重樫 瑞典, 馬場 誠朗, 藤野 順子, 井原 欣幸, 鈴木 信, 岩谷 岳, 佐々木 章. Kasabach-Merritt 症候群合併巨大肝血管腫に対し肝拡大左葉尾状葉切除を施行した一例. 一般口演
 4. 菅野 正紀, 馬場 誠朗, 二階 春香, 藤澤 良介, 棚橋 洋太, 下沖 美里, 佐々木 章. HER2 陽性再発・切除不能胃癌に対するトラスツズマブ・デルクステカンの使用経験. 一般口演
- * 馬場 誠朗. シンポジウム 1 消化管疾患診療: 予後改善にむけた早期診断と治療. 司会
 - * 二階 春香. 一般演題 胃・食道 1. 座長

矢巾町民公開講座, 矢巾, 2024/07/06

1. 八重樫 瑞典. しっかり治す大腸がんの話. 講演

The 11th Summer seminar in Okinawa, 浦添, 2024/07/06

1. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 武田 大樹, 天野 怜, 佐々木 章. Posterosuperior segments の大血管近接病変に対する腹腔鏡下肝切除術における出血制御の準備と管理. セッション
 2. 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 菅野 将史, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. ロボット手術につながる Clamp-Crushing 法による肝実質切離. セッション
 3. 武田 大樹, 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. ロボット支援下脾体尾部切除術の導入期における治療成績からみた今後の展望. 一般口演
- * 新田 浩幸. 一般講演 肝臓①. コメンテーター

第 5 回 MASLD/MASH と糖脂質代謝シンポジウム, 東京, 2024/07/20

1. 佐々木 章. MASLD/MASH に対する減量・代謝改善手術の有用性. 特別講演

市民公開講座 乳房再建を学ぼう!@ 岩手, 盛岡, 2024/07/21

1. 石田 和茂. 乳癌治療から見た乳房再建. 講演

Erbix CRC expert seminar, web, 2024/07/29

1. 八重樫 瑞典. 直腸癌における外科的アプローチ ～局所進行直腸癌～. 講演

11th Reduced Port Surgery Forum in Kanazawa, 金沢, 2024/08/09 ~ 08/10

1. 鈴木 信, 田金 恵, 小山 亮太, 藤野 順子, 井原 欣幸, 佐々木 章. シンポジウム 5 「骨盤内臓器・後腹膜臓器の最小侵襲を極める～領域横断～」小児泌尿器における最小侵襲を極める. シンポジウム
- * 鈴木 信. 一般演題 (口演) 「小児」. 座長
 - * 佐々木 章. ワークショップ 2 デバイスの開発による RPS の再考 & 再興. 座長

第 51 回日本脾切研究会, 奈良, 2024/08/30 ~ 2024/08/31

1. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. PPPD 術後に上腸間膜動静脈瘻を形成した UR-LA 脾頭部癌の 1 例. 要望演題

2. 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 武田 大樹, 佐々木 章. ロボット支援下腓体尾部切除術の定型化と課題. ポスター

* 新田 浩幸. ポスターセッション 2. 座長

肥満症・糖尿病サマーセミナー, Web 開催, 2024/08/31

* 佐々木 章. 肥満症治療の新たな展開. 座長

東北低侵襲胃切除セミナー in IWATE, 盛岡, 2024/08/31

1. 二階 春香. 症例提示 3. 講演

* 馬場 誠朗. ビデオカンファレンス. 座長

Colorectal surgery seminar, 仙台, 2024/09/06

1. 八重樫 瑞典. 当院の大腸癌手術に対する hinotori 導入について. 講演

第 8 回環仙台湾乳腺疾患勉強会, 名取, 2024/09/06

1. 石田 和茂. 高齢者における CDK4/6 阻害剤と薬薬医連携. 講演

第 47 回東北小児外科研究会, 盛岡, 2024/09/13

1. 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 井原 欣幸, 鈴木 信, 佐々木 章. 細径シーリングデバイスを用いた胸腔鏡下肺葉切除術. 一般口演

* 鈴木 信. 特別講演 小児呼吸器・肺疾患に対する外科治療. 座長

* 藤野 順子. 一般演題. 座長

Gastric Cancer Expert Seminar in IWATE, 盛岡, 2024/09/13

* 馬場 誠朗. 胃癌 1 次治療のレジメン選択. 座長

第 186 回東北外科集談会 第 112 回日本胸部外科学会東北地方会 第 44 回日本血管外科学会東北地方会 第 101 回日本小児外科学会東北地方会, 盛岡, 2024/09/14

1. 畠山 瑞生, 石橋 正久, 有末 篤弘. 当科におけるデンバーシャントの短期治療成績. 一般口演

2. 佐々木 智子, 大塚 観喜, 西成 悠, 大山 健一, 岩谷 岳. 大腸癌日常診療における OTS- アッセイを用いた ctDNA モニタリングの意義. 一般口演

3. 有末 篤弘, 畠山 瑞生, 石橋 正久, 水野 大. へき地における小児外科専門医の役割. 一般口演

4. 有末 篤弘, 畠山 瑞生, 石橋 正久. 化学療法が著効した胃神経内分泌癌の 1 例. 一般口演

5. 伊藤 浩平, 葛西 敏史. 当院における蜂刺症の対応. 一般口演

6. 片桐 弘勝. ロボット支援下腓体尾部切除の現況と展望. ランチョンセミナー

7. 三宅 涼太, 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 井原 欣幸, 鈴木 信, 佐々木 章. 胆道閉鎖症術後に非典型的な減黄不良を呈した後天性 サイトメガロウイルス感染症の一例. 一般口演

8. 小林 勇太, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 嶋田 拓明, 新田 浩幸, 佐々木 章. 脂肪肉腫の再発と鑑別が困難であった魚骨による小腸穿通の 1 例. 一般口演

9. 築地 唯, 八重樫 瑞典, 佐々木 教之, 瀬川 武紀, 棚橋 洋太, 岩崎 崇文, 琴畑 洋介, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 肝細胞癌 S 状結腸転移を呈した 1 例. 一般口演

10. 村上 一朗, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 武田 大樹, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 菊地 晃司, 木村 拓, 嶋田 拓明, 新田 浩幸, 佐々木 章. 脾内副脾に生じた上皮性嚢胞の 2 例. 一般口演

11. 石井 勇吾, 御供 真吾, 松井 雄介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 小腸血管腫との鑑別を要した小腸憩室炎出血後の血腫の一例. 一般口演

12. 古谷 周一, 瀬川 武紀, 琴畑 洋介, 岩崎 崇文, 棚橋 洋太, 佐々木 教之, 八重樫 瑞典, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 鈴木 信, 新田 浩幸, 佐々木 章. 蛍光尿管ステント挿入が有効であった S 状結腸憩室炎の 1 例. 一般口演

13. 橋元 麻生, 藤原 久貴, 上杉 憲幸, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腋窩皮膚に生じたエクリン汗孔癌の一例. 一般口演

* 鈴木 信. 【小】小児外科. 座長

* 武田 大樹. 【外】肝胆脾. 座長

* 八重樫 瑞典. 特別企画 2 「ロボット手術までの道のり」. 座長

* 梅邑 晃. 【外】研修医セッション 2. 座長

* 馬場 誠朗. 【外】食道・胃. 座長

* 二階 春香. 特別企画 1 「働き方改革とキャリアパス」. 座長

* 石田 和茂. 【外】学生セッション 2. 座長

* 新田 浩幸. 特別講演 臨床研究から英文論文、そして学会発表へ～どう考えて、どうすればいいのか～. 座長

* 佐々木 教之. 【外】研修医セッション 1. 座長

第 16 回北東北 LAC 情報交換会, 盛岡, 2024/09/21

* 八重樫 瑞典. 第 16 回北東北 LAC 情報交換会. 司会

北東北キャリアパス研究会, 弘前, 2024/09/28

* 佐々木 章. 特別講演 1. 座長

日本消化器病学会東北支部 第 93 回市民公開講座, 盛岡, 2024/09/29

1. 馬場 誠朗. 食道がんの化学療法と外科治療について. 講演

AKITA BConnect in NOSHIRO, Web 開催, 2024/10/01

1. 石田 和茂. 高齢者における CDK4/6 阻害剤と薬薬医連携. 講演

第 46 回関東腹腔鏡下胃切除研究会, 金沢, 2024/10/05

- * 佐々木 章. 肥満手術の新たなステージ: バイパスはゲームチェンジャーとなるか?. 座長

いわてピンクリボンフェスタ, 盛岡, 2024/10/06

1. 石田 和茂. 乳がん 2024 - 気になるコトにお答えします -. 講演

第 34 回日本小児外科 QOL 研究会, 弘前, 2024/10/12

1. 小山 亮太, 田金 恵, 有末 篤弘, 藤野 順子, 鈴木 信, 佐々木 章. 学童期に根治術を施行した Hirschsprung 病 extensive type における長期にわたる人工肛門造設状態がもたらした影響と閉鎖後の経過. 一般口演

みちのく Gastrectomy Team Seminar, 盛岡, 2024/10/12

- * 馬場 誠朗. 特別講演. 座長

胃癌 Web 講演会, Web 開催, 2024/10/18

1. 二階 春香. 当院における切除不能進行再発胃癌の治療成績と今後の治療戦略. 講演
- * 馬場 誠朗. 講演. 座長

Erbitux CRC Expert Seminar, 盛岡, 2024/10/21

1. 八重樫 瑞典. 遠隔転移を伴う大腸癌治療. 講演

MBC Expert Web Forum in 東北, Web 開催, 2024/10/21

1. 石田 和茂. 薬薬医連携の課題と取り組み. 講演

肺癌セミナー in 岩手, 盛岡市, 2024/10/22

1. 武田 大樹. 肺癌治療における審査腹腔鏡の意義. 講演

第 6 回東北・新潟若手乳癌セミナー, 仙台, 2024/11/02

1. 石田 和茂. 高齢者における Abemacicrib の恩恵とマネジメント 乳腺外科医を目指して - 道の途中より -. 講演

第 18 回岩手骨盤外科研究会, 盛岡, 2024/11/08

- * 八重樫 瑞典. 第 18 回岩手骨盤外科研究会 一般演題. 司会

胃がん治療新時代の幕開け ～ヒロイ登場を踏まえて～, 盛岡, 2024/11/08

1. 二階 春香. 当科におけるこれまでの胃癌一次治療の治療成績と今後の治療戦略. 講演
- * 佐々木 章. 胃癌コンパニオン診断における当科の取り組みと現状. 座長
 - * 佐々木 章. 当科におけるこれまでの胃癌一次治療の治療成績と今後の治療戦略. 座長
 - * 馬場 誠朗. 胃がん治療の現状をガイドラインを踏まえた今後の展望. 座長

岩手県北外科集談会, 二戸, 2024/11/14

1. 石田 和茂. ペグフィルグラスチムの意義と乳腺最新事情. 講演

第 54 回胃外科・術後障害研究会, 仙台, 2024/11/15 ~ 11/16

1. 藤澤 良介, 馬場 誠朗, 二階 春香, 下沖 美里, 菅野 正紀, 梅邑 晃, 片桐 弘勝, 肥田 圭介, 新田 浩幸, 佐々木 章. 胃癌に対するロボット支援下噴門側胃切除術の観音開き法再建による術後逆流性食道炎の予防効果. 要望演題
 2. 棚橋 洋太, 梅邑 晃, 岩崎 崇文, 片桐 弘勝, 新田 浩幸, 佐々木 章. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の Intrathoracic sleeve migration が与える影響. 要望演題
- * 佐々木 章. 要望演題 7: 減量・代謝改善手術. 司会

第 18 回肝臓内視鏡外科研究会 第 16 回脾臓内視鏡外科研究会, 宇都宮, 2024/11/20

1. 武田 大樹, 新田 浩幸, 片桐 弘勝, 梅邑 晃, 安藤 太郎, 天野 怜, 川島 到真, 木村 拓, 菊地 晃司, 佐々木 章. hinotori サージカルロボットシステムによるロボット支援下肝切除術の導入経験. 主題演題
- * 新田 浩幸. スポンサーセッション 1 ダビンチ肝切除のバリューと教育. 司会

Gastric Cancer Expert Meeting, 盛岡, 2024/11/25

1. 二階 春香. 胃癌 1 次治療における薬物療法の選択基準とは. パネリスト
- * 馬場 誠朗. 胃癌 1 次治療における薬物療法の選択基準とは. 座長

岩手化学療法セミナー, 盛岡, 2024/11/29

- * 馬場 誠朗. よりよいがん化学療法実践のための連携. 司会

Esophageal Cancer Perioperative Treatment in MORIOKA, Web 開催, 2024/12/02

- * 馬場 誠朗 . ディスカッション . 司会
- * 馬場 誠朗 . 基調講演 . 司会

岩手県「薬薬医連携」講演会, 盛岡, 2024/12/03

1. 石田 和茂 . 『薬薬医連携』における試験的取り組みから見えた意義と課題 . 講演

第 27 回消化器内視鏡外科推進連絡会, 福岡, 2024/12/06

- * 佐々木 章 . オリンパスの将来戦略 . 司会
- * 佐々木 章 . パネルディスカッション 外科手術における AI・デジタル技術の将来像 . 司会

第 16 回東北ヘルニア研究会, 盛岡, 2024/12/21

1. 石橋 正久, 畠山 瑞生, 有末 篤弘 . 当院で施行した TAPP 後の再発性鼠径ヘルニア症例の検討 . 一般口演

岩手医科大学 外科学講座 スタッフ

役 職	名 前	卒業年	診療・研究チーム	認定資格・高度技能医
教 授	佐々木 章	1988	内分泌代謝	JSES 技術認定（食道）消化器外科専門医、 内分泌外科専門医
	新田 浩幸	1993	肝胆膵	JSES 技術認定（肝臓）、JHBPS 高度技能指導医、消化器外科専門医、ロボット支援肝切除術 プロクター、腹腔鏡下移植用部分肝採取術（生体）（外側区域グラフト）プロクター、移植認定医
准 教 授	鈴木 信	2000	小児外科	小児外科専門医、小児泌尿器科専門医、 小児がん認定外科医、新生児認定外科医
	片桐 弘勝	2004	肝胆膵	JHBPS 高度技能専門医、消化器外科専門医、ロボット支援肝切除術 プロクター、ロボット支援脾切除術プロクター、移植認定医
	梅邑 晃	2005	肝胆膵・内分泌代謝	JSES 技術認定（胆道）、消化器外科専門医、移植認定医
講 師	井原 欣幸	1998	肝胆膵	小児外科専門医、新生児認定外科医、肝臓専門医、 移植認定医、小児栄養消化器肝臓認定医
	藤野 順子	1999	小児外科	小児外科専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
	馬場 誠朗	2004	上部消化管	消化器外科専門医
	石田 和茂	2005	乳腺	乳腺専門医
	八重樫瑞典	2009	下部消化管	JSES 技術認定（大腸）、消化器外科専門医、 ロボット支援手術認定プロクター（消化器・一般外科）
助 教	武田 大樹	2008	肝胆膵	消化器外科専門医
	佐々木秀策	2010	救急	
	二階 春香	2011	上部消化管	消化器外科専門医
	安藤 太郎	2012	肝胆膵	消化器外科専門医
	佐々木教之	2012	下部消化管	消化器外科専門医
	天野 怜	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
	瀬川 武紀	2013	下部消化管	消化器外科専門医
	菊地 晃司	2017	肝胆膵	消化器外科専門医
助教(任期付)	石田 馨	2006	救急	
	天野 総	2013	乳腺	乳腺認定医
	川島 到真	2014	肝胆膵	消化器外科専門医
	小山 亮太	2015	小児外科	小児外科専門医、新生児認定外科医
	木村 拓	2017	肝胆膵	消化器外科専門医
	藤澤 良介	2017	上部消化管	
	菅野 正紀	2017		
4 年	棚橋 洋太	2015		
	岩崎 崇文	2018		
	下沖 美里	2019		
3 年	琴畑 洋介	2020		
2 年	嶋田 拓明	2021		
1 年	徐 光仁	2022		
	須藤 佑介	2022		

非常勤医師

非常勤講師	大森 浩明	雫石大森クリニック 院長
	笠原 群生	国立成育医療研究センター 院長
	富澤 勇貴	とみさわ甲状腺・乳腺と日帰り手術のクリニック盛岡 院長
非常勤医師	宇山 一朗	藤田医科大学医学部 先端口ロボット・内視鏡手術学講座 主任教授
	篠原 尚	兵庫医科大学病院 上部消化管外科 主任教授
	島袋 誠守	東京ミッドタウン先端医療研究所 所長
	大塚 幸喜	藤田医科大学医学部 先端口ロボット・内視鏡手術学講座 教授
	長谷川康弘	宮城県立がんセンター 消化器外科 医療部長
	小島 正之	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 講師
	須田 康一	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 主任教授・診療科長
	高原 武志	藤田医科大学医学部 総合消化器外科 教授
	木村 聡元	函館五稜郭病院
	長谷川 康	慶應義塾大学医学部 一般・消化器外科 専任講師
	三ツ井崇司	獨協医科大学埼玉医療センター 外科 講師
	小松 英明	こまつ乳腺クリニック 院長
	菅野 将史	盛岡市立病院
	有末 篤弘	能代厚生医療センター
	外館 幸敏	一般財団法人脳神経疾患研究所附属 総合南東北病院 外科 医長
	松井 雄介	県立二戸病院
	畑中 智貴	県立釜石病院
	中村 侑哉	県立宮古病院
	橋元 麻生	北上済生会病院
	田金 恵	県立釜石病院
	屋成 信吾	八戸赤十字病院
	伊藤 浩平	県立軽米病院
	高橋 真人	県立久慈病院
	川上亜紀子	かづの厚生病院
	佐々木智子	盛岡赤十字病院
	小泉 優香	県立久慈病院
	對馬 真緒	県立千厩病院

お知らせ

第23回日本ヘルニア学会学術集会のお知らせ

川村 英伸（岩手県立宮古病院院長）

この度、第23回日本ヘルニア学会（JHS）学術集会を2025年5月23日（金）・24日（土）に盛岡市アイーナ、マリオスで開催させていただくこととなりました。

日本では年間約15万人が鼠径部ヘルニア手術を受けていますが、鼠径部ヘルニアの術式は、鼠径部切開法、腹腔鏡下手術、ロボット手術へと進化してきています。National Data Base（NDB）による鼠径部切開法と腹腔鏡手術の割合は、腹腔鏡手術が年々増加してきており、2022年には腹腔鏡下手術が半数を超えています。

今回の学会テーマは「二刀流で挑む～合併症軽減と教育～」と致しました。どんなに手術が高度化しても、合併症や再発は少なくすべきですし、それには適切な教育が必要であり、これら2刀を確実に伝承していくことが大切であると信じています。

JHSは国際化を目指しており、今回は2名の海外招聘講演、韓国との合同シンポジウム（5名招待）、若手医師による英語のプレゼンテーションなど、多くの国際交流企画を計画しております。更に、特別講演として老化細胞のご研究で有名な中西真先生（東京大学医科学研究所所長）のご講演や、働き方改革時代のヘルニア外科医の働き方（特に女性医師）など、沢山の興味ある企画を予定しております。若手医師をはじめ、同門の多くの先生方の演題登録をお願い致しますと同時に、是非会場へご参加いただき、ご批判をいただければ幸いに存じます。



第48回日本死の臨床研究会年次大会開催のご挨拶

木村 祐輔

平素より、緩和医療学科の活動に多大なるお力添えを賜り心より御礼申し上げます。この度、『第48回日本死の臨床研究会年次大会』の大会長を務めさせていただくことになりました、緩和医療学科の木村祐輔です。巖刀会の先生方に一言ご挨拶申し上げます。

一般社団法人日本死の臨床研究会は、「死の臨床において生命を脅かす病などの困難に直面する人や家族等にとって最適の援助の道を全人的立場より探求することを通して、人々が死を受け入れ自分らしい人生を全うすることに貢献する」ことを目的に1977年に創立された研究会です。これまで本邦における緩和ケア・ホスピスケアの普及、発展を永年担ってきた会となります。本研究会は、通常の医学会と異なり、製薬企業等からの協賛を頂かず、会費、参加費と寄付金を持って運営する方針を特徴としております。

本大会のテーマを、「“あめゆじゅ”を求め、向き合い、そして支える」とさせていただきました。このテーマに、人生の終焉を歩まれる方の一人ひとりが抱える深い願いに真摯に向き合うことの大切さを込めました。旅立ちを前に苦悩する方々の想いは実に多様であり、何がその方にとっての「真の願い」なのかを探し求め、向き合うことにより初めて、“最適な援助”のあり方への扉を開けることができるのではないかと考えます。“あめゆじゅ”は、宮澤賢治の『永訣の朝』の一節から、“真の願い”の象徴として引用しました。詩の中で、肺病の悪化により死の床にあるトシは、“あめゆじゅとてちてけんじゃ”（雨雪をとってきてください。）と賢治に繰り返し頼みます。息の苦しさと同熱による激しい喉の渇きを癒すための願いだったのでしょう。まさに死を前にした苦しさから放たれた切実な言葉であった筈です。しかしこの言葉は単に身体づらさを和らげるためにのみ発せられたものではありませんでした。この願いを聞いた賢治は一目散に外に出て、空から舞い落ちるみぞれ雪をお椀に懸命に集めようとします。そして賢治は、『死ぬといふいまごろになつて わたくしをいつしやうあかるくするために こんなさつぱりした雪のひとつを お



PPSA-JC 2026 Annual Meeting

The 39th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association - Japan Chapter

佐々木 章

Greeting Message

Dear Friends and Colleagues,

On behalf of the Organizing Committee, it gives us great pleasure to invite you to the 39th Congress of the Pan-Pacific Surgical Association, Japan Chapter (PPSA-JC), to be held in Okinawa, Japan, from February 26 to 28, 2026. I would like to express my sincere appreciation to Professor Naoyuki Kohno, President of PPSA-JC, and the member of the board for giving us this opportunity, which is more than I deserve.

The PPSA-JC found in 1984 by the late Professor Juro Wada to provide young surgeons with an opportunity to present and discuss a wide range of surgical topics in English. This is a unique and valuable opportunity for them to develop global awareness. We expect young surgeons from various fields to attend the conference alongside their mentors. We are confident that it will be an excellent platform for sharing the latest insights, values, experiences, and practices in English and will greatly benefit all participants.

The scientific program of this conference will consist of an invited lecture, a symposium, a Wada Award session, and free papers on significant developments under the theme of "Shape the future of young surgeons -Chasing your dreams-". We encourage young surgeons to pursue the goals and dreams without giving up. We hope this conference will inspire them an opportunity to think about what they should do now to help them achieve their goals.

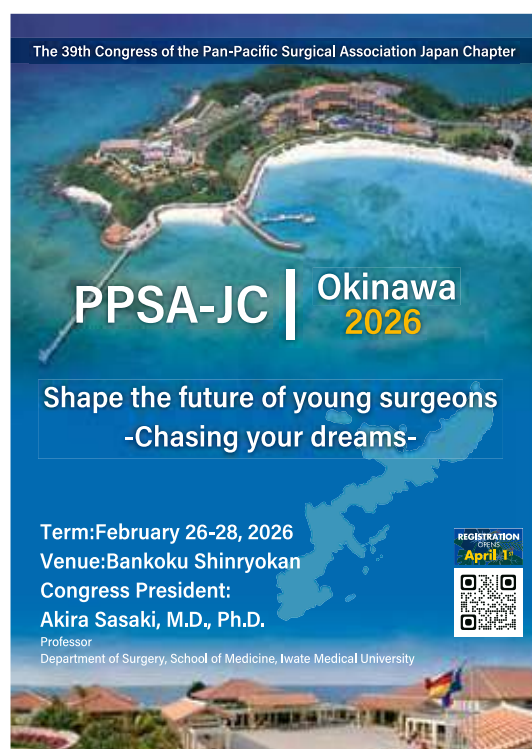
We are delighted to welcome you to Bankoku Shinryokan, which is located Busena Point, one of the most scenic spots in Okinawa, surrounded by a beautiful emerald sea and clear blue sky. We celebrated our auspicious opening by hosting the world's top leaders at the Kyushu-Okinawa G-8 Summit in 2000. Bankoku Shinryokan is a resort-style meeting facility where attendees can relax and enjoy the tropical atmosphere of the southern island. Please enjoy the variety of programs as well as your stay in Okinawa.

Congress President

Akira Sasaki, M.D., Ph.D.

Professor and Chairman

Department of Surgery, School of Medicine, Iwate Medical University



教室年報

岩手医科大学医学部外科学講座

発行年月日／令和 7 年 4 月 24 日

発行責任者／佐々木 章

発 行／岩手医科大学医学部外科学講座同門会

〒028-3695 紫波郡矢巾町医大通 2 丁目 1-1

TEL 019-613-7111 (6220)

FAX 019-907-7344

編 集 者／馬場 誠朗

制 作／有限会社ヤマダプランニング

編 集 後 記

今年も2024年の岩手医科大学外科学講座教室年報を発刊することができました。2019年12月から猛威をふるってきた新型コロナウイルス感染症により、生活は変化し、我々の医療活動にも大きな制限が強いられてきました。そのような状況も、昨年から徐々に緩和されて、以前の生活に戻ってまいりました。本年も多くの先生方よりご寄稿いただき、充実した内容となっております。ご執筆および編集に関わっていただいた皆様に深く感謝いたします。

学会や研究会は現地参加が主体となっており、皆様と交流できる場が増えることを楽しみにしております。

末筆ながら同門会の先生方、ご執筆いただいた先生方、秘書の皆様、ヤマダプランニングの方々、ご協賛いただきました各社の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

編集委員長 馬場 誠朗

表 紙 の 説 明

報恩寺の山門

五百羅漢で有名な報恩寺は盛岡市街の北東（名須川町）に鎮座する曹洞宗の寺院で、指定有形文化財です。山門には十二支が彫られており、今年の巳は正面にあります。入り口の羽目板には、架空の生物「麒麟」が彫られています。



